

Contents

オペラ芸術監督 大野和士	2
<hr/>	
2026/2027シーズン オペラ ラインアップ	4
イタリアのトルコ人	5
ピーター・グライムズ	10
フィガロの結婚	17
トスカ	23
サロメ	28
カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師	33
ばらの騎士	39
ファルスタッフ	46
エフゲニー・オネーギン	52
マクベス	57
<hr/>	
令和8年度公演	63
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2026 (新国立劇場公演)	
愛の妙薬	64
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2026 (ロームシアター京都公演)	
蝶々夫人	66
新国立劇場 地域招聘オペラ公演2026 びわ湖ホール 森は生きている	68
<hr/>	
公演一覧 (1997.10～2026.6)	70

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性がございます。
何卒ご承知おきください。

2026/2027シーズン オペラ オペラ芸術監督 大野和士



オペラを愛するすべての皆様へ

2026/2027シーズンは新制作を3作品お届けできることとなりました。新制作作品は、ロッシーニ『イタリアのトルコ人』、ブリテン『ピーター・グライムズ』、そしてヴェルディ『マクベス』の3本です。

シーズンオープニングは『イタリアのトルコ人』で飾ります。テアトロ・レアル、リヨン歌劇場との共同制作で2023年にマドリードで初演されたプロダクションです。何人の大人が絡んだ恋愛のドタバタ劇に、ロッシーニは優美で気の利いたアリア、二重唱、三重唱、そして壮大なスケールのフィナーレを与えて、魅力的なオペラに仕上げました。上演の機会が多くない作品ですので、ぜひお見逃しのないようご覧ください。

演出はロラン・ペリー。新国立劇場では『ジュリオ・チェザレ』でのエジプトの博物館を舞台にした名プロダクションをご記憶の方も多いと思います。彼は常に私達におしゃれで少しスパイシーな舞台を届けてくれます。指揮はイタリアの俊英アレッサンドロ・ボナートが新国立劇場初登場です。24/25シーズン開幕公演『夢遊病の女』アミーナで新国立劇場に急遽デビューした新星クラウディア・ムスキオがフィオリッラで再登場。彼女のチャーミングで明るい存在感をより印象づける役になるでしょう。トルコ王子セリムには世界的歌手を輩出する国ジョージア出身のマノシュヴィリ、さらにボルドーニャ、ガティン、タッディアと、ロッシーニにはこの上ない顔ぶれが揃いました。

11月にはブリテンの傑作『ピーター・グライムズ』を上演します。幼少期から音楽を学んだブリテンはショスタコーヴィチやシェーンベルクに影響を受ける中で、特にアルバン・ベルクに師事したいという希望を持っていました。ブリテンのその後の手法、オペラで人間の心理の奥底を描くスタイルには、ベルクと共に通した姿勢が見られます。漁師ピーター・グライムズはあまりの実直さのために誤解され、社会から疎外されますが、第2幕、第3幕では、グライムズを愚弄していた人々が逆に病んでいることが示されます。その前後に合唱とオーケストラで奏でられる波のような音楽は、この問題が、時代が巡っても変

わらない人間普遍のテーマであることを暗示しています。

現代の巨匠ロバート・カーセンのプロダクションは、2023年のスカラ座での初演で話題を呼んだものです。主役のピーター・グライムズにはスカラ座公演でこの役を歌った世界的テノール、ブランドン・ジョヴァノヴィッチ、エレンには英国が誇るソプラノ、サリー・マシューズを迎え、邦人キャストにも歌唱、演技ともに長けた個性豊かな歌手陣を揃えました。また、この作品での合唱の存在意義は大きく、新国立劇場合唱団の登場場面にもご注目ください。

シーズン締め括りはヴェルディ『マクベス』です。自身「シェイクスピアの傑作を元とするため、決して失敗はしないだろう」と語ったというヴェルディ初期の自信作で、マクベス夫人が「今夜ダンカン王を殺すのだ」と強力な声で夫を促す決意を述べる圧倒的なアリアと突き上げるようなオーケストラの響きは、ドラマ性の異次元的拡大と言ってよいでしょう。マクベスが数々の殺人を犯した後、その亡靈に苛まれて絞り出す恐れに憑かれた歌唱とオーケストラのおどろおどろしい響きの取り合はせは深い心理描写に満ち、ヴェルディの新たなフェーズの到来を告げているかのようです。演出のロレンツォ・マリアーニがその世界をいかに舞台の上に実現するのか、興味の尽きないところです。

指揮はイタリアの名匠カルロ・リッツィ。完璧な人選と言わざるを得ません。タイトルロールは近年この役で絶賛を受けたエルネスト・ペッティ、『恐妻』マクベス夫人にはイタリアで評価を高めるカレン・ガルデアサバル、マクベスの手にかかるバンクォーを妻屋秀和、マクベスに反旗を翻すマクダフにイタリアの新星パリーデ・カタルドという万全のキャスティングです。またこのオペラでも、我が新国立劇場合唱団の実力がいかんなく発揮されることでしょう。

レパートリー公演は新国立劇場の人気作を揃え、話題の指揮者、キャストをご紹介します。

『フィガロの結婚』は、指揮者、キャストとも全員日本人でお届けします。指揮は長年ドイツの劇場で活躍し、オペラを知り尽くす阪哲朗。フィガロには、ドイツを拠点に活躍中で、今回新国立劇場初登場となる木村善明。アルマヴィーヴァ伯爵には須藤慎吾、伯爵夫人に待望の本公演登場となる実力派吉田珠代、スザンナには九嶋香奈枝、そしてケルビーノには『ナターシャ』アラトで新国立劇場にデビューした山下裕賀。演技も巧みな歌役者たちと巻き起こす闘争舞台をお楽しみください。

『トスカ』は新国立劇場が誇るマダウ=ディアツのプロダクション。ローマの教会が、宮殿の執務室が、そしてローマの街を見下ろす天使像がそこにあるかのような写実的で重厚な舞台が人気です。指揮はベテラン、ドナート・レンツェッティ。初

登場のソプラノ、カルメン・ジャンナッタージョをタイトルロールに迎えます。『愛の妙薬』ネモリーノ、『セビリアの理髪師』フィガロでそれぞれコミカルな魅力をふりまいたサイミール・ピルグ、ダリボール・イエニスが、カヴァラドッシとスカルピアとして対峙します。

赤銅色のテントが象徴的なエフアーディング演出『サロメ』の指揮は、ワーグナーやR.シュトラウスに熱意を注ぐ日本有数のオペラ指揮者、沼尻竜典。来る26年6月に私の指揮で『エレクトラ』クリソテミスを歌うヘドヴィク・ハウゲルドがサロメを、23年公演でサロメを歌ったばかりのアレクサンドリー・ペンダチャンスカが今回ヘロディアスを歌うことも話題となるでしょう。そして20年藤倉大作曲『アルマゲドンの夢』で主役クーパーを務めたピーター・タンジツがヘロデを歌うことも私自身大変楽しみです。

3月には私の指揮でヴェリズモ・オペラの二大傑作『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』を取り上げます。ジルベル・デフロ演出、13年ぶりの上演です。25/26シーズン『ラ・ボエーム』で来日したルチアーノ・ガンチ、マッシモ・カヴァレッティがトゥリッドウ、トニオとして戻ってきます。さらに、キアラ・モジーニのサントウツア、ロベルト・アロニカのカニオ、中村恵理のネッダと贅沢なキャストを揃えました。25年11月『ヴォツェック』で急遽代役として主役を歌い切り、衝撃的な印象を残した駒田敏章がシルヴィオで登場するのも楽しみのひとつです。

4月は名匠ジョナサン・ミラーの遺した美しい舞台『ばらの騎士』をご覧いただきます。元帥夫人役にはオーストラリア出身のキアンドラ・ハワース、オックススには『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ボリス・ゴドウノフ』で私も共演したギ

ド・イエンティンスが登場。脇園彩のオクタヴィアンも新境地となることでしょう。日本人歌手もベテランから若手まで選りすぐりのメンバーを配しました。指揮は23年『こうもり』で賞賛を集めた若き才能、パトリック・ハーンの待望の再登場が叶いました。

同じ4月にこれもジョナサン・ミラーの色褪せない極上の喜劇『ファルスタッフ』を上演できることをうれしく思います。指揮は、イタリア・オペラの真髄を伝え続けるマウリツィオ・ペニーニ。リゴレット、シモン・ボッカネグラ、ジェルモンと新国立劇場のヴェルディ作品に出演を重ねている名バリトン、ロベルト・フロンターリとのタッグでヴェルディ最後のオペラをお届けできることは、この上ない喜びです。すばらしいキャスト陣によるアリア、重唱の数々、特に最後の「この世はすべて冗談」という境地の大アンサンブルに心を揺さぶられることと思います。

チャイコフスキーの代表作『エフゲニー・オネーゲン』には、欧州で活躍するロシア、東欧出身歌手を招聘します。『ボリス・ゴドウノフ』で怪僧ピーメンを演じ話題となったゴルジ・ヤネリーゼが、深い愛情でタチヤーナを包み込むグレーミン公爵を歌います。指揮は、私も全面的な信頼を置くアンドリー・ユルケヴィチで、本演目へは2019年に続いての再登場。チャイコフスキーの美しい音楽と、ドミトリー・ベルトマン演出による繊細な季節の情景や悲劇の場面、そして時の流れの寂しさをご堪能ください。

来るシーズンも、お客様にお楽しみいただけるよう全ての作品に工夫をこらして、ご来場をお待ちしております。どうぞご期待ください。

〈プロフィール〉

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、バタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督(2018年～)及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドウノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『ウィリアム・テル』『ナターシャ』『ヴォツェック』を指揮している。本年6・7月に『エレクトラ』、26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』を指揮する予定。

Opera

2026/2027シーズン オペラ ラインアップ

〈新制作 3演目／レパートリー 7演目 合計 10演目 47公演〉

2026年10月

イタリアのトルコ人 新制作

Il Turco in Italia | G. ロッシーニ

5回公演

2026年11月～12月

ピーター・グライムズ 新制作

Peter Grimes | B. ブリテン

5回公演

2026年12月

フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro | W.A. モーツアルト

4回公演

2027年1月～2月

トスカ

Tosca | G. プッチーニ

6回公演

2027年2月

サロメ

Salome | R. シュトラウス

4回公演

2027年3月

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Cavalleria Rusticana / Pagliacci | P. マスカーニ / R. レオンカヴァッロ

5回公演

2027年4月

ばらの騎士

Der Rosenkavalier | R. シュトラウス

4回公演

2027年4月

ファルスタッフ

Falstaff | G. ヴェルディ

4回公演

2027年5月

エフゲニー・オネーゲン

Eugene Onegin | P. チャイコフスキイ

4回公演

2027年6月～7月

マクベス 新制作

Macbeth | G. ヴェルディ

6回公演

イタリアのトルコ人

2026年10/2～10/12
〈新制作〉New Production

Il Turco in Italia

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕 〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年6/27(土)～7/6(月) ○一般発売日：2026年7/11(土)

初演：1814年8月14日／ミラノ・スカラ座

作曲：ジョアキーノ・ロッシーニ 原作：カテーリーノ・マツォーラ 台本：フェリーチェ・ロマーニ

プロダクションについて

『アルジェのイタリア女』の大成功後に書かれたロッシーニのオペラ・ブッファ『イタリアのトルコ人』を新国立劇場初上演。プレイボーイのトルコ王子、コケティッシュな妻と翻弄される堅物の夫、トルコ王子の元恋人、もつれにもつれあう恋の鞘当てが、二重唱、三重唱、四重唱と次々登場するアンサンブルで繰り広げられます。喜劇を仕立てようと画策する詩人が狂言回しとなる秀逸な構成も注目ポイントです。

ロラン・ペリーの演出（テアトロ・レアル、リヨン歌劇場との共同制作により2023年マドリードで初演）はペリーらしい洒脱な機知に富み、イタリア発祥の“フォトノベル”—写真や吹き出しの入ったメロドラマ風のロマンス小説—がコンセプトの中心。作品本来のメタシアター的な構成を発展させ、フォトノベルに夢中なヒロインの奔放な空想の物語に変貌させます。二次元の世界に出たり入ったりするように躍動する人物、目に耳に楽しくかわいらしい、洒落た展開が客席を沸かせました。

ヒロインのフィオリッラには、24/25シーズンオープニング『夢遊病の女』に急遽登場し、大評判を呼んだクラウディア・ムスキオが登場。トルコ王子セリムには、イタリア・オペラで大躍進中のジョージア出身のバス、ジョルジ・マノシュヴィリ、ヒロインの夫ジェロニオにブッフォ役で大人気を博すパオロ・ボルドニヤと、ロッシーニファンお待ち兼ねの顔合わせ。指揮はイタリアの若手注目株、アレッサンドロ・ボナートです。



テアトロ・レアル2023年公演より
© Javier del Real | Teatro Real

あらすじ

【第1幕】ナポリの海岸。ザイーダがトルコ王子セリムとの恋を懐かしんでいると、喜劇の題材を探す詩人プロスドーチモがやって来る。ドン・ジェロニオに占いを乞われたザイーダは、妻フィオリッラの浮気をからかう。プロスドーチモはザイーダの過去の恋を聞き、よいネタがあったとほくそ笑む。

フィオリッラは単調な結婚生活に飽き飽きしていた。トルコ船が着岸しセリムが上陸すると、早速フィオリッラを誘惑する。フィオリッラの崇拜者ナルチーズとジェロニオが怒り狂う中、屋敷にセリムを引き入れ、恋の駆け引きを楽しむフィオリッラ。ジェロニオは妻に言い負かされ、セリムに跪いてマントに口づけさせられる。

夜、フィオリッラと逢おうと浜辺に来たセリムは偶然ザイーダと再会し、感激して抱き合う。フィオリッラが来れば、セリムはフィオリッラを口説く。ジェロニオとザイーダは激怒。プロスドーチモは、その展開に大喜びする。

【第2幕】セリムはジェロニオに妻を買い取ると提案し、憤慨させる。妻を取られたら立ち向かうのがイタリア男だ。一方フィオリッラはセリムにザイーダか自分が選択を迫るが、セリムは決断できない。プロスドーチモがジェロニオに、セリムとフィオリッラが舞踏会に乘じて逃走するぞと囁き、ザイーダはフィオリッラに、ジェロニオはセリムに変装することになる。ナルチーズもこの機にフィオリッラを奪おうと策を練る。

仮面舞踏会が始まる。ナルチーズをセリムと思い込んだフィオリッラ、ザイーダをフィオリッラと思い込むセリム、誰が誰だか分からずおたおたするジェロニオ。プロスドーチモはジェロニオに、フィオリッラは愛人ナルチーズと一緒にいると言え、妻を取り戻すため偽装離婚を唆す。

夫からの離縁状を受け取ったフィオリッラは絶望し悔い改める。フィオリッラは夫に赦しを請い、二人はトルコへ帰るセリムとザイーダを見送る。大団圓のなかプロスドーチモが、幕切れを宣言する。

ジョアキーノ・ロッシーニ

イタリアのトルコ人

Gioachino Rossini / Il Turco in Italia

全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮..... アレッサンドロ・ボナート
Conductor Alessandro BONATO

演出・衣裳..... ロラン・ペリー¹
Production and Costume Design Laurent PELLY

美術..... シャンタル・トマ
Set Design Chantal THOMAS

照明..... ジョエル・アダム
Lighting Design Joël ADAM

セリム..... ジョルジ・マノシュヴィリ
Selim Giorgi MANOSHVILI

ドンナ・フィオリッラ..... クラウディア・ムスキオ
Donna Fiorilla Claudia MUSCHIO

ドン・ジェローニオ..... パオロ・ボルドーニャ
Don Geronio Paolo BORDOGNA

ドン・ナルチーゾ..... ルジル・ガティン
Don Narciso Ruzil GATIN

詩人プロスドーチモ..... ブルーノ・タッディア
Prosdocimo Bruno TADDIA

ザイーダ..... 但馬由香
Zaida TAJIMA Yuka

アルバザール..... 山本康寛
Albazar YAMAMOTO Yasuhiro

合唱..... 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽..... 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

共同制作：テアトロ・レアル、リヨン歌劇場
Co-production with Teatro Real of Madrid, Opéra National de Lyon

2026年10月 2日(金)18:00	4日(日)14:00
7日(水)14:00	10日(土)14:00
12日(月・祝)13:00	

【料金】

S:31,900円・A:26,400円・B:19,250円・C:12,100円・D:8,250円

【会場】

オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：アレッサンドロ・ボナート

Conductor : Alessandro BONATO

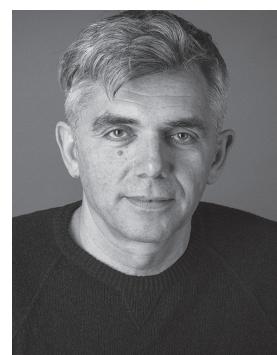
若手世代のイタリア人指揮者で最も注目を集める一人。ヴェローナ出身。マルキジアーナ・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者を2年務め、25/26シーズンよりボルツァーノのハイドン管弦楽団首席指揮者。ドナート・レンツェッティ指揮者アカデミー修了。23歳でコペンハーゲンのマルコ国際コンクール第3位に入賞。2016年にマスカット・ロイヤル・オペラ『魔笛』でデビューし、19年ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『結婚手形』を指揮。22年にマチュラータ音楽祭、翌年ヴェローナ野外音楽祭にデビュー。最近では、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団のヴェルディ『レクイエム』、アルメニア国立歌劇場『オテロ』、カリアリ歌劇場『La monacella della fontana』、フィレンツェ歌劇場『愛の妙薬』を指揮。コンサートでは、スカラ座フィル、RAI交響楽団、トスカニーニ管弦楽団などのほか、デンマーク国立交響楽団、オマーン王立交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京交響楽団などと共演。スカラ座アカデミー管弦楽団を定期的に指揮し、24年アルメニアでのヴェルディ・プログラムが特に好評を博す。同年のフィレンツェ五月音楽祭管弦楽団ロシア・プログラムも高評を得る。「Forbes Italia」誌の2025年「世界を変える30歳未満」ノミネート。新国立劇場初登場。



演出・衣裳：ロラン・ペリー

Production and Costume Design : Laurent PELLY

演劇、オペラ双方で活躍するフランスの演出家。『マノン』『ペレアスとメリザンド』『愛の妙薬』『チェネントラ』『椿姫』『ファルスタッフ』などフランス、イタリアの作品から、近年は『金鶏』『利口な女狐の物語』などロシア、チェコの作品まで手がける。全作品で衣裳もデザインし、舞台美術も手がけることもある。パリ・オペラ座、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル、モネ劇場などの著名歌劇場で活躍。2008年～18年のトゥールーズ国立劇場共同監督在任中に、イヨネスク『禿の女歌手』、アリストファネス『鳥』、ユゴー『千フランの報酬』、シェイクスピア『マクベス』『夏の夜の夢』などを演出。21年にはメアリー・チエイス『ハーヴェイ』フランス語初演を演出し、コミックファンタジーの手腕を發揮した。オッフェンバックの専門家でもあり、『青ひげ』『パリの生活』『美しいエレーヌ』『地獄のオルフェ』『ホフマン物語』などで数々の賞を受賞、最近ではオペラ・コミック座『月世界旅行』を演出。リヨン歌劇場『にんじんの王様』は16年インターナショナル・オペラ・アワードのベスト・リディスカバード・ワーク賞を受賞、同年の最優秀演出家賞も受賞した。新国立劇場では22年『ジュリオ・チェーザレ』を演出。



セリム：ジョルジ・マノシュヴィリ（バス）

Selim : Giorgi MANOSHVILI

ジョージア出身。トビリシのヴァノ・サラジシュビリ国立音楽院を伝統音楽と教会音楽を専攻し卒業。2021年、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』シドニー卿でイタリアデビュー。同フェスティバルにはその後コンサート『Tra Rondo e Tournedos』『ロッシーニマニア』及び『小莊巣ミサ曲』に出演。ローマ歌劇場のテレビ映像版『ラ・ボエーム』コッリーネ役に出演。ウェックスフォード・フェスティバルではアレヴィの『テンペスト』カリバンに出演。最近では、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルにて『アルジェのイタリア女』ムスタファ、リトアニア国立歌劇場『ホフマン物語』悪役四役、ライプツィヒ歌劇場『ランスへの旅』、シャンゼリゼ劇場『セミラーミデ』、モンテカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』コッリーネ、パルマ王立歌劇場、ナボリ・サン・カルロ歌劇場『アッティラ』タイトルロール、サンタ・チェチリア音楽院のヴェルディ『レクイエム』、ローマ歌劇場のモーツアルト『レクイエム』などに出演。25/26シーズンは、『カルメン』エスカミーリョでミラノ・スカラ座に、『ラ・ボエーム』コッリーネでメトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラへそれぞれデビュー予定である。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ドンナ・フィオリッラ：クラウディア・ムスキオ（ソプラノ）

Donna Fiorilla : Claudia MUSCHIO

イタリア・ブレーシャ出身。フェッラーラ・フレスコバルディ音楽院修了。2017年ナポリ・サン・カルロ歌劇場『魔笛』パミーナでデビューし、続く18年にモデナ・パヴァロッティ劇場『セビリアの理髪師』ロジーナに出演、またペザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、カリアリ歌劇場などに出演を重ねる。20/21シーズンからはシュトゥットガルト州立劇場専属歌手となり『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『子どもと魔法』火／お姫様、『フィガロの結婚』スザンナ、『アルチーナ』モルガナ、『ファルスタッフ』ナンネット、『愛の妙薬』アディーナ、大成功を収めた『夢遊病の女』アミーナ、『魔笛』パミーナ、『リゴレット』ジルダなどに出演。23年のOpernwelt誌年間ベストシンガー、ベスト・ヤングシンガー賞にノミネート。21年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場『愛の妙薬』アディーナに出演。25/26シーズンは、シュトゥットガルト州立劇場『利口な女狐の物語』女狐、『リゴレット』ジルダ、『夢遊病の女』アミーナ、『カルメル会修道女の対話』コンスタンス、『セビリアの理髪師』ロジーナに出演する。新国立劇場へは24/25シーズン開幕公演『夢遊病の女』アミーナに急遽出演してデビューし、絶賛された。



ドン・ジェローニオ：パオロ・ボルドーニヤ（バス・バリトン）

Don Geronio : Paolo BORDOGNA

イタリア出身。今日最高のブッフォ歌手のひとり。ペーザロのロッシーニ・アカデミーでアルベルト・ゼッダの薰陶を受け、ロッシーニ作品はもちろん、ドニゼッティ、モーツアルトのブッフォ役を中心に、そのレパートリーは16世紀から現代作品まで50以上の役柄を擁する。2005年以降、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルの常連として『新聞』『結婚手形』『泥棒かささぎ』『絹のはしご』『チェネレントラ』『セビリアの理髪師』『ひどい誤解』などに出演。イタリアの主要歌劇場のみならず、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、テアトロ・レアル、リセウ大劇場、ワシントン・ナショナル・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、シドニー・オペラハウス、カナディアン・オペラ・カンパニー、北京国家大劇院、マリインスキー劇場など世界各地において活躍している。直近では、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場での『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、ローマ歌劇場『アルジェのイタリア女』ムスタファ、ウィーン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場『セビリアの理髪師』バルトロ、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場『フィレンツェの麦わら帽子』などに出演した。録音・映像も豊富で、数多くのCD、DVDをリリースしている。新国立劇場では20年『セビリアの理髪師』バルトロに出演した。



ドン・ナルチーゾ：ルジル・ガティン（テノール）

Don Narciso : Ruzil GATIN

モスクワ大学卒業後、カザン音楽院で声楽を修める。2016年AsLiCoコンクールで優勝し、『トゥーランドット』パン役でデビュー。続いてパヴィア、コモ、クレモナで『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーゾに出演。ペーザロのロッシーニ・アカデミーに参加し、17年『ランスへの旅』リーベンスコフ、翌年『リッチャードとゾライーデ』ザモーレに出演。ミラノ・スカラ座アカデミー公演『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵に出演。ボリショイ劇場へは『ランスへの旅』でデビュー後、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『ドン・パスクワーレ』エルネスト、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオに出演。19年にデンマーク王立歌劇場へ『セビリアの理髪師』でデビュー。ミラノ・スカラ座『ロメオとジュリエット』ティバールト、フィレンツェ歌劇場『セビリアの理髪師』『ドン・ジョヴァンニ』、リヨン歌劇場『モイーズとファラオン』アメノフィスなどに出演。『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵は、マチエラータ音楽祭、リエージュ・ワロン歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場などで出演を重ねる。最近では、パレルモで『イングランド女王エリザベッタ』ノーフォーク、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『連隊の娘』トニオに出演。新国立劇場初登場。



イタリアのトルコ人

主要キャスト・スタッフ プロフィール

詩人プロスドーチモ：ブルーノ・タッディア（バリトン）

Prosdocimo : Bruno TADDIA

イタリア出身。ヴァイオリニストとして活動後、2001年のロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』アルヴァーロでオペラデビュー。ミラノ・スカラ座、英國ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、シャトレ座、シャンゼリゼ劇場、アン・デア・ウイン劇場、リセウ大劇場など世界各地で『セビリアの理髪師』フィガロ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『オーリードのイフィジェニー』オレステ、『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどへ出演。最近の主な成功作に、モネ劇場『バスタルダ』ノッティンガム、ブッチャーニ・フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、カリアリ歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、トリエステ歌劇場『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、コロラド・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ジュネーヴ大劇場『セビリアの理髪師』フィガロ、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』タイトルロール、『ドン・パスクワーレ』タイトルロールがある。25/26シーズンはジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』などに出演。新国立劇場では25年『蝶々夫人』シャープレスに出演した。



ザイーダ：但馬由香（メゾソプラノ）

Zaida : TAJIMA Yuka

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。第31回飯塚新人音楽コンクール第1位。藤原歌劇団には『ラ・チエネレントラ』ティーズベ、『椿姫』アンニーナ、『ランスへの旅』モデスティーナ、『セビリアの理髪師』ベルタ、『ノルマ』クロティルデ、『蝶々夫人』スズキ、『ファウスト』シーベルなどに出演、2018年、24年『ラ・チエネレントラ』ではタイトルロールのアンジェリーナに出演し好評を博す。そのほかベートーヴェン『第九』、ヘンデル『メサイア』、モーツアルト『レクイエム』『戴冠ミサ』などの宗教曲のソリストやコンサートでも活躍している。新国立劇場では『夏の夜の夢』ハーミア、『蝶々夫人』スズキ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』メルセデス、同『蝶々夫人』スズキに出演。マエストローラ音楽院講師。藤原歌劇団団員。



アルバザール：山本康寛（テノール）

Albazar : YAMAMOTO Yasuhiro

京都市立芸術大学大学院修了。日本音楽コンクール第2位、飯塚新人音楽コンクール第1位、平和堂財団芸術奨励賞、青山音楽賞[音楽賞]、五島記念文化賞オペラ新人賞など数々受賞。びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手として6年在籍したのち、五島記念文化財団（現：東急財団）の奨学生として渡伊。びわ湖ホール『死の都』（日本初演）では主役のパウルに抜擢、2016年イタリア・ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルでは『ランスへの旅』でイタリアデビュー。日生劇場『セビリアの理髪師』『魔笛』、藤原歌劇団『ラ・チエネレントラ』、日本オペラ協会『紅天女』（新作初演）などに出演している。新国立劇場では『ウィリアム・テル』リュオディ、鑑賞教室『カルメン』レメンタードに出演。びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー。藤原歌劇団団員、日本オペラ協会会員。



ピーター・グライムズ

2026年11/23～12/5
〈新制作〉New Production

Peter Grimes

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕〈英語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年7/25(土)～8/11(火・祝) ○一般発売日：2026年8/15(土)

初演：1945年6月7日／サドラーズ・ウェルズ劇場

作曲：ベンジャミン・ブリテン 原作：ジョージ・クラップ 台本：モンタギュー・スレーター

プロダクションについて

イギリスを代表する作曲家ベンジャミン・ブリテンの代表作『ピーター・グライムズ』は、1945年にロンドンで初演され、ブリテンの名を一躍有名にした傑作です。ブリテンの故郷オールドバラを思わせるイギリス東海岸の漁村を舞台に、孤独な漁師ピーター・グライムズが徒弟の少年殺害の疑惑を村人たちからかけられ、追い詰められていく物語。貧困や児童虐待を題材に、集団と個の対立を軸として、孤立と集団心理、希望と絶望を緊張感の中に描きます。力強さと美しさを兼ね備えたブリテンの音楽は海のうねりや嵐を雄弁に描写すると共に登場人物の心理描写を巧みに表現、圧倒的に劇的な力で観る者の心を掴みます。

本プロダクションはロバート・カーセン演出により2023年10月にミラノ・スカラ座で初演されたもの。グライムズの内なる情動とエスカレートする集団心理の暴力性を現代的なタッチで浮き彫りにし、絶賛を博しました。このプロダクションのスカラ座での初演にも出演した世界的テノール、ブランドン・ジョヴァノヴィッチをタイトルロールに迎え、エレンには欧州主要劇場で活躍し、各地でエレン役を歌って称賛を集めるサリー・マシューズ、バルストロード船長にワーグナー歌手として国際舞台を駆けるジョーダン・シャナハンと強力な歌手が揃います。指揮は大野和士、もう一人の主役として真価を發揮する新国立劇場合唱団にもご期待ください。



ミラノ・スカラ座 2023年公演より
Brescia and Amisano © Teatro alla Scala

あらすじ

【プロローグ】1830年頃、イギリス東部の北海に面した漁村。集会所で漁師ピーター・グライムズの裁判が行われている。見習いの少年を連れて出た漁で、嵐に遭い少年を死なせてしまった罪に問われていた。ピーターは、偶然の事故であると無実を主張するが、普段から気性が激しく付き合い下手なピーターに対して、村人たちには疑惑の念を持っている。判定は事故死となるが、徒弟を雇うことを見出される。村の教師で未亡人のエレンや、退役船長バルストロードがピーターを慰める。

【第1幕】この事件以来、ピーターは村人たちから疎外されていたため、一人きりで漁もままならない状態となった。村のパブ「ボア亭」に嵐を避けた村人たちが集まる中、エレンがピーターに、孤児院から連れて来た少年を新たな徒弟として引き渡す。

【第2幕】日曜日の朝、人々は教会へ向かう。エレンはピーターの徒弟となった少年の衣服や体を見て不審に思い問いただすが、ピーターは逆上してエレンを殴り、少年を連れて立ち去る。村の男たちの集団がピーターの小屋へ向かう。ピーターは少年を連れて海に出ようとする。エレンとの結婚を夢見ていたピーターは、できる限り金を稼ごうとしていた。村人たちが迫る中、ピーターは少年に家の裏手から崖づたいに海岸へ降りるよう命じるが、少年はあやまって転落死する。

【第3幕】数日後、村人の間で、行方不明のままの少年もまたピーターに殺されたのではないかと噂が広がる。再び捜査が始まり、村人たちには次第にヒステリックになっていく。疲れ果てたピーターが現れる。エレンとバルストロードがピーターを見つける。バルストロードは、海の男らしく船と運命を共にせよと諭す。ピーターは船を出す。翌朝、沈没船の知らせが村に届くが、これに関心を示す者はなく、何事もなかったかのように一日が始まる。

ベンジャミン・ブリテン
ピーター・グライムズ

Benjamin Britten / Peter Grimes

全3幕〈英語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮.....	大野和士
Conductor	ONO Kazushi
演出・照明.....	ロバート・カーセン
Production and Lighting Design	Robert CARSEN
美術・衣裳.....	ギデオン・デイヴィー
Set and Costume Design	Gideon DAVEY
照明.....	ペーター・ファン・プラート
Lighting Design	Peter van PRAET
映像.....	ウィル・デューク
Video Design	Will DUKE
振付.....	レベッカ・ハウエル
Choreographer	Rebecca HOWELL
演出補.....	オリヴァー・プラット
Associate Director	Oliver PLATT

ピーター・グライムズ.....	ブランドン・ジョヴァノヴィッチ
Peter Grimes	Brandon JOVANOVICH
エレン・オーフォード.....	サリー・マシューズ
Ellen Orford	Sally MATTHEWS
バルストロード船長.....	ジョーダン・シャナハン
Balstrode	Jordan SHANAHAN
アーンティ.....	ニコール・ピッコロミニ
Auntie	Nicole PICCOLOMINI
姪1.....	渡邊仁美
Niece 1	WATANABE Hitomi
姪2.....	今野沙知恵
Niece 2	KONNO Sachie
ボブ・ボウルズ.....	糸賀修平
Bob Boles	ITOGA Shuhei
スワロー.....	河野鉄平
Swallow	KONO Teppei
セドリー夫人.....	齊藤純子
Mrs. Sedley	SAITO Junko
ホレース・アダムス.....	村上公太
Rev. Horace Adams	MURAKAMI Kota
ネッド・キーン.....	吉川健一
Ned Keene	YOSHIKAWA Kenichi
ホブソン.....	大塚博章
Hobson	OTSUKA Hiroaki
合唱.....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽.....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

プロダクション：ミラノ・スカラ座
Production of Teatro alla Scala

2026年11月23日(月・祝)14:00 26日(木)14:00

29日(日)14:00

12月 2日(水)14:00 5日(土)14:00

【料金】

S:31,900円・A:26,400円・B:19,250円・C:12,100円・D:8,250円

【会場】

オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督(2018年～)及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英國ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスターインガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドウノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『ウィリアム・テル』『ナターシャ』『ヴォツェック』を指揮している。本年6・7月に『エレクトラ』、26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』を指揮する予定。



演出・照明：ロバート・カーセン

Production and Lighting Design : Robert CARSEN

トロント出身。今日最も人気のある演出家の一人として、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、英國ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭をはじめとする世界の主要歌劇場および音楽祭で活躍している。最近の演出作品には、ミラノ・スカラ座『コジ・ファン・トゥッテ』、オペラ・コミック座『エベの祭典』、ザルツブルク音楽祭『皇帝ティトの慈悲』、パリ・オペラ座『アリオダンテ』などがある。ブルノ国立劇場、ベルリン州立歌劇場、テアトロ・レアルの共同制作により新制作したヤナーチェク作曲『プロウチエク氏の旅』ではInternational Opera Awards 2025で新制作賞を受賞。その他にも、ケルン、上海、バルセロナ、マドリードを巡回した『ニーベルングの指環』、ミラノ・スカラ座『ドン・ジョヴァンニ』『ホフマン物語』『オロンテーラ』、英國ロイヤルオペラ『アイーダ』『ファルスタッフ』『ばらの騎士』、アン・デア・ウィーン劇場『ねじの回転』など、大規模な作品を成功に導いてきた。数多くの演劇作品とミュージカル作品の演出に加えて、美術展の演出・アートディレクションも手がける多才を見せていている。新国立劇場初登場。



ピーター・グライムズ：ブランドン・ジョヴァノヴィッチ（テノール）

Peter Grimes : Brandon JOVANOVICH

世界の主要歌劇場を舞台に、フランス・オペラ、イタリア・オペラ、ドイツ・オペラ、スラヴ語圏のオペラで活躍するテノール。これまでのハイライトに、オランダ国立オペラ『道化師』カニオ、ベルリン州立歌劇場『サムソンとデリラ』サムソン、シカゴ・リリック・オペラ『蝶々夫人』ピンカートン、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座『トロイ人』エナー、ウィーン国立歌劇場『フィデリオ』フロレスタン、『ルサルカ』王子、ベルリン・ドイツ・オペラ『パルジファル』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ『カルメン』ドン・ホセ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、メトロポリタン歌劇場『ルサルカ』王子、サンフランシスコ・オペラ、パリ・オペラ座『ニュルンベルクのマイスターインガー』ヴァルター、チューリヒ歌劇場『ローエングリン』タイトルロールなどがある。最近では、メトロポリタン歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』バッカス、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、『白鯨』エイハブ船長、英國ロイヤルオペラ『ローエングリン』タイトルロール、ベルリン・ドイツ・オペラ『ワルキューレ』ジークムント、ウィーン国立歌劇場『パルジファル』タイトルロール、『フィデリオ』フロレスタン、ミラノ・スカラ座『ピーター・グライムズ』タイトルロール、バイエルン州立歌劇場『スペードの女王』ゲルマンなどに出演。新国立劇場初登場。



ピーター・グラムズ

主要キャスト・スタッフ プロフィール

エレン・オーフォード：サリー・マシューズ（ソプラノ）

Ellen Orford : Sally MATTHEWS

英国を代表するソプラノ。アデス『皆殺しの天使』(世界初演)でザルツブルク音楽祭、メトロポリタン歌劇場、英國ロイヤルオペラヘデビュー。ロイヤルオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『放蕩者のなりゆき』アン、『カルメル会修道女の対話』ブランシュなどのほか、ウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、バイエルン州立歌劇場『イェヌーファ』タイトルロール、『カルメル会修道女の対話』ブランシュ、チン・ウンスク作曲『ふしぎの国のアリス』(世界初演)アリスなどに出演。最近の出演に、モネ劇場『ねじの回転』家庭教師、『ばらの騎士』元帥夫人、『エフゲニー・オネーゲン』タチヤーナ、『ダフネ』『ノルマ』タイトルロール、ベルリン州立歌劇場『フィデリオ』レオノーレ、グラウンドボーン音楽祭『カルメル会修道女の対話』ブランシュ、リヨン歌劇場『ドン・カルロ』エリザベッタ、ブリストン音楽祭、サンタ・チェチリア音楽院管弦楽団『ピーター・グラムズ』エレンなど。24/25シーズンにはハンブルク州立歌劇場『エフゲニー・オネーゲン』、ウェールズ・ナショナル・オペラ『ピーター・グラムズ』、ルーアン歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』アリアドネ、ガーシントン・オペラ『フィデリオ』に出演。25/26シーズンはモネ劇場『ノルマ』、『ファルスタッフ』アリーチェ、トリノ王立歌劇場『カルメル会修道女の対話』リドワヌ夫人などに出演する。新国立劇場初登場。



バルストロード船長：ジョーダン・シャナハン（バリトン）

Balstrode : Jordan SHANAHAN

ハワイ出身。2002年、ナチュ・オペラフェスティバル『道化師』シルヴィオでデビュー。近年は特にワーグナー、R.シュトラウスなどで主要劇場に登場。これまでに、グラーツ歌劇場『運命の力』ドン・カルロ、ヴィースバーデン州立劇場『カルメン』エスカミーリョ、ベルリン・ドイツ・オペラ『ニーベルングの指環』アルベリヒ、チューリヒ歌劇場『ラインの黄金』ドンナー、英國ロイヤルオペラ『サロメ』ヨハナー、テアトロ・レアル『リゴレット』モンテローネなどに出演。最近では、メトロポリタン歌劇場『リゴレット』モンテローネ、ベルリン・ドイツ・オペラ『影のない女』バラク、ウィーン国立歌劇場『ローエングリン』テルラムント、『パルジファル』アムフォルタスなどに出演。25年のバイロイト音楽祭では『パルジファル』クリングゾール、『ニュルンベルクのマイスターインガー』フリット・コートナー、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナールに出演した。25/26シーズンは、ケルン歌劇場『ニーベルングの指環』ヴォータン、ハンブルク州立歌劇場『さまよえるオランダ人』オランダ人、オランダ国立オペラ『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、ベルリン・ドイツ・オペラ『ワルキューレ』ヴォータンなどに出演する。新国立劇場初登場。



アーンティ：ニコール・ピッコロミニ（メゾソプラノ）

Auntie : Nicole PICCOLOMINI

幅広いレパートリーでアメリカ、アジア、ヨーロッパ各地で高評を得るメゾソプラノ。主なオペラ出演作には、ボン歌劇場『ブエノスアイレスのマリア』タイトルロール、『エレクトラ』クリュテムネストラ、ライプツィヒ歌劇場『ラインの黄金』『ジークフリート』エルダ、ベルリン・ドイツ・オペラ『スペードの女王』伯爵夫人、フライブルク劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ『アンドレア・シェニエ』マデロン、ベルリン・ドイツ・オペラ、シュトゥットガルト州立歌劇場、オランダ国立オペラ、パリ・オペラ座、ドルトムント歌劇場『神々の黄昏』第1のノルン、ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場『ワルキューレ』グリムゲルデ。バーリ・ペトルッツェッリ劇場『ルクレツィアの凌辱』ビアンカ、カリアリ歌劇場『チェレヴィチキ』ソロカ、バルマ王立歌劇場、カターニア・マッシモ・ベッリーニ劇場、バリヤドリード・カルデロン劇場『仮面舞踏会』ウルリカ、西オーストラリア・オペラ『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、上海歌劇院『ファルスタッフ』クイックリー夫人、大邱歌劇院『サロメ』侍女、サンタフェ・オペラ、シカゴ・リリック・オペラ、デトロイト・オペラ『リゴレット』マッダレーナがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

姪 1：渡邊仁美（ソプラノ）

Niece 1 : WATANABE Hitomi

東京藝術大学卒業、同大学院修了。ザルツブルク・モーツアルテウム大学修士課程リート・オラトリオ科を最優秀の成績で修了。二期会オペラ研修所第59期マスタークラス修了。第18回日仏声楽コンクール第2位。二期会では、2018年『アルチーナ』タイトルロールでデビューし、以後も『蝶々夫人』『トスカ』『サロメ』『ルル』タイトルロール等のカヴァーを務める。23年には、二期会創立70周年記念公演『平和の日』マリアにて主演。24年は二期会『タンホイザー』エリザベート、『影のない女』皇后にて出演。コンサート・ソリストとしても、ベートーヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」、ブルックナー「ミサ曲第3番」等で幅広く活躍している。新国立劇場では26/27シーズン『ピーター・グライムズ』姪1、『ばらの騎士』マリアンネに出演予定。二期会会員。新国立劇場初登場。



姪 2：今野沙知恵（ソプラノ）

Niece 2 : KONNO Sachie

桐朋学園大学音楽学部声楽専攻を首席で卒業、同大学研究科を修了。交換留学生としてサンタ・チェチリア音楽院に留学。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。第85回日本音楽コンクール声楽部門第3位受賞。平成26年度文化庁新進芸術家海外研修生。平成30年度第29回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。ドイツとイタリアに留学。東京・春・音楽祭『ローエンゲリン』小姓、日生劇場『魔笛』パパゲーナなどに出演。マーラー『交響曲第4番』、ヘンデル『メサイア』、バッハ『マタイ受難曲』、ラター『レクイエム』などコンサートのソリストとしても活躍。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』ドルチーナ、オペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『魔笛』侍女Ⅱに出演。本年1月『こうもり』イーダ、5月『愛の妙薬』ジャンネット、26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』姪2、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026『愛の妙薬』ジャンネットに出演予定。



ボブ・ボウルズ：糸賀修平（テノール）

Bob Boles : ITOGA Shuhei

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第10期修了。平成22年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアへ留学。その後ロームミュージックファンデーションの音楽在外研究生としてベルリンへ留学。数多くの国際コンクールで入賞を果たす。二期会『こうもり』アルフレード、『コジ・ファン・トゥッテ』フェランド、藤原歌劇団『ランスへの旅』騎士ベルフィオーレ、あいちトリエンナーレ『魔笛』タミーノなどに出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』『死の都』『サロメ』『蝶々夫人』『ファルスタッフ』『ウェルテル』『トゥーランドット』『カルメン』『トスカ』など数多く出演。2012年『ピーター・グライムズ』では、ボブ・ボウルズ役で急遽カヴァーから全公演出演し好演した。本年2月『リゴレット』ボルサ、6・7月『エレクトラ』若い下僕、26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』ボブ・ボウルズ、『サロメ』5人のユダヤ人4、『ファルスタッフ』バルドルフ、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026『愛の妙薬』ネモリーノ、同・ロームシアター京都公演『蝶々夫人』ゴローに出演予定。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

スワロー：河野鉄平（バス・バリトン）

Swallow : KONO Teppei

クリーヴランド音楽院大学卒業、同大学院修了。2003年サンフランシスコオペラ・メローラオペラプログラム参加。同年『フィガロの結婚』フィガロでオペラデビュー。06年シカゴ芸術大学ディプロマコース及びシカゴ・オペラ・シアター研修プログラム修了。アメリカで23年間過ごし、帰国後は18年セイジ・オザワ松本フェスティバル『カルメン』、『ジャンニ・スキッキ』で好評を博す。これまでに二期会『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『影のない女』バラクなどに出演。新国立劇場では『夏の夜の夢』パック、『さまよえるオランダ人』オランダ人、『魔笛』ザラストロ、『ペレアスとメリザンド』医師、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『子どもと魔法』柱時計／雄猫、『ジャンニ・スキッキ』シモーネ、オペラ鑑賞教室『トスカ』アンジェロッティなどに出演。26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』スワロー、『ばらの騎士』警部に出演予定。二期会会員。



セドリー夫人：齊藤純子（メゾソプラノ）

Mrs. Sedley : SAITO Junko

東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏後、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで研鑽を積む。以降、ボルドー大劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、チロル音楽祭、南チロル音楽祭、サンタンデール音楽祭など欧州各地で活躍。オペラでは『フィデリオ』レオノーレ、『カルメン』タイトルロール、『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルゲンデ、『ワルキューレ』ゲルヒルデ、また、びわ湖ホール『神々の黄昏』ノルン2、『ジュリエッタとロメオ』本邦初演公演アデーリア、日生劇場『サンドリヨン』ド・ラ・アルティエール夫人に出演。ソプラノからコントラルトまでの幅広い声域を持ち、コミカルなキャラクターからシリアルな役まで手掛けれる。出演した『アルツィラ（タイトルロール）』『ニーベルングの指環』『裏切りの瞳』などのCD、DVDは、世界各国で発売されている。新国立劇場では『フィレンツェの悲劇』ビアンカ、『チェネレントラ』ティーズベ、『修道女アンジェリカ』公爵夫人、『子どもと魔法』お母さん、『ウィリアム・テル』エドヴィージュに出演。26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『エフゲニー・オネーゲン』ラーリナに出演予定。フランス在住。藤原歌劇団団員。



ホレース・アダムス：村上公太（テノール）

Rev. Horace Adams : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラに立て続けに客演し好評を博す。東京二期会『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロート、『椿姫』アルフレード、日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッコ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、サントリーホール『リトゥン・オン・スキン』第3の天使／ヨハネ、グランドオペラ共同制作『カルメン』レメンダー、横須賀芸術劇場『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。新国立劇場では『こうもり』アルフレード、『カルメン』レメンダー、『ファルスタッフ』フェントン、『夏の夜の夢』ライサンダー、『イオランタ』アルメリック、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』クンツ・フォーゲルゲザング、『蝶々夫人』ピンカートン、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』ドン・ホセ、同『蝶々夫人』ピンカートン、同『トスカ』カヴァラドッシなどに出演。本年5月に『ウェルテル』シュミット、26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』ホレース・アダムス、『ファルスタッフ』フェントン、『マクベス』マルコム、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026ロームシアター京都公演『蝶々夫人』ピンカートンに出演予定。二期会会員。



ピーター・グライムズ

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ネッド・キーン：吉川健一（バリトン）

Ned Keene : YOSHIKAWA Kenichi

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース第6期修了。第20回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位、トルトーナ国際音楽コンクール第3位。二期会『魔笛』、日生劇場『夕鶴』『利口な女狐の物語』、札幌交響楽団『ピーター・グライムズ』などに出演。新国立劇場では『沈黙』通辞、『夕鶴』運び、『蝶々夫人』ヤマドリ、『カルメン』モラレス、『ジャンニ・スキッキ』マルコ、『セビリアの理髪師』フィオレッロ、『夏の夜の夢』スターヴリング、『夜鳴きうぐいす』中国の皇帝、『リゴレット』チェプラー・ノ伯爵、演奏会形式『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、オペラ鑑賞教室『ラ・ボエーム』ショナール、オペラ鑑賞教室・関西公演『魔笛』パパゲーノなどに出演を重ねている。本年2月『リゴレット』チェプラー・ノ伯爵に出演予定。二期会会員。



ホブソン：大塚博章（バス）

Hobson : OTSUKA Hiroaki

玉川大学芸術学科音楽専攻卒業。第42回日伊声楽コンクール3位。文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツに留学。びわ湖ホール『シチリアの晩鐘』、二期会で近年では『魔笛』ザラストロ、『ばらの騎士』オックス男爵などに出演。新国立劇場では『サロメ』2人の兵士1、『トスカ』シャルローネ、『ドン・カルロ』修道士、『マノン・レスコー』軍曹、『魔笛』武士II、『タンホイザー』ラインマル、『ジャンニ・スキッキ』シモーネ、『夏の夜の夢』シーシアス、『イオランタ』ベルトラン、『ばらの騎士』警部、『ボリス・ゴドウノフ』ミチューハ、『オツェック』第一の徒弟職人、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』スニガ、コンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』アルケル、「ジークフリート」ハイライトコンサート」さすらい人などに出演。26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』ホブソン、『サロメ』2人の兵士2に出演予定。二期会会員。



フィガロの結婚

2026年12/6～12/12
〈レパートリー〉Repertory

Le Nozze di Figaro

オペラパレス | 4回公演 | 全4幕 〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年8/22(土)～9/8(火) ○一般発売日：2026年9/12(土)

初演：1786年5月1日／ウィーン・ブルク劇場

作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト 原作：ピエール＝オーギュスタン・ボーマルシェ 台本：ロレンツォ・ダ・ポンテ

プロダクションについて

フィガロとスザンナの結婚をめぐる一日の騒動が描かれた、モーツアルト不朽の名作。単独で演奏されることも多い軽快な序曲に始まり、おなじみの「恋とはどんなものかしら」(ケルビーノ)、「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」(フィガロ)、そして「愛の神様、手をさしのべてください」「楽しい思い出はどこへ」(伯爵夫人)と、思わず口ずさみたくなるような名曲に彩られます。

現代最高のオペラ演出家のひとりアンドレアス・ホモキの演出では、モノトーンの舞台上を登場人物が縦横無尽に動き回り、ドラマの進行とともに社会的秩序が取り払われて、ピュアな人間性が生き生きと浮き彫りになります。比類ない完成度の舞台として高く評価されている、新国立劇場の看板演目のひとつです。日本屈指のオペラ指揮者として活躍する阪哲朗のタクトのもと、ドイツに拠点を置く木村善明(フィガロ)、須藤慎吾(アルマヴィーヴァ伯爵)、吉田珠代(伯爵夫人)、九嶋香奈枝(スザンナ)、山下裕賀(ケルビーノ)ら、旬の日本人歌手が勢揃い。息のあったアンサンブルをお楽しみください。



2013年公演より

あらすじ

【第1幕】アルマヴィーヴァ伯爵の使用人フィガロとスザンナは結婚目前。しかし伯爵はスザンナを狙っており、女中頭マルチェッリーナは借金の証文をたてにフィガロとの結婚を目論んでいる。小姓ケルビーノがスザンナに伯爵夫人への恋心を語っていると、伯爵が来たため、慌てて隠れる。伯爵がスザンナに迫っていると、今度はドン・バジリオが来て、伯爵も大慌てで隠れる。ケルビーノが伯爵夫人に熱い視線を送っていたとバジリオが語るので、伯爵が怒って姿を現す。伯爵はケルビーノに軍隊入りを命じる。

【第2幕】夫の愛が冷めてしまったと嘆く伯爵夫人。フィガロは伯爵夫人とスザンナに、ケルビーノを女装させて伯爵を懲らしめようと話す。さっそく仕度しようとケルビーノと二人きりになった瞬間に伯爵が部屋に来たため、伯爵夫人は急いでケルビーノを衣裳室に隠す。愛人が潜んでいると疑う伯爵は、伯爵夫人と押し問答の末に、扉を開ける。すると、中にはスザンナがいて、伯爵も伯爵夫人も唖然。フィガロの機転で窮地を脱するが、今度はマルチェッリーナが契約通りフィガロと結婚させろと訴えてきて、大混乱になる。

【第3幕】借金をめぐる裁判で、フィガロがマルチェッリーナとバルトロの子であることが判明。3人は親子の再会を喜ぶ。伯爵夫人とスザンナは衣裳を交換して男たちと逢引する計画を立てる。フィガロとスザンナ、マルチェッリーナとバルトロの結婚式が行われ、その間にスザンナは伯爵に誘いの手紙を渡す。

【第4幕】夜。伯爵はスザンナと逢引するが、その中身は伯爵夫人だと全く気づかない。フィガロが伯爵夫人を口説くのを見た伯爵は怒るが、女性二人が入れ替わっていたことを知り呆然。伯爵は非を認め大団圓となる。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト

フィガロの結婚

Wolfgang Amadeus Mozart / Le Nozze di Figaro

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮.....	阪 哲朗
Conductor	BAN Tetsuro
演出.....	アンドレアス・ホモキ
Production	Andreas HOMOKI
美術.....	フランク・フィリップ・シュレスマン
Set Design	Frank Philipp SCHLÖSSMANN
衣裳.....	メヒトヒルト・ザイベル
Costume Design	Mechthild SEIPEL
照明.....	フランク・エヴァン
Lighting Design	Franck EVIN
アルマヴィーア伯爵.....	須藤慎吾
Il Conte Almaviva	SUDO Shingo
伯爵夫人.....	吉田珠代
La Contessa	YOSHIDA Tamayo
フィガロ.....	木村善明
Figaro	KIMURA Yoshiaki
スザンナ.....	九嶋香奈枝
Susanna	KUSHIMA Kanae
ケルビーノ.....	山下裕賀
Cherubino	YAMASHITA Hiroka
マルチェッリーナ.....	中島郁子
Marcellina	NAKAJIMA Ikuko
バルトロ.....	妻屋秀和
Bartolo	TSUMAYA Hidekazu
バジリオ.....	青地英幸
Basilio	AOCHI Hideyuki
ドン・クルツィオ.....	水野 優
Don Curzio	MIZUNO Yu
アントニオ.....	晴 雅彦
Antonio	HARE Masahiko
バルバリーナ.....	七澤 結
Barbarina	NANASAWA Yui
合唱.....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽.....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2026年12月 6日(日)14:00 8日(火)14:00

10日(木)18:00 12日(土)14:00

【料金】

S:28,600円・A:24,200円・B:17,050円・C:10,450円・D:7,150円

【会場】

オペラパレス

フィガロの結婚

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：阪 哲朗

Conductor : BAN Tetsuro

京都市立芸術大学作曲専修卒業後に渡欧。ウィーン国立音大指揮科在学中にビール市立歌劇場専属指揮者となり、プランデンブルク歌劇場第1指揮者、コーミッシェオーパー専属指揮者、アイゼナハ歌劇場並びにレーゲンスブルク歌劇場で音楽総監督を歴任。ウィーン・フォルクスオーパー、バーゼル歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場などドイツ、オーストリアなどの約40に及ぶオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収める。日本国内において多くのオーケストラやオペラ公演を指揮。全国共同制作オペラ『こうもり』、びわ湖ホール『ばらの騎士』で成功を収めたことが記憶に新しい。山形交響楽団とは2023年から演奏会形式オペラシリーズをスタートさせ、インターネット配信も行い新たなファンを獲得している。現在、山形交響楽団常任指揮者、びわ湖ホール芸術監督、京都市立芸術大学教授。東京藝術大学、国立音楽大学より特別招聘教授に招かれるなど、後進の指導にも取り組む。1995年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。2024年芸術選奨文部科学大臣賞ほか受賞多数。新国立劇場では『ホフマン物語』『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』、オペラ鑑賞教室『ドン・バス夸ーレ』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』を指揮している。



演出：アンドレアス・ホモキ

Production : Andreas HOMOKI

ドイツ・マール生まれ。ジュネーヴ大劇場92/93シーズン開幕の『影のない女』の演出で大成功を収める。その後、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』、デンマーク王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』、バーゼル歌劇場『エレクトラ』、バイエルン州立歌劇場『アラベッラ』、オランダ国立オペラ『ルル』などヨーロッパを中心に活躍。02/03シーズンからベルリン・コーミッシェ・オーパーの首席演出家に就任、『フィレンツェの悲劇』『金鶏』『マハゴニー市の興亡』『ハムレット』などを取り上げ話題となった。2012年エクサン・プロヴァンス音楽祭でのシャルパンティエ『ダビデとヨナタン』の洗練された演出で好評を博す。12/13シーズンから24/25シーズンまでチューリヒ歌劇場総監督を務める。日本では08年びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ばらの騎士』などを手がけている。新国立劇場では『フィガロの結婚』『西部の娘』を演出している。



アルマヴィーヴァ伯爵：須藤慎吾（バリトン）

Il Conte Almaviva : SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンクール第1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位（イタリア）などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では『椿姫』ドウフォール男爵／ジェルモン、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、『アイーダ』アモナズロ、『リゴレット』モンテローネ伯爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロ、『ウィリアム・テル』ヴァルテル・フルスト、鑑賞教室『トスカ』スカルピア、鑑賞教室『カルメン』エスカミーリョなど主要な役で出演を重ねる。26/27シーズンは『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオに出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。



フィガロの結婚

主要キャスト・スタッフ プロフィール

伯爵夫人：吉田珠代（ソプラノ）

La Contessa : YOSHIDA Tamayo

愛知県立芸術大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。ボローニャ、ミュンヘン、ウィーンにて研鑽を積む。2010年オーストリア・シュタイヤー音楽祭にて『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナでヨーロッパデビュー。近年、G.デスピノーサ指揮『外套』ジョルジェッタ、東京・春・音楽祭『仮面舞踏会』アーメリア、同『シモン・ボッカネグラ』アーメリア、二期会『コジ・ファン・トゥッテ』(C.アルミンク指揮) フィオルディリージ等で活躍している。第6回静岡国際オペラコンクール最高位・三浦環賞、第12回岩城宏之音楽賞受賞。新国立劇場では高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』タイトルロール、同『カルメン』ミカエラに出演。二期会会員。



フィガロ：木村善明（バス・バリトン）

Figaro : KIMURA Yoshiaki

東京藝術大学卒業、同大学院修了。博士号（音楽）取得。2007年に渡独。ドイツ、フランス、ベルギーで研鑽を積み、ドイツ国家演奏家資格取得。11年には、2年に1度ドイツで開催される若手オペラ歌手のための登竜門、パンペルク夏のフェスティバルにて『フィガロの結婚』タイトルロールに抜擢されヨーロッパデビュー。14年にはマンハイム歌劇場で同役を歌い、聴衆、メディア双方から高い評価を得た。14/15シーズンから、ドイツ・ビーレフェルト歌劇場と専属歌手契約を結び、ソリストとして活躍。フィガロに加え『後宮からの逃走』オスミン、『セビリアの理髪師』バルトロ、ワーグナー『ラインの黄金』アルベリヒ、同『パルジファル』クリングゾル、グノー『ファウスト』メフィストフェレスなどバスからバス・バリトンの重要な役どころを任せられている。同劇場のほかデトモルト歌劇場や、スイス・ハルヴィルのオペラ音楽祭、ドイツ・ミンデンのリヒャルト・ワーグナー音楽祭などにも客演、ヨーロッパでの舞台歴はすでに600回を超えており。第24回五島記念文化賞オペラ新人賞、2021年度三菱地所賞ほか受賞多数。新国立劇場初登場。



スザンナ：九嶋香奈枝（ソプラノ）

Susanna : KUSHIMA Kanae

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてミラノに留学。2005年にはギリシャにてアテネ国立劇場開場記念公演『魔笛』(ミヒャエル・ハンペ演出)に招聘され出演。第54回全日本学生音楽コンクール第1位、HIMESコンクール第1位。東京二期会『魔笛』パパゲーナ、びわ湖ホール『死の都』ユリエッテ、PMFステージオペラ『ナクソス島のアリアドネ』ナヤーデなどに出演。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネット、『フィガロの結婚』スザンナ、バルバリーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『パルジファル』小姓1、『ジークフリート』森の小鳥、『魔笛』パパゲーナ、『愛の妙薬』ジャンネット、『ペレアスとメリザンド』イニヨルド、『ボリス・ゴドウノフ』クセニア、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『ドン・パス夸ーレ』ノリーナ、『魔笛』パミーナなどに出演。東京音楽大学非常勤講師。二期会会員。



フィガロの結婚

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ケルビーノ：山下裕賀（メゾソプラノ）

Cherubino : YAMASHITA Hiroka

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程を首席修了。同大学院博士後期課程単位取得。武藤舞奨学金を得て、在学中にウィーンへ短期留学。2023年、第92回日本音楽コンクール声楽部門第1位および聴衆賞、第9回静岡国際オペラコンクール三浦環特別賞を受賞。これまでに日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、『カブレーイとモンテッキ』ロメオ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、藤沢市民オペラ『ナブッコ』フェネーナなどに出演。24年藤原歌劇団『ラ・チェネレントラ』タイトルロールで絶賛される。コンサートでは、大野和士指揮・東京都交響楽団によるヤーネチエク『グラゴル・ミサ』、ドヴォルザーク『スター・バト・マーテル』をはじめ、ベートーヴェン『第九』、ヴェルディ『レクイエム』、プロコフィエフ『アレクサンダー・ネフスキ』などでソリストを務める。新国立劇場では25年『ナターシャ』アラトに出演し、絶賛された。日本声楽アカデミー会員。



マルチェッリーナ：中島郁子（メゾソプラノ）

Marcellina : NAKAJIMA Ikuko

東京藝術大学卒業（安宅賞及び松田トシ賞受賞）、同大学院修了。キジアーナ音楽院修了。文化庁海外研修員として渡伊。これまでに東京二期会『ナブッコ』フェネーナ、『イル・トロヴァトーレ』アズチエーナ、『蝶々夫人』スズキ、『修道女アンジェリカ』公爵夫人、『ジャンニ・スキッキ』ツィータ、日生劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、『メディア』ネリスなどに出演。『第九』や宗教曲、マーラーの交響曲でもソリストとして活躍している。新国立劇場では『カルメン』メルセデス、『ワルキューレ』シュヴェルトライテ、『ジャンニ・スキッキ』チェスカに出演。二期会会員。



バルトロ：妻屋秀和（バス）

Bartolo : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマーのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツアルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を100役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長／フィリッポ二世、『ラインの黄金』ファーヴルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『イオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケル、『夢遊病の女』ロドルフオ伯爵、『ウィリアム・テル』ジェスレル、『ヴォツェック』医者など出演多数。26/27シーズンは『フィガロの結婚』バルトロ、『サロメ』2人のナザレ人、『ファルスタッフ』ピストーラ、『マクベス』バンクローに出演予定。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2024年紫綬褒章受章。



フィガロの結婚

主要キャスト・スタッフ プロフィール

バジリオ：青地英幸（テノール）

Basilio : AOCHI Hideyuki

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。これまでに『魔笛』タミーノ、ロッシーニ『オテロ』ロドリーゴ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カルメン』ドン・ホセなどを演じている。宗教曲ソリストとしても活躍。新国立劇場では『おさん』『ホフマン物語』『ばらの騎士』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『サロメ』『ファルスタッフ』『ジャンニ・スキッキ』『夏の夜の夢』『フィガロの結婚』『夜鳴きうべ』『ボリス・ゴドウノフ』『子どもと魔法』『こうもり』『トリスタンとイゾルデ』『ヴォツェック』『ジークフリート』ハイライトコンサートなど多数出演。本年1月『こうもり』ブリント博士に出演。26/27シーズンは『フィガロの結婚』バジリオ、『ばらの騎士』料理屋の主人に出演予定。成城大学合唱部ヴォイストレーナー。公津の杜男声合唱団指導者。コールペガサス・ヴォイストレーナー。足利オペラ・リリカ専属アーティスト並びに研究科講師。武蔵野音楽大学講師。



ドン・クルツィオ：水野 優（テノール）

Don Curzio : MIZUNO Yu

愛知県立芸術大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第19期修了、在籍中にはANAスカラシップ認定者として、ミラノ・スカラ座アカデミー、バイエルン州立歌劇場付属研修所（ドイツ・ミュンヘン）で研修を行う。日本演奏連盟「新進演奏家育成プロジェクトオーケストラシリーズ第17回」で円光寺雅彦指揮・名古屋フィルハーモニー交響楽団と共に演。オペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『イル・カンピエッロ』ドナ・カーテ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『フィガロの結婚』ドン・バジリオ/ドン・クルツィオ、『椿姫』アルフレード、ガストン等に出演。新国立劇場本公演のカヴァーとして『子どもと魔法』『こうもり』『椿姫』『魔笛』等に参加。2025年『ジャンニ・スキッキ』グッジョで新国立劇場デビュー、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『魔笛』僧侶II・武士Iに出演。本年5月『ウェルテル』ブリューマンに出演予定。



アントニオ：晴 雅彦（バリトン）

Antonio : HARE Masahiko

大阪音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルリンに留学。ケムニッツ市立歌劇場『魔笛』パパゲーノでヨーロッパ・デビュー後、同劇場『ヘンゼルとグレーテル』『ウィンザーの陽気な女房たち』、ザクセン州立歌劇場『蝶々夫人』ゴロー、ドイツ・ラインスベルク音楽祭、ヴァドステーナ音楽祭などに出演。『魔笛』パパゲーノなどでチョン・ミョンファンと共に演。「プレミアム・シアター」「題名のない音楽会」に出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』『ラ・ボエーム』『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』『運命の力』『ばらの騎士』『ルル』『夜叉ヶ池』『ホフマン物語』『魔笛』『蝶々夫人』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』などに出演。26/27シーズンは『フィガロの結婚』アントニオ、『トスカ』堂守、『ばらの騎士』公証人に出演予定。大阪芸術劇場奨励新人、大阪文化祭奨励賞、兵庫県芸術奨励賞、咲くやこの花賞を受賞。大阪音楽大学教授。



トスカ

2027年1/28～2/11
〈レパートリー〉Repertory

Tosca

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年9/21(月・祝)～10/7(水) ○一般発売日：2026年10/11(日)

初演：1900年1月14日／コスタンツィ劇場（ローマ）

作曲：ジャコモ・プッチーニ 原作：ヴィクトリアン・サルドウ 台本：ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイージ・イッリカ

プロダクションについて

政情不安に揺れるローマを舞台に、運命に翻弄される歌姫トスカと共和派の画家カヴァラドッシの愛と悲劇を、プッチーニが甘美な旋律と劇的なオーケストラで描いた傑作オペラ。冒頭のカヴァラドッシの甘美なアリア「妙なる調和」、トスカの絶唱「歌に生き、愛に生き」、カヴァラドッシの告別の歌「星は光りぬ」など各幕に人気アリアが散りばめられています。ナポレオン軍がオーストリア軍に勝利した歴史的な1日を切り取った緊迫のドラマ、そして美しくドラマティックな声のエンターテインメントとして歌手の技量も存分に楽しめる、オペラ作品の代表作の一つです。

マダウ=ディアツ演出は、自由を求めるカヴァラドッシとトスカの愛、共和派を狙う警視総監スカルピアのドラマを緻密な描写で描くもの。壮麗な歴史的建造物が細やかに再現された豪華な舞台で、圧倒的人気を誇ります。中でも第1幕フィナーレの「テ・デウム」は大聖堂に足を踏み入れたかのように目の前で舞台が展開し、人々の神を讃える合唱を背景に悪役スカルピアが欲望を吐露する、圧巻の名場面。新国立劇場ならではの豪華絢爛な舞台と大迫力の音楽で、オペラの醍醐味を存分に味わっていただきます。

指揮にはイタリア・オペラの巨匠ドナート・レンツェッティ、注目のトスカはオペラ界のスターとして輝くソプラノ、カルメン・ジャンナッタージョ、カヴァラドッシにはベルカントからドラマティックな役柄へとスケールを増すトップ・テノール、サイミール・ピルグ、スカルピアは世界屈指の人気バリトン、ダリボール・イエニスが出演。オペラファンには見逃せない上演です。

あらすじ

【第1幕】旧王制派の警視総監スカルピアの恐怖政治下の1800年6月17日のローマ。共和派で画家のカヴァラドッシが教会でマリア像を描いていると、アンジェロッティが脱獄して逃げてくる。カヴァラドッシは再会を喜ぶが、恋人のトスカが来るのを、慌てて彼を礼拝堂に隠す。トスカは描きかけのマリア像が侯爵夫人にそっくりだと嫉妬するが、カヴァラドッシになだめられ教会を去る。彼らが隠れ家に向った後、スカルピアが教会にやってくる。脱獄犯をかくまった証拠をつかんだスカルピアは、嫉妬深いトスカを利用して二人の行方を突きとめようとする。

【第2幕】スカルピアの執務室にカヴァラドッシが連行される。アンジェロッティの居場所を白状しない彼は、拷問部屋へ連れていかれる。トスカは拷問を受ける彼のうめき声を聞き、アンジェロッティの居場所を告白してしまう。

カヴァラドッシを助けてほしいとトスカが懇願すると、スカルピアは代わりにトスカ自身を要求。トスカは泣く泣く受け入れる。スカルピアは、形だけの死刑執行をするため、空砲で銃殺刑を行うと約束する。納得したトスカは出国のための通行証書を要求。書き終えたスカルピアがトスカを抱こうとしたとき、「これがトスカの口づけよ」とトスカはスカルピアを刺し、部屋を去る。

【第3幕】牢獄のカヴァラドッシのもとをトスカが訪れ、スカルピアを殺したこと、刑は見せかけであることを説明。死刑執行のときを迎える。銃声が鳴り響き、地面に崩れ落ちるカヴァラドッシ。トスカが駆け寄ると、彼は絶命していた。そのときスカルピア殺害も発覚し、追手の声が迫る。追い詰められたトスカは、聖アンジェロ城から身を投げる。



2024年公演より

ジャコモ・ヅッチーニ

トスカ

Giacomo Puccini / Tosca

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮.....	ドナート・レンツェッティ
Conductor	Donato RENZETTI
演出.....	アントネッロ・マダウ=ディアツ
Production	Antonello MADAU-DIAZ
美術.....	川口直次
Set Design	KAWAGUCHI Naoji
衣裳.....	ピエール・ルチアーノ・カヴァッロッティ
Costume Design	Pier Luciano CAVALLOTTI
照明.....	奥畠康夫
Lighting Design	OKUHATA Yasuo
トスカ.....	カルメン・ジャンナッタージョ
Tosca	Carmen GIANNATTASIO
カヴァラドッシ.....	サイミール・ピルグ
Cavaradossi	Saimir PIRGU
スカルピア.....	ダリボール・イェニス
Scarpia	Dalibor JENIS
アンジェロッティ.....	斎木健詞
Angelotti	SAIKI Kenji
スポレッタ.....	後田翔平
Spoletta	USHIRODA Shohei
シャルローネ.....	大久保惇史
Sciarrone	OKUBO Atsushi
堂 守.....	晴 雅彦
Il Sagrestano	HARE Masahiko
合唱.....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽.....	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2027年1月28日(木)18:00	30日(土)14:00
2月 2日(火)14:00	5日(金)14:00
7日(日)14:00	11日(木・祝)14:00

【料金】

S:34,100円・A:28,600円・B:20,900円・C:14,300円・D:8,250円

【会場】

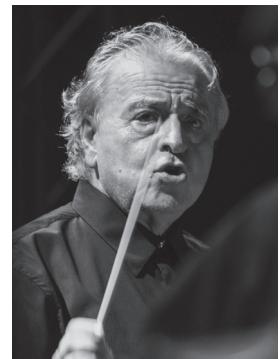
オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：ドナート・レンツェッティ

Conductor : Donato RENZETTI

イタリア音楽界で最も尊敬を集める指揮者の一人。ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場名誉指揮者。イタリアの主要劇場すべてのほか、パリ・オペラ座、英國ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場、バイエルン州立歌劇場、トゥールーズ・キャピトル劇場、メトロポリタン歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、ダラス・オペラ、サンフランシスコ・オペラなど世界最高峰の歌劇場やグラインドボーン、スポレート、ペザロ、パルマの各音楽祭で、これまでに100作以上のオペラを指揮する。また、ロンドン・シンフォニエッタ、ロンドン・フィルハーモニック、フィルハーモニア管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、サンタ・チエチーリア音楽院管弦楽団などの著名オーケストラへも客演。録音活動も精力的で、シューベルト、モーツアルト、チャイコフスキイ、ケルビニー、ドニゼッティ、ロッシーニ、ポンキエッリなどの録音をリリース。後進の指導に献身的に取り組み、アカデミア・ムジカーレ・ベスカレーゼで30年に渡り教鞭を執り、今日のイタリア人指揮者のほとんどを教え子に持つ。2019年からは教育の場をサルツツォ高等音楽院に移し、トリノ王立歌劇場管弦楽団と提携。25年には同劇場で「レンツェッティ指揮者アカデミー」を開設した。新国立劇場へは19年『蝶々夫人』以来、待望の登場となる。



演出：アントネッロ・マダウ=ディアツ

Production : Antonello MADAU-DIAZ

イタリア・ペルージャ生まれ。フィレンツェで舞台技術と演出を学び、ヴィスコンティ、ゼッフィリエッリなど世界第一級の演出家のもとで研鑽を積む。1956年ジェノヴァ市立歌劇場の『ヘンゼルとグレーテル』でオペラ演出家デビュー。以来、ミラノ、ローマなどイタリア各地をはじめ、スペイン、フランス、アメリカなど世界各地の歌劇場で200本以上の演出を手がけ、オペラ専門の演出家として活躍。いずれもイタリア・オペラの伝統を踏まえた手堅い演出で評価を得ている。58年から91年までミラノ・スカラ座に所属し、演出部長、制作部長を務めた。新国立劇場では、98年に『ナブッコ』、2000年には『トスカ』の演出を手掛けた。『トスカ』は緻密な舞台づくりと豪華な舞台装置で、新国立劇場屈指の人気レパートリーとなっている。15年8月逝去。



トスカ：カルメン・ジャンナッタージョ（ソプラノ）

Tosca : Carmen GIANNATTASIO

イタリア出身。ミラノ・スカラ座アカデミーに学び、2002年のオペラリア・コンクールに優勝し国際的キャリアを開く。スカラ座、ナボリ・サン・カルロ歌劇場、ボローニャ歌劇場、メトロポリタン歌劇場、英國ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場などの著名劇場を舞台に、『カルメン』ミカエラ、『シモン・ボッカネグラ』アーメリア、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『湖上の美人』エレナ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ラ・ボエーム』ミミ、『道化師』ネッダ、『トスカ』タイトルロール、『仮面舞踏会』アーメリアなどをレパートリーに活躍。17年、イタリア共和国星章騎士勳章受章。21年ニューヨークでカラス記念賞受賞。24年、G7文化サミットで演奏。現代の世界的オペラスターとして、声楽技巧と専門的解釈と並び卓越した自己表現により広く人気を獲得し、数々の映画監督から起用されて「オペラ界のアンナ・マニヤーニ」(英テレグラフ)と評される。カール・ラガーフェルド、アルベルタ・フェレッティ、アントニオ・リーヴァといったデザイナーへもインスピレーションを与える。近年ではトスカなどの中核レパートリーに加え、『外套』ジョルジェッタ、ジョコンダ、アイーダ、『西部の娘』ミニー、蝶々夫人といった役にロールデビューしている。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

カヴァラドッシ：サイミール・ピルグ（テノール）

Cavaradossi: Saimir PIRGU

ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、英國ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場など著名劇場で活躍し、世界で最も注目されるリック・テノール。近年では、ローマ・カラカラ浴場で『トスカ』カヴァラドッシのロールデビューを飾ったほか、エディンバラ・フェスティバル『カルメン』ドン・ホセ、ブレゲンツ音楽祭『エルナーニ』タイトルロール、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン、ウィーン国立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフ、英國ロイヤルオペラ『リゴレット』『ラ・ボエーム』、チューリヒ歌劇場『カルメン』、ローマ歌劇場『エフゲニー・オネーゲン』レンスキ、ベルリン州立歌劇場『イドメネオ』タイトルロール、チューリヒ歌劇場『ホフマン物語』ホフマンに出演。24/25シーズンはチューリヒ歌劇場『マノン・レスコー』デ・グリュー（ロールデビュー）、『ホフマン物語』、バイエルン州立歌劇場『マノン・レスコー』、ウィーン国立歌劇場『ロメオとジュリエット』『ラ・ボエーム』『マクベス』に出演。25/26シーズンの主な出演に、ダラス・オペラ『カルメン』、ウィーン国立歌劇場『蝶々夫人』、バイエルン州立歌劇場『ラ・ボエーム』などがある。2013年、パヴァロッティ・ドーコ賞受賞。アルバニア・ダウン症財団アンバサダー。新国立劇場では『愛の妙薬』ネモリーノ、『ウェルテル』タイトルロールに出演。

**スカルピア：ダリボール・イエニス（バリトン）**

Scarpia : Dalibor JENIS

スロヴァキア共和国生まれのバリトン。これまでにミラノ・スカラ座、英國ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなど世界の名だたる歌劇場をはじめ、各地の主要なオペラハウスと音楽祭での出演を重ねている。その豊かな表現力から、『リゴレット』『ナブッコ』『マクベス』などのヴェルディ作品のほか、『ドン・ジョヴァンニ』や『エフゲニー・オネーゲン』のタイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『カルメン』エスカミーリョ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『道化師』トニオ、『セビリアの理髪師』フィガロなど、幅広いレパートリーを当たり役としている。近年では、モデナ・パヴァロッティ歌劇場『トスカ』スカルピア、ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場『リゴレット』タイトルロールに出演。今後の予定には、チューリヒ歌劇場『仮面舞踏会』レナートなどがある。新国立劇場では『セビリアの理髪師』フィガロ、『マノン・レスコー』レスコーに出演。

**アンジェロッティ：斎木健詞（バス）**

Angelotti : SAIKI Kenji

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてボローニャへ留学。第78回日本音楽コンクール声楽部門第3位。二期会『ポッペアの戴冠』セネカ、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、騎士長、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ナクソス島のアリアドネ』トゥルファルディン、『ナブッコ』ザッカーリア、兵庫県立芸術文化センター『トスカ』スカルピア、びわ湖ホール『海賊』ジョヴァンニ、『ばらの騎士』オックス男爵、東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー『さまざまよえるオランダ人』ダーラント、『パルジファル』グルネマンツ、『ニュルンベルクのマイスタージングガ』ポークナーなどに出演。新国立劇場では『カルメン』スニガ、『サロメ』2人の兵士2、『アイーダ』エジプト国王、『軍人たち』フォン・シュパンハイム伯爵、『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』ラインマル、鑑賞教室ロームシアター京都公演『魔笛』ザラストロに出演。本年2月『リゴレット』スペラフチーレ、6・7月『エレクトラ』オレストの養育者、26/27シーズンは『トスカ』アンジェロッティ、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026ロームシアター京都公演『蝶々夫人』ボンゾに出演予定。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

スポレッタ：後田翔平（テノール）

Spoletta : USHIRODA Shohei

愛媛県西条市出身。東京音楽大学卒業。第44回イタリア声楽コンクール第1位ミラノ大賞受賞。2017年度よんでん芸術文化奨励賞受賞。18年度公益財団法人さわかみオペラ芸術振興財団イタリア留学助成金奨学生。14年に渡伊。パルマ国立音楽院アッリーゴ・ボートを経て、16年にモデナ市立歌劇場研修所修了。ミレッラ・フレーニ女史のもと研鑽を積む。同劇場よりディプロマを授与される。17年にモデナ市立歌劇場において、歌劇『ジャンニ・スキッキ』のリヌッチョ役にてデビュー後、クロアチア国立歌劇場、オリンピコ歌劇場（ヴィチェンツァ）、プッチーニ音楽祭（トッレ・デル・ラゴ）をはじめ様々なオペラに出演。またモナコ公国モンテカルロにおける『小莊嚴ミサ』や、イタリア・ルッカのサン・マルティーノ大聖堂における『グローリア・ミサ』のソリスト等もつとめる他、さまざまな国においてソリストとして出演を重ねている。新国立劇場では26/27シーズン『トスカ』スポレッタ、『ばらの騎士』元帥夫人の執事に出演予定。新国立劇場初登場。



シャルローネ：大久保惇史（バリトン）

Sciarrone : OKUBO Atsushi

千葉県出身。東邦音楽大学卒業時三室戸貴光賞受賞。同総合芸術研究所修了。新国立劇場オペラ研修所第23期修了。ANAスカラシップによりミラノ・スカラ座アカデミーで研修。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『トスカ』シャルローネ、『領事』ジョン・ソレル等に出演。新国立劇場本公演では『魔笛』『エフゲニー・オネーギン』『トリスタンとイゾルデ』『ウィリアム・テル』等でカヴァーを務め、特に2025年『フィレンツェの悲劇』シモーネのカヴァーでは進境著しい姿がカヴァーコンサートで話題となった。同年『ジャンニ・スキッキ』ピネッリーノで新国立劇場デビュー。26/27シーズンは『トスカ』シャルローネ、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026『愛の妙薬』ベルコーレに出演予定。



堂守：晴 雅彦（バリトン）

Il Sagrestano : HARE Masahiko

大阪音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルリンに留学。ケムニッツ市立歌劇場『魔笛』パパゲーノでヨーロッパ・デビュー後、同劇場『ヘンゼルとグレーテル』『ウィンザーの陽気な女房たち』、ザクセン州立歌劇場『蝶々夫人』ゴロー、ドイツ・ラインスペルク音楽祭、ヴァドステーナ音楽祭などに出演。『魔笛』パパゲーノなどでチョン・ミョンファンと共に演じ、「プレミアム・シアター」「題名のない音楽会」に出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』『ラ・ボエーム』『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』『運命の力』『ばらの騎士』『ルル』『夜叉ヶ池』『ホフマン物語』『魔笛』『蝶々夫人』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』などに出演。26/27シーズンは『フィガロの結婚』アントニオ、『トスカ』堂守、『ばらの騎士』公証人に出演予定。大阪芸術劇場奨励新人、大阪文化祭奨励賞、兵庫県芸術奨励賞、咲くやこの花賞を受賞。大阪音楽大学教授。



サロメ

2027年2/6～2/13
〈レパートリー〉Repertory

Salome

オペラパレス | 4回公演 | 全1幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年10/24(土)～11/10(火) ○一般発売日：2026年11/14(土)

初演：1905年12月9日／ドレスデン宮廷歌劇場

作曲：リヒャルト・シュトラウス 原作：オスカー・ワイルド 台本：ヘドヴィッヒ・ラッハマン

プロダクションについて

オスカーワイルドの耽美的、退廃的な戯曲を、リヒャルト・シュトラウスが極彩色の音楽でオペラ化し、大反響を呼んだスキャンダラスな傑作。約1時間40分の舞台に、豊麗で甘美な旋律と大胆な不協和音が凝縮されており、緊張感溢れる濃密なドラマに息をつく暇もありません。クライマックスの「7つのヴェールの踊り」は、サロメが身にまとったヴェールを剥ぎ取りながら妖艶な踊りを披露する、官能美と緊迫感に満ちた見せ場です。

指揮は沼尻竜典、サロメにノルウェーのソプラノ、ヘドヴィク・ハウゲルド、ヘロデには2020年世界初演『アルマゲドンの夢』に主演し圧倒的共感を呼んだピーター・タンジッツ、ヨハナーンにリトアニアのバス・バリトン、コスタス・スマリギナスとフレッシュなキャストが集まります。ヘロディアスは前回サロメを歌い豊かな声とダイナミックな表現が絶賛されたアレクサンドリーナ・ペンドチャンスカです。



2011年公演より

あらすじ

紀元30年頃。不気味な月が昇る晩に、領主ヘロデの宮殿で宴が催されている。ヘロデの義理の娘サロメは、ヘロデのいやらしい視線と宴の退屈さに嫌気がさし、外に出てくる。サロメに恋焦がれる衛兵隊長ナラボートは、今晚は彼女が一段と輝いて見えると称えるが、小姓は不吉な予感がしてたまらない。すると庭の古井戸から「救世主が現れる日がついに来た」と語る声が。それは預言者ヨハナーンの声だった。彼は、サロメの母ヘロディアスを糾弾したために古井戸に幽閉されているが、ヘロデからも恐れられている。興味を持ったサロメは、ヨハナーンを連れてくるようナラボートに命じる。古井戸から出てきたヨハナーンは、穢れたヘロディアスの罪を激しく非難するが、サロメはすっかり魅せられてしまう。サロメはヨハナーンにキスを求めるが、彼は拒否。その光景に耐えられずナラボートが自殺してしまうほど、サロメは何度もキスを求めるものの、ヨハナーンは「呪われよ」との言葉を吐いて、古井戸に戻る。

ヘロデはサロメを宴の席に呼び戻し、酒を一緒に飲もう、横に座れ、と誘うが、サロメは断る。ヨハナーンは「ついにその日が来た」と不気味に語り、ユダヤ人たちは神や預言者についての論争を繰り広げる。ヘロデはおもむろにサロメに踊りを求める。嫌がるサロメだが「望みのものを何なりと褒美にやる」と言われ、妖艶な踊りを披露する。踊り終えてサロメが要求したものは、ヨハナーンの首であった。恐れおののくヘロデがどんなに諭してもサロメが要求を変えないため、ヘロデはその望みを受け入れる。銀の盆に載って運ばれるヨハナーンの首。受け取ったサロメは、ヨハナーンに口づけして恍惚とする。あまりのおぞましさに、ヘロデは兵士たちにサロメ殺害を命じるのだった。

リヒャルト・シュトラウス

サロメ

Richard Strauss / Salome

全1幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 沼尻竜典
Conductor NUMAJIRI Ryusuke

演出 アウグスト・エファーディング
Production August EVERDING

美術・衣裳 ヨルク・ツインマーマン
Set and Costume Design Jörg ZIMMERMANN

サロメ ヘドヴィク・ハウゲルド
Salome Hedvig HAUGERUD
ヘロデ ピーター・タンジッツ
Herodes Peter TANTSITS
ヘロディアス アレクサンドリーナ・ペンドチャンスカ
Herodias Alexandrina PENDATCHANSKA

ヨハナーン コスタス・スマリギナス
Johanaan Kostas SMORIGINAS

ナラボート 濱松孝行
Naraboth HAMAMATSU Takayuki

ヘロディアスの小姓 杉山由紀
Ein Page der Herodias SUGIYAMA Yuki

5人のユダヤ人1 前川健生
5 Juden 1 MAEKAWA Kensho

5人のユダヤ人2 新堂由暁
5 Juden 2 SHINDO Yoshiaki

5人のユダヤ人3 下村将太
5 Juden 3 SHIMOMURA Shota

5人のユダヤ人4 糸賀修平
5 Juden 4 ITOGA Shuhei

5人のユダヤ人5 狩野賢一
5 Juden 5 KANOU Ken-ichi

2人のナザレ人1 妻屋秀和
2 Nazarener 1 TSUMAYA Hidekazu

2人のナザレ人2 秋谷直之
2 Nazarener 2 AKITANI Naoyuki

2人の兵士1 三戸大久
2 Soldaten 1 SANNOHE Hirohisa

2人の兵士2 大塚博章
2 Soldaten 2 OTSUKA Hiroaki

カッパドキア人 高田智士
Ein Cappadocier TAKADA Satoshi

奴隸 花房英里子
Ein Sklave HANAFUSA Eriko

管弦楽 東京交響楽団
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2027年2月 6日(土)14:00	8日(月)14:00
10日(水)14:00	13日(土)14:00

【料金】

S:28,600円・A:24,200円・B:17,050円・C:10,450円・D:7,150円

【会場】

オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：沼尻竜典

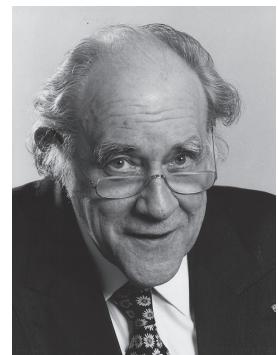
Conductor : NUMAJIRI Ryusuke

神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督、びわ湖ホール桂冠芸術監督。1990年ブザンソンコンクール優勝。ロンドン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス放送フィル、ミラノ・ヴェルディ響など世界各国のオーケストラに客演。国内ではNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、多くのポストを歴任。ドイツではリューベック歌劇場音楽総監督を務め、数々の名演を残す。ケルン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コミニッシュ・オーパー、バーゼル歌劇場、シドニー・オペラハウスなどへも客演。16年間芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、『ニーベルングの指環』を含め、ワーグナーの主要10作品を指揮した。2014年、横浜みなとみらいホールの委嘱でオペラ『竹取物語』を作曲・初演。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、毎日芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、ENEOS音楽賞洋楽部門本賞などを受賞。紫綬褒章受章。新国立劇場では『カルメン』『フィガロの結婚』『鹿鳴館』『トスカ』『フィレンツェの悲劇／ジャニ・スキッキ』『修道女アンジェリカ／子どもと魔法』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』『トスカ』『ドン・パスクワーレ』を指揮している。

**演出：アウグスト・エファーーディング**

Production : August EVERDING

1928年ドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州ボットロップに生まれる。ボン大学及びミュンヘン大学で哲学、ドイツ文学、劇場学を修める。ミュンヘン室内劇場で演出助手として研鑽を積み、その後各地で演出家として活躍。59年ミュンヘン室内劇場の上席舞台監督、63年に同劇場監督、73年にはハンブルク州立歌劇場監督、77年にバイエルン州立歌劇場の劇場監督となり、82年には同劇場の総支配人に就任、93年にバイエルン州テアトロアカデミー総監督兼理事長となる。99年ミュンヘンで没する。生前は演出家としても精力的に活動し、バイロイト、ウィーン、ニューヨークなど各地でオペラ演出に携わった。主な演出作品にバイロイト音楽祭『トリスタンとイゾルデ』などがある。

**サロメ：ヘドヴィク・ハウゲルド（ソプラノ）**

Salome : Hedvig HAUGERUD

ノルウェー音楽アカデミーを卒業後、パリ国立高等音楽院、コペンハーゲンのオペラ・アカデミーで研鑽を積んだ。類まれな声色、力強さ、個性で、キャリアの初期段階から際立った存在感を示している。2023年パリ・オペラ座コンクール第2位、ミルヤム・ヘリン国際声楽コンクールプレス審査員賞、24年ラウリット・メルヒオール国際歌唱コンクール第1位。アンネ・ゾフィー・フォン・オッター、ボー・スコウフス、ソイレ・イソコスキ、ランディ・ステーネに師事。ドブルグ財団から研究助成金を授与され、スカーゲン・タレント・アワード2019を受賞した。近年では、ベルゲン・フィルハーモニック・ユース・オーケストラでグリーグの歌曲を歌い、キリル・ベトレンコ指揮ベルゲン・フィルハーモニック管弦楽団『エレクトラ』第4の侍女に出演したほか、メス・メトロポール歌劇場で『サロメ』タイトルロールに出演。ノルウェー国立オペラ『エレクトラ』第5の侍女、トーマス・セナゴー指揮デンマーク王立オペラの『エレクトラ』などにも出演している。デンマーク王立歌劇場では『椿姫』アンニーナ、スウェーデンでは『仮面舞踏会』アメリカに出演。25年ブレゲンツ音楽祭のリサイタルも好評を博す。25/26シーズンはサンタ・チチリア音楽院管弦楽団『ワルキューレ』オルトリンド、メス歌劇場『エレクトラ』にも出演予定。新国立劇場へは本年6・7月『エレクトラ』クリソテミスでデビュー予定である。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ヘロデス：ピーター・タンジツ（テノール）

Herodes : Peter TANTSITS

アメリカ出身。シェーンベルク、シュトラウス、ストラヴィン斯基、ベルク、リゲティ、ツィマーマン、ヘンツェ、ノーノ、シュトックハウゼンなどをレパートリーに、ミラノ・スカラ座、ジュネーヴ大劇場、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。コンサートではベルリン・フィル、ロンドン響などの主要オーケストラのほか、ロンドン・シンフォニエッタ、アンサンブル アンテルコンタンポラン、アンサンブル・モデルン、そして創設メンバーであるインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル（ニューヨーク）などと共に演。現代オペラに熱意を注ぎ、50以上の新作の初演に携わる。2019年、フランダース・オペラ『Les Bienveillantes』世界初演で大成功を収め、Opernwelt誌の年間最優秀歌手にノミネート。24/25シーズンは、ヴェローナで『エレクトラ』エギスト、ハンブルク州立歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』舞踊教師、フランダース・オペラのノーノ『イントレランツァ1960（不寛容）』移民などのほか、モネ劇場『ファニーとアレクサンデル』オスカーニ・エクダール、ラヴェル音楽祭及びフィルハーモニー・ド・パリで室内オペラ『左手La Main gauche』テノール、リセウ大劇場『ボルトボウのベンヤミンBenjamin a Portbou』ヴァルター・ベンヤミンと、3作の世界初演オペラの主要役に出演した。新国立劇場へは藤倉大作曲『アルマゲドンの夢』クーパー以来の登場。



ヘロディアス：アレクサンドリーナ・ペンドチャンスカ（ソプラノ）

Herodias : Alexandrina PENDATCHANSKA

ソフィア生まれ。ビルバオ・オペラ『ルチア』でデビューし国際的に躍り出た。ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルギー王立モネ劇場、ボリショイ劇場など世界一流の歌劇場に出演し、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・カルロ』エボリ公女とエリザベッタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラとドンナ・アンナ、『サロメ』タイトルロール、『仮面舞踏会』アーメリア、『マクベス』マクベス夫人、『フィデリオ』レオノーレなど、バロック、古典からベルカント、ヴェルディ、ワーグナーやシュトラウスまでレパートリーとする。近年の主な出演に、サンタフェ・オペラ、ポーランド国立歌劇場『サロメ』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『道化師』ネッダ、エクサン・プロヴァンス音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、ウィーン国立歌劇場、モネ劇場、ケルン歌劇場『エレクトラ』タイトルロール、サンタフェ・オペラ『フィデリオ』レオノーレ、アヴィニヨン歌劇場、リモージュ歌劇場、ランス歌劇場『マクベス』マクベス夫人、ソフィア歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ『トスカ』タイトルロール、モネ劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァなどがある。新国立劇場では2023年『サロメ』タイトルロールに出演している。



ヨハナー：コスタス・スマリギナス（バス・バリトン）

Johanaan : Kostas SMORIGINAS

ヨーロッパの歌劇場、音楽祭で活躍するバス・バリトン。リトアニア音楽演劇アカデミーで学び、カーディフコンクールに優勝。王立音楽院を卒業後、英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・プログラムに参加。これまでに、英国ロイヤルオペラ『ローエングリン』王の伝令、『ラインの黄金』ドンナー、『ボリス・ゴドウノフ』シエルカロフ、ケルン歌劇場、ソフィア王妃芸術宮殿『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、ローザンヌ歌劇場『エフゲニー・オネーゲン』タイトルロール、ベルリン州立歌劇場、ザルツブルク・イースター音楽祭、英国ロイヤルオペラ、サンタフェ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、ノルウェー国立オペラ、ブレゲンツ音楽祭、リトアニア国立歌劇場『カルメン』エスカミーリョ、ルーアン歌劇場『トスカ』スカルピア、ザクセン州立歌劇場『フィガロの結婚』フィガロ、モネ劇場『アレコ』『デーモン』などに出演。24/25シーズンはバイエルン州立歌劇場『ローエングリン』王の伝令のほか、ハノーファー、アントワープ、マルメ、チューリヒで『サロメ』ヨハナーに出演した。25/26シーズンはベルゲン・オペラ『椿姫』ジェルモン、イスラエル・オペラ『サロメ』ヨハナー、ハンガリー国立歌劇場『ローエングリン』王の伝令などに出演する。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ナラボート：濱松孝行（テノール）

Naraboth : HAMAMATSU Takayuki

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院音楽研究科修士課程（独唱）修了。新国立劇場オペラ研修所第20期修了。ANAスカラシップにて、ミラノ・スカラ座アカデミー、バイエルン州立歌劇場オペラスタジオにて研修。日本トステイ歌曲コンクール第1位及び日本歌曲賞ほか、第16回清水かつら記念日本歌曲歌唱コンクール第3位受賞。これまでに『椿姫』アルフレード、『イオランタ』ヴォデモン伯爵、『イドメネオ』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセなどを演じる。モーツアルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などのソリストとしても活躍。新国立劇場では『夜鳴きうぐいす』日本の使者1、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『ボリス・ゴドウノフ』侍従、『子どもと魔法』ティーポットに出演。26/27シーズンは『サロメ』ナラボート、『ばらの騎士』テノール歌手に出演予定。二期会会員。



ヘロディアスの小姓：杉山由紀（メゾソプラノ）

Ein Page der Herodias : SUGIYAMA Yuki

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所修了時に最優秀賞・川崎靜子賞・所長賞受賞。ウィーン国際音楽ゼミナール受講、選抜者によるコンクールにて第3位、ディプロマ取得。全日本学生音楽コンクール第1位・横浜市民賞・ANA副賞、日光国際音楽祭声楽コンクール大賞・審査員長賞などを受賞。東京二期会『ジューリオ・チエザレ』タイトルロール、『アルチーナ』ルッジェーロ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『ルル』劇場の衣裳係／ギムナジウムの学生、びわ湖ホール『神々の黄昏』ヴェルグンデ、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、東京・春・音楽祭『ローエングリン』小姓、東京交響楽団『サロメ』ヘロディアスの小姓、信長貴富作曲『山と海猫』花月などに出演。新国立劇場では『子どもと魔法』羊飼いの少年／牝猫／りす、『椿姫』フローラ、『オルフェオとエウリディーチェ』アモーレに出演。本年6・7月『エレクトラ』クリテムネストラの裳裾持ちの女、26/27シーズンは『サロメ』ヘロディアスの小姓、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026ロームシアター京都公演『蝶々夫人』ケートに出演予定。二期会会員。



カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

2027年3/6～3/16
〈レパートリー〉Repertory

Cavalleria Rusticana / Pagliacci

オペラパレス | 5回公演

『カヴァレリア・ルスティカーナ』全1幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉／『道化師』全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年11/22(日)～12/8(火) ○一般発売日：2026年12/12(土)

【カヴァレリア・ルスティカーナ／Cavalleria Rusticana】 初演：1890年5月17日／コスタンツィ劇場（ローマ）

作曲：ピエトロ・マスカーニ 原作：ジョヴァンニ・ヴェルガ 台本：ジョヴァンニ・タルジョーニ・トッソエッティ、グイード・メナーシ

【道化師／Pagliacci】 初演：1892年5月21日／ダル・ヴェルメ劇場（ミラノ）

作曲・台本：ルッジェーロ・レオンカヴァッコ

プロダクションについて

南イタリアの濃厚な地方色と宗教色を背景に、愛と嫉妬がもたらした悲劇を描いたヴェリズモ・オペラの代表作2作のダブルビルを、13年ぶりに再演します。『カヴァレリア・ルスティカーナ』は、不倫のもつれから決闘に至る物語。美しく切ない有名な間奏曲をはじめ、サントウツアが胸の内を訴えるアリア「ママも知るとおり」など聴きどころが続きます。一方の『道化師』は、道化役者が浮気の疑惑に錯乱して妻を殺す悲劇。カニオの壮絶なアリア「衣裳を着けろ」はテノール屈指の名アリアです。

演出を手掛けたジルベル・デフロは、心理描写にとんだ美しい舞台が高く評価される巨匠。オリーブの大木が影を落とす古代劇場の遺跡がシチリアを彷彿させ、ドラマティックな情念を際立たせる格調高い演出です。

キャストには、卓越したテクニックに賛辞が送られるイタリアのメゾ、キアラ・モジーニ（サントウツア）に、イタリア・オペラ界トップ・テノールのひとりとして大活躍中のルチアーノ・ガンチ（トゥリッドゥ）、ドラマティックな表現の世界的ソプラノとして人気を博す中村恵理（ネッダ）、そして世界最高峰のスピント・テノール、ロベルト・アロニカ（カニオ）ら豪華歌手陣が勢ぞろい。指揮は大野和士芸術監督自らがあたります。



2014年公演より

あらすじ

『カヴァレリア・ルスティカーナ』

復活祭の朝、シチリアの田舎町の広場。サントウツアは恋人トゥリッドゥの母ルチアに、トゥリッドゥの冷たい態度を嘆いている。トゥリッドゥは恋人ローラが荷馬車屋アルフィオと結婚してしまい、腹いせにサントウツアと深い仲になったのだが、今再びローラとよりを戻して密会しているのだ。サントウツアはトゥリッドゥに裏切りを責めたてるが、彼は通りかかったローラと共に教会に入って行ってしまう。嫉妬に駆られたサントウツアは、アルフィオにローラの不貞を密告。アルフィオは復讐を誓う。復活祭のミサが終わると、トゥリッドゥはローラを連れて居酒屋へ。トゥリッドゥが差し出すグラスを、アルフィオは拒絶する。トゥリッドゥはすべてを察しアルフィオの耳を噛む。シチリアでの決闘申し込みの流儀である。トゥリッドゥは「自分が戻らなかったらサントウツアをよろしく」と母に告げ決闘に向かう。胸騒ぎを覚えるルチアとサントウツア。やがて遠くで女の絶叫が届く。「トゥリッドゥが殺された！」

『道化師』

【プロローグ】トニオが現れ「道化の衣裳を着けた役者も人間。喜びも悲しみも感じるのです」と口上を述べる。

【第1幕】町に旅芝居の一座がやって来る。トニオは座長の妻ネッダに気があるが、相手にされない。町にはネッダの愛人シリヴィオがいた。二人の密会を見ていたトニオはカニオに知らせる。激昂したカニオは妻をナイフで脅すが、ネッダは口を割らない。カニオは、逆上しながらも道化芝居を演じなければならない自分の境遇を嘆きながら、化粧をして衣裳を着ける。

【第2幕】芝居小屋に人々が集まる。芝居はイタリアの古典仮面喜劇で、ネッダは浮気な人妻コロンビーナ、ペッペは浮気相手の二枚目アルレッキーノ、カニオはコロンビーナの亭主の道化師パリアッチョ、トニオは間抜けなタッデオという配役。パリアッチョの留守にアルレッキーノと逢い引きし、夫を毒殺する計画を立てるコロンビーナ。パリアッチョに扮して妻の浮気を詰問するうち、カニオは次第に現実と芝居の区別がつかなくなる。何も知らない観客は迫真の演技に拍手喝采。逆上したカニオはナイフで彼女を刺し殺す。トニオが「喜劇は終わりました」と宣言する。

ピエトロ・マスカーニ／ルッジェーロ・レオンカヴァッロ

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

Pietro Mascagni "Cavalleria Rusticana" / Ruggero Leoncavallo "Pagliacci"

『カヴァレリア・ルスティカーナ』全1幕／『道化師』全2幕

〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮.....	大野和士
Conductor	ONO Kazushi
演出.....	ジルベール・デフロ
Production	Gilbert DEFLO
美術・衣裳.....	ウィリアム・オルランディ
Scenery & Costume Design	William ORLANDI
照明.....	ロベルト・ヴェントウーリ
Lighting Design	Roberto VENTURI

【カヴァレリア・ルスティカーナ／Cavalleria Rusticana】

サントゥツァ.....	キアラ・モジーニ
Santuzza	Chiara MOGINI
ローラ.....	郷家暁子
Lola	GOKE Akiko
トゥリッドゥ.....	ルチアーノ・ガンチ
Turiddu	Luciano GANCI
アルフィオ.....	須藤慎吾
Alfio	SUDO Shingo
ルチア.....	谷口睦美
Lucia	TANIGUCHI Mutsumi

【道化師／Pagliacci】

カニオ.....	ロベルト・アロニカ
Canio	Roberto ARONICA
ネッダ.....	中村恵理
Nedda	NAKAMURA Eri
トニオ.....	マッシモ・カヴァレッティ
Tonio	Massimo CAVALLETTI
ペッペ.....	澤原行正
Peppe	SAWAHARA Takamasa
シリヴィオ.....	駒田敏章
Silvio	KOMADA Toshiaki

合唱.....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽.....	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2027年3月 6日(土)14:00	8日(月)14:00
11日(木)14:00	13日(土)14:00
16日(火)14:00	

【料金】

S:31,900円・A:26,400円・B:19,250円・C:12,100円・D:8,250円

【会場】

オペラパレス

カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：大野和士

Conductor : ONO Kazushi

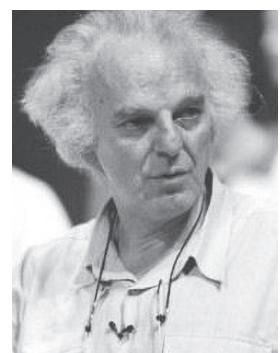
東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督(2018年～)及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英國ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスターインガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドウノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『ウィリアム・テル』『ナターシャ』『ヴォツェック』を指揮している。本年6・7月に『エレクトラ』、26/27シーズンは『ピーター・グラムズ』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』を指揮する予定。



演出：ジルベール・デフロ

Production : Gilbert DEFLO

ベルギー・フランドル地方生まれ。ブリュッセルで学んだ後、ミラノ・ピッコロ劇場でG.ストレーレルに師事。フランクフルトでの『3つのオレンジへの恋』演出を皮切りに国際的なキャリアをスタートし、ハンブルク州立歌劇場『セビリアの理髪師』『ペレアスとメリザンド』、ミラノ・スカラ座『リゴレット』、パリ・オペラ座『マノン』『ドン・キショット』『3つのオレンジへの恋』『売られた花嫁』などを手がける。バロック・オペラの演出にも定評があり、モンペリエ劇場『ポッペアの戴冠』『ウリッセの帰還』、バルセロナのリセウ大劇場『オルフェオ』、シャンゼリゼ劇場『セルセ』など多数演出。これまでに約20カ国で150作品を超えるオペラ演出を手がけている。フランス政府より芸術文化勲章受章。新国立劇場では2014年『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、15年『マノン・レスコー』を演出。



サントウツア（カヴァレリア・ルスティカーナ）：キアラ・モジーニ（メゾソプラノ）

Santuzza : Chiara MOGINI

第69回スポレート国際コンクール優勝。ペルージャ音楽院を卒業後、フィレンツェ歌劇場およびパルマ王立歌劇場のアカデミーで研鑽を積む。2014年スポレート歌劇場『ラ・ボエーム』ミミに現地と日本で上演し、翌年同劇場『仮面舞踏会』アメリカにも出演。ラヴェンナ音楽祭『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツア、フィレンツェ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『アイーダ』アムネリス、サレルノ・ヴェルディ劇場『修道女アンジェリカ』公爵夫人、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツアなどに出演。24年のボローニャ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』アズチーナは際立った成功を収め、同劇場に『三部作』修道女アンジェリカ、25年『仮面舞踏会』ウルリカで再登場。24年はほかに、バーリ・ペトルツェッリ劇場『炎の天使』修道院長、カターニア歌劇場『ジョコンダ』ローラに出演、トリエステ歌劇場の『三部作』三作品で主演を務め大好評を博す。25年はモーダなど各地で『ナブッコ』フェネーナ、プッチーニ・フェスティバル『蝶々夫人』スズキに出演。今後の予定にジェノヴァ、バーリで『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、フェニーチェ歌劇場『ローエングリン』オルトルート、カターニア歌劇場『カルメン』タイトルロールなどがある。新国立劇場初登場。



カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ローラ（カヴァレリア・ルスティカーナ）：郷家暁子（メゾソプラノ）

Lola : GOKE Akiko

東京藝術大学、同大学院オペラ専攻首席修了。学部卒業時に同声会賞、アカンサス音楽賞受賞。二期会オペラ研修所マスタークラス修了時、優秀賞及び奨励賞を受賞。藝大オペラ定期公演『皇帝ティートの慈悲』セストでデビュー。これまでに、『アポロンとヒヤキントス』アポロン、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『カルメン』タイトルロール、日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、二期会『アルチーナ』ブラダマンテ、『金閣寺』娼婦、『修道女アンジェリカ』修練女長、『ルル』ギムナジウムの学生、『こうもり』オルロフスキイ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『パルジファル』小姓/花の乙女、東京・春・音楽祭『ローエングリン』小姓に出演。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』修道女長、『エフゲニー・オネーゲン』ラーリナ、『ヴォツェック』マルグレートに出演。二期会会員。



トウリッドウ（カヴァレリア・ルスティカーナ）：ルチアーノ・ガンチ（テノール）

Turiddu : Luciano GANCI

ローマ出身。2007年オペラリア・コンクール入賞。ミラノ・スカラ座、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ボローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、フィレンツェ歌劇場などで活躍。近年では、ローマ歌劇場（『アイーダ』『道化師』『蝶々夫人』）、バルセロナ・リセウ大劇場（『アイーダ』）、ボローニャ歌劇場（『アンドレア・シェニエ』『ヴェルディ・ガラ』『蝶々夫人』）、ウィーン国立歌劇場（『アドリアーナ・ルクヴルール』『トスカ』）などで成功を収める。最近ではボローニャ歌劇場『マノン・レスコー』デ・グリュー、ピアチェンツァ市立劇場『二人のオスカリ』ヤコポ・オスカリ、ノルウェー国立オペラ『蝶々夫人』、ザルツブルク・イースター音楽祭『レクイエム』、東京・春・音楽祭『アイーダ』、デュッセルドルフ・ライン・ドイツ・オペラ『ドン・カルロ』、ルッカでのコンサート『プッチーニ・セコンド・ムーティ』、カラカラ浴場音楽祭『トゥーランドット』、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『ステイッフェリオ』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『マクベス』『アッティラ』、ミラノ・スカラ座『運命の力』ドン・アルヴァーロ、ローマ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシに出演。ヴェルディのレパートリーは20に及ぶ。新国立劇場では『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノ、『ラ・ボエーム』ロドルフォに出演し絶賛を博した。



アルフィオ（カヴァレリア・ルスティカーナ）：須藤慎吾（バリトン）

Alfio : SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンクール第1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位（イタリア）などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では『椿姫』ドウフォール男爵／ジェルモン、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、『アイーダ』アモナズロ、『リゴレット』モンテローネ伯爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロ、『ウィリアム・テル』ヴァルテル・フルスト、鑑賞教室『トスカ』スカルピア、鑑賞教室『カルメン』エスカミーリョなど主要な役で出演を重ねる。26/27シーズンは『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオに出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。



カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ルチア（カヴァレリア・ルスティカーナ）：谷口睦美（メゾソプラノ）

Lucia : TANIGUCHI Mutsumi

東京藝術大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ第47期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第2回大阪国際コンクール声楽部門入選。これまでに『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『皇帝ティートの慈悲』セスト、『ドン・カルロ』エボリ公女などを演じている。モーツアルト『ミサ曲ハ短調』、ベートーヴェン『第九』、ヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍。新国立劇場では『ナブッコ』フェネーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ、『鹿鳴館』大徳寺公爵夫人季子、『ホフマン物語』アントニアの母の声／ステッラ、『椿姫』アンニーナ、『夢遊病の女』テレーザ等に出演。2021年鑑賞教室及びびわ湖ホール公演『カルメン』タイトルロールでも好評を博した。26/27シーズンは『カヴァレリア・ルスティカーナ』ルチア、『マクベス』侍女に出演予定。二期会会員。



カニオ（道化師）：ロベルト・アロニカ（テノール）

Canio : Roberto ARONICA

今日最高のドラマティック・テノールの一人。ミラノ・スカラ座『西部の娘』『マノン・レスコー』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』、メトロポリタン歌劇場では『トスカ』『蝶々夫人』『カルメン』、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』『仮面舞踏会』『ドン・カルロ』に出演。バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、テアトロ・レアル、バルセロナ・リセウ大劇場、シカゴ・リlick・オペラ、サンフランシスコ・オペラ、シドニー、東京など世界中の主要劇場に登場すると共に、ナボリ・サン・カルロ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、トリノ王立歌劇場などイタリアの主要劇場でも活躍。近年歌っている主な役には、『カルメン』ドン・ホセ、『サムソンとデリラ』サムソン、『スティッフェリオ』タイトルロール、『西部の娘』ディック・ジョンソン、『マノン・レスコー』デ・グリュー、『トゥーランドット』カラフ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウ、『外套』ルイージ、『オテロ』タイトルロール、『アイーダ』ラダメス、『エルナーニ』タイトルロールなどがある。オテロ、サムソン、ラダメスは特に、彼の響き渡る声と劇的な表現力を際立たせる役柄といえる。新国立劇場では2023年『アイーダ』ラダメスに出演している。



ネッダ（道化師）：中村恵理（ソプラノ）

Nedda : NAKAMURA Eri

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。2008年英国ロイヤルオペラにデビュー。10～16年はバイエルン州立歌劇場専属歌手となり、『フィガロの結婚』『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』『ボリス・ゴドウノフ』などに主要キャストとして出演。また、英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』スザンナ、『ウェルテル』ソフィー、『トゥーランドット』リュー、『蝶々夫人』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場、台中国家歌劇院『神々の黄昏』ヴォークリンデ、スウェーデン王立歌劇場『蝶々夫人』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『マリア・カラス7つの死』、オペラ・ラーラ『シモン・ボッカネグラ』アメリカ、カナディアン・オペラ・カンパニー『蝶々夫人』、ワシントン・ナショナル・オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラなど数多く客演。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員教授、東京音楽大学非常勤講師。新国立劇場では『フィガロの結婚』バルバリーナ、スザンナ、『イドメネオ』イーリア、『ファルスタッフ』ナンネット、『トゥーランドット』リューなど出演多数。21年には『蝶々夫人』タイトルロール、22年、24年『椿姫』ヴィオレッタに出演し絶賛された。本年2月『リゴレット』ジルダに出演予定。



カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師

主要キャスト・スタッフ プロフィール

トニオ（道化師）：マッシモ・カヴァレッティ（バリトン）

Tonio : Massimo CAVALLETTI

イタリア出身。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英國ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場などに次々と出演。2004年にスカラ座アカデミー制作公演にデビューして以来、スカラ座に『セビリアの理髪師』フィガロ、『ドン・カルロ』ロドリーゴ、『ラ・ボエーム』ショナール／マルチェッロ、『ルチア』エンリーコなどで出演を重ねる。チューリヒ歌劇場では『ラ・ボエーム』『ルチア』『カルメン』『シモン・ボッカネグラ』『ファルスタッフ』などに出演。英國ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』マルチェッロ、メトロポリタン歌劇場『カルメン』エスカミーリョをはじめ、ウィーン国立歌劇場、オランダ国立オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、モネ劇場、ザルツブルク音楽祭などへ『カルメン』エスカミーリョ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ファルスタッフ』フォード、『マノン・レスコー』レスコー、『シモン・ボッカネグラ』パオロなどの役で出演し、出演作の多くの録音・録画がリリースされている。新国立劇場へは15年『ファルスタッフ』フォード、25年『ラ・ボエーム』マルチェッロに出演。



ペッペ（道化師）：澤原行正（テノール）

Peppe : SAWAHARA Takamasa

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程及び桐朋学園大学大学院博士課程修了。音楽博士号を取得。2021年二期会『セルセ』タイトルロール、『ファルスタッフ』カイス、『魔笛』僧侶II、『こうもり』アルフレードなどに出演。セイジ・オザワ松本フェスティバルでは、23年『ラ・ボエーム』ロドルフ、24年『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョと続けて出演し、好評を博す。同年11月には、日生劇場『連隊の娘』にトニオにて急遽出演、輝かしい美声と確かな音楽性で高い評価を得た。オーケストラ・コンサートへの出演や、出身地である広島県呉市におけるオペラ上演を目標に毎年コンサートやオペラハイライトを企画運営するなど、活動は多岐にわたる。二期会会員。新国立劇場初登場。



シルヴィオ（道化師）：駒田敏章（バリトン）

Silvio : KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期生としてオペラを学ぶ。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに留学。2012年オランダ・フローニンゲンで開催された音楽祭にラヴェル『スペインの時』ラミー口で出演し、Labbertje-Hoedemaker Awardを受賞。第83回日本音楽コンクール（歌曲）第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアン、『ジュリオ・チーザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドウノフ』ニキーティチ／役人、『ラ・ボエーム』ショナール、『トリスタンとイゾルデ』舵取り、高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーノに出演。25/26シーズン『ヴォツェック』タイトルロールに急遽出演し、絶賛された。本年5月『ウェルテル』ジョアンに出演予定。



ばらの騎士

2027年4/2～4/11
〈レパートリー〉Repertory

Der Rosenkavalier

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年12/26(土)～2027年1/4(月) ○一般発売日：2027年1/9(土)

初演：1911年1月26日／ドレスデン宮廷歌劇場

作曲：リヒャルト・シュトラウス 台本：フーゴ・フォン・ホフマンスター

プロダクションについて

ウィーン上流社会を舞台に、愛の移ろいと過ぎゆく時への想いを甘美で豊麗な音楽で描いた絢爛豪華な人気作『ばらの騎士』。劇作家ホフマンスターとR.シュトラウスの名コンビによる最高傑作です。数あるオペラの中でも最も贅沢で美しく、成熟した作品で、中でも第2幕の“銀のばら”の献呈シーン、終幕の女声三重唱は、観るものを陶酔の世界へ引き込む決定的な名場面です。

英国の生んだ名演出家ジョナサン・ミラーの演出は、ウィーンの香氣漂う豪奢な舞台で、諦念と未来への希望を成熟したタッチで描き出し、新国立劇場でも抜群の人気を誇ります。

指揮は『こうもり』で大評判を巻き起こした俊英パトリック・ハーン、元帥夫人にドラマティックな役柄を中心に活躍するキアンドラ・ハワース、オックスには難役ボリス・ゴドゥノフの内的な表現が称賛されたギド・イエンティンスが出演。オクタヴィアンにヨーロッパの主要劇場で着実に表現を深化させている脇園彩が出演するのも見逃せません。



2015年公演より

あらすじ

【第1幕】陸軍元帥夫人マリー・テレーズは、夫が不在の館で、若い恋人才クタヴィアンと甘いまどろみのなか朝を迎える。そこに元帥夫人の従兄オックス男爵がやってくる。新興貴族ファーニナルの娘ゾフィーと婚約するというオックスは、婚約者に銀のばらを贈る儀式の使者“ばらの騎士”を誰にするか相談しに来たのだ。逢瀬の現場を見られてはまずいと大慌ての2人だが、もう逃げられず、オクタヴィアンは小間使いマリアンデルに変装。女たらしのオックスは元帥夫人に相談しながらもかわいらしい小間使いが気になる様子。元帥夫人はオクタヴィアンを“ばらの騎士”に推薦する。その後、元帥夫人はひとり思いにふけり、年齢を重ねることの無常を思う。

【第2幕】“ばらの騎士”としてゾフィーに銀のばらを届けに来たオクタヴィアンは、一目で彼女と恋に落ちてしまう。オックス男爵のあまりにも無作法な態度にゾフィーは結婚を拒絶し、オクタヴィアンは婚約を取り消すようオックスに申し出る。オックスが相手にしないため、オクタヴィアンは剣を抜く。オックスも剣を手に取るが、すぐにオクタヴィアンの剣の先が腕に当たる。負った傷はほんのかすり傷だが、オックスは泣きわめいて大騒ぎ。そこにマリアンデルからの逢引の誘いの手紙が来て、オックスはすっかりご機嫌に。

【第3幕】逢引の場の安宿の一室に、オックスを懲らしめるための罠を仕込み、オクタヴィアンはマリアンデルに変装して準備万端。何も知らないオックスは浮足立ってやってきて“彼女”を口説こうとするが、幽霊が現れたり、「彼の子」と称する子を連れた女や警官が来たりして大騒動。オックスは窮地に陥るが、元帥夫人が登場してオックスの身分を保証し、追い詰められたオックスは婚約を破談にすることを了承する。元帥夫人は身を引き、オクタヴィアンとゾフィーを祝福する。

リヒャルト・シュトラウス
ばらの騎士

Richard Strauss / Der Rosenkavalier

全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮.....	パトリック・ハーン
Conductor	Patrick HAHN
演出.....	ジョナサン・ミラー
Production	Jonathan MILLER
美術・衣裳.....	イザベラ・バイウォーター
Scenery & Costume Design	Isabella BYWATER
照明.....	磯野 瞳
Lighting Design	ISONO Mutsumi

元帥夫人.....	キアンドラ・ハワース	警部.....	河野鉄平
Die Feldmarschallin	Kiandra HOWARTH	Ein Polizeikommissar	KONO Teppei
オックス男爵.....	ギド・イエンティンス	元帥夫人の執事.....	後田翔平
Der Baron Ochs auf Lerchenau	Guido JENTJENS	Der Haushofmeister bei der Feldmarschallin	USHIRODA Shohei
オクタヴィアン.....	脇園 彩	ファーニナル家の執事.....	新堂由暁
Octavian	WAKIZONO Aya	Der Haushofmeister bei Faninal	SHINDO Yoshiaki
ファーニナル.....	与那城 敬	公証人.....	晴 雅彦
Herr von Faninal	YONASHIRO Kei	Ein Notar	HARE Masahiko
ゾフィー.....	種谷典子	料理屋の主人.....	青地英幸
Sophie	TANETANI Noriko	Ein Wirt	AOCHI Hideyuki
マリアンヌ.....	渡邊仁美	テノール歌手.....	濱松孝行
Marianne	WATANABE Hitomi	Ein Sänger	HAMAMATSU Takayuki
ヴァルツァッキ.....	伊藤達人	帽子屋.....	中畠有美子
Valzacchi	ITO Tatsundo	Eine Modistin	NAKAHATA Yumiko
アンニーナ.....	藤井麻美	動物商.....	高梨英次郎
Annina	FUJII Asami	Ein Tierhändler	TAKANASHI Eijiro

合唱.....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽.....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2027年4月2日(金)16:00	4日(日)14:00
8日(木)14:00	11日(日)14:00

【料金】

S:34,100円・A:28,600円・B:20,900円・C:14,300円・D:8,250円

【会場】

オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: パトリック・ハーン

Conductor : Patrick HAHN

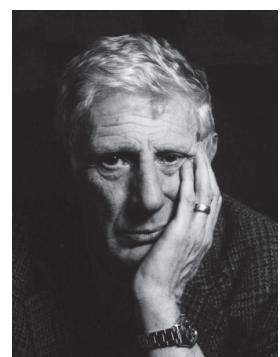
この世代で最も注目される新鋭指揮者。現在、ヴァッパータール交響楽団及びヴァッパータール歌劇場音楽総監督、ミュンヘン放送管弦楽団首席客演指揮者、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団首席客演指揮者。ヴァッパータールではR.シュトラウス、ブルックナー、マーラー、ベートーヴェン、メシアンの交響曲、マゼール編曲『ニーベルングの指環』管弦楽版、オペラ『トリスタンとイゾルデ』『タンホイザー』『フィガロの結婚』『サロメ』『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮。ミュンヘン放送交響楽団の『アトランティスの皇帝』『フィレンツェの悲劇』などの録音も高評を得る。近年では、チューリヒ歌劇場『メリーワード』、ザクセン州立歌劇場『インテルメツォ』、ハンブルク州立歌劇場『パルジファル』、ブリュッセル・フィル、RAI交響楽団へデビュー。ウィーンではシュトラウス年2025でオペレッタ『ローマの謝肉祭』を指揮した。クラシック音楽と並んで、ゲオルク・クライスラーのキャバレーソングの弾き歌いも行い、ジャズピアニストとしてもシカゴ・ジャズフェスティバル、ウィスコンシン大学ジャズフェスティバルの数々の賞を受賞している。新国立劇場へは23年『こうもり』でデビューし称賛を集めた。



演出: ジョナサン・ミラー

Production : Jonathan MILLER

ロンドン生まれ。医学博士、作家、テレビプロデューサー、演劇・オペラの演出など幅広い分野で国際的に活躍。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの『ヴェニスの商人』『じゃじゃ馬馴らし』や、1988年から90年まで芸術監督を務めたオールドヴィック劇場での『リア王』、80年からBBCが制作したシェイクスピアシリーズなど、シェイクスピア作品の演出で高い評価を受ける。オペラには74年に進出し『フィガロの結婚』『リゴレット』『カルメン』『ばらの騎士』『ねじの回転』などを手がけている。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界各地で作品を発表。新国立劇場では『ファルスタッフ』『ばらの騎士』を演出。2019年11月逝去。



元帥夫人: キアンドラ・ハウース (ソプラノ)

Die Feldmarschallin: Kiandra HOWARTH

オーストラリア出身。クイーンズランド・オペラ、オペラ・オーストラリアの若手アーティスト・プログラム、ザルツブルク・モーツアルテウム大学、ザルツブルク音楽祭若手歌手プロジェクトを経て、2013年~15年は英国ロイヤルオペラ・ジェット・パーク・プログラムのメンバーとなる。修了後、バーゼル歌劇場、ルクセンブルク歌劇場などで『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ローマ歌劇場『魔笛』パミーナ、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ『魔笛』侍女I、バイエルン州立歌劇場『マリア・カラス七つの死』、チューリヒ歌劇場『ラインの黄金』フライアなどに出演。21年よりハノーファー州立歌劇場専属歌手となり、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『オテロ』デズデーモナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『アルチーナ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ミミ、『ルサルカ』タイトルロールなどに出演。最近では、英国ロイヤルオペラ、チューリヒ歌劇場『ラインの黄金』フライア、ライプツィヒ歌劇場『オテロ』デズデーモナ、ヴィクトリア・オペラ『つばめ』マグダ、ベルン歌劇場『アラベッラ』タイトルロール、『マノン・レスコー』タイトルロール、ハノーファー州立歌劇場『ばらの騎士』元帥夫人などに出演している。新国立劇場初登場。



ばらの騎士

主要キャスト・スタッフ プロフィール

オックス男爵：ギド・イエンティンス（バス）

Der Baron Ochs auf Lerchenau : Guido JENTJENS

ケルン音楽大学で学び、デュッセルドルフ、アウクスブルク、エアフルト、カールスルーエ、ヴィースバーデンの各劇場と契約し、バスおよびバス・バリトンの主要役をすべて歌う。バイロイト音楽祭へ『ニュルンベルクのマイスターインガー』ポーグナー、『タンホイザー』領主ヘルマンに出演を重ねるほか、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ハノーファー歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、モネ劇場、ザルツブルク音楽祭などに出演。最近の出演に、グラーツ歌劇場『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、パッサウ歌劇場『ばらの騎士』オックス男爵、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『アンナ・ボレーナ』ヘンリー8世、ハノーファー歌劇場『夏の夜の夢』シーシアス、ウルム歌劇場『フィデリオ』ロッコ、ワイマール歌劇場『チェネレントラ』アリドーロ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、ヴッパータール歌劇場『タンホイザー』領主ヘルマン、『ラインの黄金』ファルトルト、カルガリー・オペラ『ラインの黄金』ファルトルトなど。新国立劇場では、『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、『ニュルンベルクのマイスターインガー』ファイト・ポーゲナー、『ボリス・ゴドウノフ』タイトルロールに出演している。



オクタヴィアン：脇園 彩（メゾソプラノ）

Octavian : WAKIZONO Aya

東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2013年文化庁派遣芸術家在外研修員としてパルマ国立音楽院に留学。ペザロのロッシーニ・アカデミー及びミラノ・スカラ座アカデミー修了。ミラノ・スカラ座をはじめ、パレルモ・マッシモ劇場、テアトロ・レアル、マインツ州立劇場、ベルギー王立ワロン歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに多数出演。日本では17年藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナでオペラデビュー。23年、ファーストアルバム「アモーレAmore」(BRAVO RECORDS)がリリース。ボロニャ歌劇場来日公演『ノルマ』アダルジーザも絶賛された。24年はジュネーヴ大劇場でドニゼッティ『ロベルト・デヴェリュー』サラ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルで『ビアンカとファッリエーロ』ファッリエーロ、パレルモ・マッシモ劇場で『イングランドの女王エリザベッタ』エリザベッタにそれぞれロールデビューし絶賛される。主にロッシーニ、モーツァルトおよびベルカント作品をレパートリーとしてイタリアを拠点に活動し、世界中から注目されるアーティストのひとり。第52回ENEOS音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラでデビューし、20年、25年『セビリアの理髪師』ロジーナ、21年『フィガロの結婚』ケルビーノ、『チェネレントラ』タイトルロール、23年『ファルスタッフ』ページ夫人メグに出演し喝采を浴びた。本年5月『ウェルテル』シャルロットに出演予定。



ファーニナル：与那城 敬（バリトン）

Herr von Faninal : YONASHIRO Kei

桐朋学園大学ピアノ専攻卒業、同大学研究科声楽専攻修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。第18回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位。これまでに『エフゲニー・オネーギン』タイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェッロなどに出演。新国立劇場では平成21年度芸術祭祝典『メリー・メリー・ウィドウ』ダニロ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、『沈黙』フェレイラ、『道化師』シルヴィオ、『ニュルンベルクのマイスターインガー』コンラート・ナハティガル、『ばらの騎士』ファーニナル、演奏会形式『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールに出演。二期会会員。



ばらの騎士

主要キャスト・スタッフ プロフィール

ゾフィー：種谷典子（ソプラノ）

Sophie : TANETANI Noriko

国立音楽大学および同大学院を首席で修了。学部卒業時に武岡賞、大学院修了時に声楽専攻最優秀賞受賞。新国立劇場オペラ研修所第16期修了。文化庁新進芸術家海外研修員としてミラノおよびルガーノにて研鑽を積む。第24回リッカルド・ザンドナイ国際コンクール特別賞受賞。第16回東京音楽コンクール声楽部門第2位。第91回日本音楽コンクール声楽部門（歌曲）第2位。オペラでは『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ドン・パスクワーレ』ノリーナ、『なりゆき泥棒』ベレニーチェ、『こうもり』アデーレなどに出演。2021年『魔笛』パパゲーナで二期会デビュー、続いて22年の二期会『フィガロの結婚』スザンナで一躍注目を集め。日生劇場『セビリアの理髪師』、東京文化会館オペラBOX『子どもと魔法』にも出演。23年には二期会『椿姫』にてヴィオレッタを演じ、今後の更なる活躍が期待されている。コンサートでも準・メルクル指揮台湾フィルハーモニック「合唱幻想曲」、マカオ国際音楽祭『第九』などのソリストとして高い評価を得ている。新国立劇場では本公演と鑑賞教室ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーナに出演。26/27シーズンは『ばらの騎士』ゾフィー、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026『愛の妙薬』アディーナに出演予定。二期会会員。



マリアンネ：渡邊仁美（ソプラノ）

Marianne : WATANABE Hitomi

東京藝術大学卒業、同大学院修了。ザルツブルク・モーツアルテウム大学修士課程リート・オラトリオ科を最優秀の成績で修了。二期会オペラ研修所第59期マスタークラス修了。第18回日仏声楽コンクール第2位。二期会では、2018年『アルチーナ』タイトルロールでデビューし、以後も『蝶々夫人』『トスカ』『サロメ』『ルル』タイトルロール等のカヴァーを務める。23年には、二期会創立70周年記念公演『平和の日』マリアにて主演。24年は二期会『タンホイザー』エリザベート、『影のない女』皇后にて出演。コンサート・ソリストとしても、ベートーヴェン『第九』、フォーレ『レクイエム』、ブルックナー『ミサ曲第3番』等で幅広く活躍している。新国立劇場では26/27シーズン『ピーター・グラيمズ』姫1、『ばらの騎士』マリアンネに出演予定。二期会会員。



ヴァルツァッキ：伊藤達人（テノール）

Valzacchi : ITO Tatsundo

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。文化庁在外研修員としてベルリンにて研鑽を積む。二期会『パルジファル』タイトルロール、『影のない女』皇帝に出演。日生劇場では『ヘンゼルとグレーテル』魔女、『ランメルモールのルチア』アルトゥーロで出演。オペラのほか、15年新国立劇場演劇部門のミュージカル『パッション』にトラッソ中尉で出演。新国立劇場オペラ公演では『夜鳴きうぐいす』漁師、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』ダーヴィット、『こうもり』アルフレード、『さまよえるオランダ人』舵手、『ヴォツェック』アンドレスに出演。二期会会員。



ばらの騎士

主要キャスト・スタッフ プロフィール

アンニーナ：藤井麻美（メゾソプラノ）

Annina : FUJII Asami

洗足学園大学卒業、同大学院および新国立劇場オペラ研修所第15期修了。文化庁新進芸術家海外派遣研修員としてイタリア・ペーザロにて研鑽を積む。日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』母、『ランメルモールのルチア』アリーサ、『マクベス』侍女、二期会『蝶々夫人』スズキ、『椿姫』アンニーナ/フローラ、『フィガロの結婚』マルチェリーナ等出演を重ね、2024年二期会『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『影のない女』乳母、25年には二期会『カルメン』メルセデス、日生劇場『サンドリヨン』ドロテに出演。ヘンデル「メサイア」、モーツアルト「レクイエム」、ドヴォルザーク「レクイエム」等宗教曲のソリストとしても活躍している。新国立劇場では本公演の様々な役柄のカバーを務めており、今回が新国立劇場デビューとなる。二期会会員。



警部：河野鉄平（バス・バリトン）

Ein Polizeikommissar : KONO Teppei

クリーヴランド音楽院大学卒業、同大学院修了。2003年サンフランシスコオペラ・メローラオペラプログラム参加。同年『フィガロの結婚』フィガロでオペラデビュー。06年シカゴ芸術大学ディプロマコース及びシカゴ・オペラ・シアター研修プログラム修了。アメリカで23年間過ごし、帰国後は18年セイジ・オザワ松本フェスティバル『カルメン』、『ジャンニ・スキッキ』で好評を博す。これまでに二期会『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『影のない女』バラクなどに出演。新国立劇場では『夏の夜の夢』パック、『さまよえるオランダ人』オランダ人、『魔笛』ザラストロ、『ペレアスとメリザンド』医師、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『子どもと魔法』柱時計/雄猫、『ジャンニ・スキッキ』シモーネ、オペラ鑑賞教室『トスカ』アンジェロッティなどに出演。26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』スワロー、『ばらの騎士』警部に出演予定。二期会会員。



公証人：晴 雅彦（バリトン）

Ein Notar : HARE Masahiko

大阪音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルリンに留学。ケムニッツ市立歌劇場『魔笛』パパゲーノでヨーロッパ・デビュー後、同劇場『ヘンゼルとグレーテル』『ウィンザーの陽気な女房たち』、ザクセン州立歌劇場『蝶々夫人』ゴロー、ドイツ・ラインスペルク音楽祭、ヴァドステーナ音楽祭などに出演。『魔笛』パパゲーノなどでチョン・ミョンファンと共に演じ、「プレミアム・シアター」「題名のない音楽会」に出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』『ラ・ボエーム』『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』『運命の力』『ばらの騎士』『ルル』『夜叉ヶ池』『ホフマン物語』『魔笛』『蝶々夫人』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』などに出演。26/27シーズンは『フィガロの結婚』アントニオ、『トスカ』堂守、『ばらの騎士』公証人に出演予定。大阪芸術劇場奨励新人、大阪文化祭奨励賞、兵庫県芸術奨励賞、咲くやこの花賞を受賞。大阪音楽大学教授。



ばらの騎士

主要キャスト・スタッフ プロフィール

料理屋の主人：青地英幸（テノール）

Ein Wirt : AOCHI Hideyuki

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。これまでに『魔笛』タミーノ、ロッシーニ『オテロ』ロドリーゴ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カルメン』ドン・ホセなどを演じている。宗教曲ソリストとしても活躍。新国立劇場では『おさん』『ホフマン物語』『ばらの騎士』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『サロメ』『ファルスタッフ』『ジャンニ・スキッキ』『夏の夜の夢』『フィガロの結婚』『夜鳴きうぐいす』『ボリス・ゴドウノフ』『子どもと魔法』『こうもり』『トリスタンとイゾルデ』『ヴォツェック』『ジークフリート』ハイライトコンサートなど多数出演。本年1月『こうもり』ブリント博士に出演。26/27シーズンは『フィガロの結婚』バジリオ、『ばらの騎士』料理屋の主人に出演予定。成城大学合唱部ヴォイストレーナー。公津の杜男声合唱団指導者。コールペガサス・ヴォイストレーナー。足利オペラ・リリカ専属アーティスト並びに研究科講師。武蔵野音楽大学講師。



テノール歌手：濱松孝行（テノール）

Ein Sänger : HAMAMATSU Takayuki

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院音楽研究科修士課程（独唱）修了。新国立劇場オペラ研修所第20期修了。ANAスカラシップにて、ミラノ・スカラ座アカデミー、バイエルン州立歌劇場オペラスタジオにて研修。日本トステイ歌曲コンクール第1位及び日本歌曲賞ほか、第16回清水かつら記念日本歌曲歌唱コンクール第3位受賞。これまでに『椿姫』アルフレード、『イオランタ』ヴォデモン伯爵、『イドメネオ』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセなどを演じる。モーツアルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などのソリストとしても活躍。新国立劇場では『夜鳴きうぐいす』『日本の使者1』『ばらの騎士』ファニナル家の執事、『ボリス・ゴドウノフ』侍従、『子どもと魔法』ティーポットに出演。26/27シーズンは『サロメ』ナラボート、『ばらの騎士』テノール歌手に出演予定。二期会会員。



ファルスタッフ

2027年4/21～4/29
〈レパートリー〉Repertory

Falstaff

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2027年1/16(土)～1/26(火) ○一般発売日：2027年1/31(日)

初演：1893年2月9日／ミラノ・スカラ座

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ 原作：ウィリアム・シェイクスピア 台本：アッリーゴ・ボイト

プロダクションについて

悲劇で名声を極めたヴェルディが、シェイクスピアの『ウィンザーの陽気な女房たち』『ヘンリー四世』を原作に、人生最後に手がけたオペラが極上の喜劇『ファルスタッフ』。強欲でも憎めない老騎士ファルスタッフを中心に、快活で機知あふれる女性陣とちょっと頭の固い男たち、若いカップルらが活き活きと語らう、人生哲学にあふれた奇跡のような傑作です。音楽的なユニークさでも先進的で、ファルスタッフの愛すべきモノローグから大人数が次々に重なり合う重唱まで、クスリとさせられる音楽がいっぱい。中でもファルスタッフが口火を切るフィナーレの大フーガ「この世はすべて冗談だ」は、ガラコンサートなどでもすっかり定番となった、お開きにぴったりのナンバーです。

ジョナサン・ミラーの演出は、17世紀オランダ絵画に描かれた民衆の日常を研究した世界です。緻密な構図、静謐な色遣いの舞台はまるでフェルメールの風俗画から飛び出したようで、愛すべき人々が繰り広げる小気味よい喜劇と人間洞察に満ちたアイロニーは、人間贊歌そのものです。

指揮はイタリア・オペラの巨匠で、新国立劇場でも数々の名演により圧倒的人気を誇るマウリツィオ・ベニーニ。ファルスタッフは『リゴレット』でもベニーニと共に演じ、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロールでも絶賛された、イタリア・オペラ界最高峰のバリトン、ロベルト・フロンターリ。日本でもおなじみの名ソプラノ、セレーナ・ファルノッキア、メゾソプラノのスター、テレサ・イエルヴォリーノ、プエルトリコ出身の新星リカルド・ホセ・リベラによる極上のアンサンブルに期待が募ります。

あらすじ

【第1幕】太鼓腹が自慢の好色な老騎士ファルスタッフは、ページ夫人メグとフォード夫人アリーチェが自分に気があると勘違いし、彼女たちへ恋文を書く。手紙を受け取ったメグとアリーチェは、身の程知らずな内容の上、全く同じ文面であることに呆れ顔。クイックリー夫人ら女性陣で懲らしめようと画策する。一方フォードも、妻アリーチェ宛にファルスタッフが恋文を書いたと従者からの情報を受け、ファルスタッフをやりこめようと思いつ込む。

【第2幕】クイックリー夫人が、アリーチェとの逢引きの時間をファルスタッフに伝えて、計画がスタート。フォードは偽名を使い「アリーチェを誘惑してほしい」とファルスタッフに頼む。ファルスタッフは「アリーチェと会う予定だからお安いご用」と語り、フォードは驚愕する。迎えた逢引きのとき、ファルスタッフがアリーチェを口説いていると、筋書き通りメグが来て、彼は慌てて逃げる。そのとき、妻の浮気相手を捕らえようとフォードらが乗り込んでくる。彼がつい立ての向こうを確認すると、そこには娘のナンネットとフェントンが。2人の結婚を認めないフォードは怒り心頭。洗濯籠の中に身を潜めていたファルスタッフは、女性陣のシナリオ通り籠ごと川に投げ落とされる。

【第3幕】散々な目に遭っても憲りないファルスタッフは、再びアリーチェと会う約束をする。今回の場所は真夜中のウィンザー公園。精霊がさまようと言われる場所だ。約束の時間にファルスタッフとアリーチェが会うと、助けを求めるメグの声が響く。精霊があらわれたと怖がるファルスタッフは目をつぶって横たわる。実はフォードらが妖精を演じているのだが、すっかり怯えたファルスタッフは、これまでのことを謝る。また、女性陣の計らいで、フォードもナンネットとフェントンの結婚を認め。ファルスタッフは「この世はすべて冗談」と語って大団圓。



2023年公演より

ジュゼッペ・ヴェルディ

ファルスタッフ

Giuseppe Verdi / Falstaff

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 マウリツィオ・ベニーニ
Conductor Maurizio BENINI

演出 ジョナサン・ミラー
Production Jonathan MILLER

美術・衣裳 イザベラ・バイウォーター
Set and Costume Design Isabella BYWATER

照明 ペーター・ペッチニック
Lighting Design Peter PETSCHNIG

ファルスタッフ ロベルト・フロンターリ
Sir John Falstaff Roberto FRONTALI

フォード リカルド・ホセ・リベラ
Ford Ricardo JOSÉ RIVERA

フェントン 村上公太
Fenton MURAKAMI Kota

医師カイウス 村上敏明
Dr. Cagus MURAKAMI Toshiaki

バルドルフオ 糸賀修平
Bardolfo ITOGA Shuhei

ピストーラ 妻屋秀和
Pistola TSUMAYA Hidekazu

フォード夫人アリーチェ セレーナ・ファルノッキア
Mrs. Alice Ford Serena FARNOCCIA

ナンネット 砂田愛梨
Nannetta SUNADA Airi

クイックリー夫人 テレサ・イエルヴォリーノ
Mrs. Quickly Teresa IERVOLINO

ページ夫人メグ 小林由佳
Mrs. Meg Page KOBAYASHI Yuka

合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2027年4月21日(水)18:00	24日(土)14:00
27日(火)14:00	29日(木・祝)14:00

【料金】

S: 28,600円・A: 24,200円・B: 17,050円・C: 10,450円・D: 7,150円

【会場】

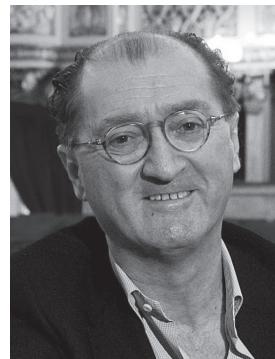
オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：マウリツィオ・ベニーニ

Conductor : Maurizio BENINI

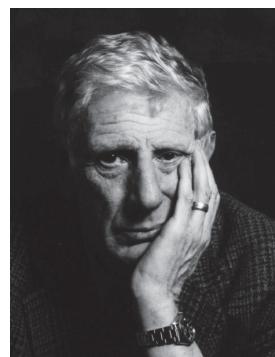
メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、英國ロイヤルオペラなど世界の主要歌劇場で活躍する指揮者。1992年ミラノ・スカラ座に『湖上の美人』『ドン・カルロ』で、ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに『絹のはしご』でデビュー。ボローニャ歌劇場、サンチャゴ・ムニシパル劇場首席指揮者、サン・カルロ歌劇場首席客演指揮者などを歴任。最近ではメトロポリタン歌劇場『ルチア』『ドン・パスクワーレ』『ロベルト・デヴェリュー』『セビリアの理髪師』『清教徒』『ノルマ』、英國ロイヤルオペラ『ナブッコ』『椿姫』『シチリアの晩鐘』『ファウスト』、チューリヒ歌劇場『カブレー家とモンテッキ家』『夢遊病の女』、パリ・オペラ座『アンナ・ボレーナ』、モンテカルロ歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』『ルイザ・ミラー』『ファルスタッフ』、オランダ国立オペラ『イル・トロヴァトーレ』『セビリアの理髪師』、テアトロ・レアル『イル・トロヴァトーレ』『夢遊病の女』『清教徒』などを指揮。25/26シーズンはブエノスアイレス・コロン劇場『清教徒』、セビリア・マエストランサ劇場『ルクレツィア・ボルジア』、バイエルン州立歌劇場『リゴレット』、アイルランド国立オペラ『ノルマ』などを指揮する。新国立劇場では98年『セビリアの理髪師』でデビュー、2023年『リゴレット』、24年『トスカ』『夢遊病の女』で絶賛を博す。



演出：ジョナサン・ミラー

Production : Jonathan MILLER

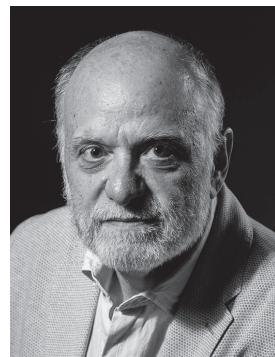
ロンドン生まれ。医学博士、作家、テレビプロデューサー、演劇・オペラの演出など幅広い分野で国際的に活躍。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの『ヴェニスの商人』『じゃじゃ馬馴らし』や、1988年から90年まで芸術監督を務めたオールドヴィック劇場での『リア王』、80年からBBCが制作したシェイクスピアシリーズなど、シェイクスピア作品の演出で高い評価を受ける。オペラには74年に進出し『フィガロの結婚』『リゴレット』『カルメン』『ばらの騎士』『ねじの回転』などを手がけている。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、英國ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界各地で作品を発表。新国立劇場では『ファルスタッフ』『ばらの騎士』を演出。2019年11月逝去。



ファルスタッフ：ロベルト・フロンターリ（バリトン）

Sir John Falstaff : Roberto FRONTALI

オペラ界を代表する世界屈指のバリトン歌手のひとり。キャリア初期はベルカント、その後ヴェルディ、最近ではプッチーニやヴェリズモをレパートリーとする。1990年代初頭にメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座へデビュー。特に重要な出演に、アバド指揮『セビリアの理髪師』、ミラノ・スカラ座で10年に渡り共演したムーティ指揮『椿姫』『ファルスタッフ』『ドン・パスクワーレ』、メータ指揮『運命の力』『ルチア』『ファルスタッフ』、ショーン・ミヨンフン指揮『ドン・カルロ』(ザクセン州立歌劇場)、『リゴレット』(フェニーチェ歌劇場)などがある。最近の特筆すべき公演に、ミラノ・スカラ座『薔薇の名前』サルヴァトーレ、ハンブルク州立歌劇場『ドン・パスクワーレ』、カラカラ浴場音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』、フェニーチェ歌劇場、トリノ王立歌劇場『トスカ』、チューリヒ歌劇場『魔弾の射手』、フェニーチェ歌劇場『椿姫』などがある。新国立劇場では98年『セビリアの理髪師』フィガロ、2002年『ルチア』エンリーコ、15年『トスカ』スカルピア、23年『リゴレット』『シモン・ボッカネグラ』タイトルロールへ出演している。26年4月『椿姫』ジェルモンにも出演予定。



ファルスタッフ

主要キャスト・スタッフ プロフィール

フォード：リカルド・ホセ・リベラ（バリトン）

Ford : Ricardo JOSÉ RIVERA

ベルカントのレパートリーで躍進中のバリトン。シカゴ・リリック・オペラ・ライアン・オペラ・センター所属中に『蝶々夫人』シャーブレス、『ラ・ボエーム』ショナール、『椿姫』のドゥフォール男爵などに出演。ニューヨークのテアトロ・ヌオーヴォ、ワシントン・コンサート・オペラ、オペラ・デ・プエルトリコ、サンノゼ・オペラなどで『ロベルト・デヴェリュー』ノッティンガム公爵、『エルナーニ』ドン・カルロ、『ルイザ・ミラー』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリョ、『セビリアの理髪師』フィガロなどに出演。24/25シーズンにはテアトロ・ヌオーヴォ『マクベス』(1847年版) タイトルロール、サラソータ・オペラ『スティッフェリオ』スタンカル、コロラド・オペラ『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵と3つのヴェルディの役にローレルデビューしたほか、ワシントン・コンサート・オペラ『ルイザ・ミラー』タイトルロール、ピツツバーグ・オペラ『道化師』シルヴィオ、フロリダ・グランド・オペラ『愛の妙薬』ベルコレ、サンノゼ・オペラ『魔笛』パパゲーノに出演した。25/26シーズンはメトロポリタン歌劇場に『アラベラ』ドミニクでデビューするほか、サラソータ・オペラ『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、サンノゼ・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモに出演する。新国立劇場初登場。



フェントン：村上公太（テノール）

Fenton : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラに立て続けに客演し好評を博す。東京二期会『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロート、『椿姫』アルフレード、日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、サントリーホール『リトゥン・オン・スキン』第3の天使／ヨハネ、グランドオペラ共同制作『カルメン』レメンダード、横須賀芸術劇場『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。新国立劇場では『こうもり』アルフレード、『カルメン』レメンダード、『ファルスタッフ』フェントン、『夏の夜の夢』ライサンダー、『イオランタ』アルメリック、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』クンツ・フォーゲルゲザング、『蝶々夫人』ピンカートン、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』ドン・ホセ、同『蝶々夫人』ピンカートン、同『トスカ』カヴァラドッシなどに出演。本年5月に『ウェルテル』シュミット、26/27シーズンは『ピーター・グラيمズ』ホレース・アダムス、『ファルスタッフ』フェントン、『マクベス』マルコム、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026ロームシアター京都公演『蝶々夫人』ピンカートンに出演予定。二期会会員。



医師カイウス：村上敏明（テノール）

Dr. Caju : MURAKAMI Toshiaki

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期修了。2001年12月より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間ボローニャに留学。第9回バタフライ世界コンクール優勝など受賞多数。これまでに『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『黒船一夜明け』領事、『修禅寺物語』源左金吾頼家、『ドン・カルロ』レルマ伯爵／王室の布告者、『オテロ』ロデリーゴ、『アイーダ』伝令、『紫苑物語』藤内、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、『トゥーランドット』ポン、『ワルキューレ』ジークムント(第1幕)、『カルメン』ドン・ホセ、『ホフマン物語』ナタナエル、『シモン・ボッカネグラ』隊長、『ウィリアム・テル』ロドルフ、鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートン、鑑賞教室『椿姫』アルフレード、鑑賞教室『愛の妙薬』ネモリーノなどに出演、高い評価を得ている。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

バルドルフォ：糸賀修平（テノール）

Bardolfo : ITOGA Shuhei

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第10期修了。平成22年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアへ留学。その後ロームミュージックファンデーションの音楽在外研究生としてベルリンへ留学。数多くの国際コンクールで入賞を果たす。二期会『こうもり』アルフレード、『コジ・ファン・トゥッテ』フェランド、藤原歌劇団『ランスへの旅』騎士ベルフィオーレ、あいちトリエンナーレ『魔笛』タミーノなどに出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』『死の都』『サロメ』『蝶々夫人』『ファルスタッフ』『ウェルテル』『トゥーランドット』『カルメン』『トスカ』など数多く出演。2012年『ピーター・グライムズ』では、ボブ・ボウルズ役で急遽カヴァーから全公演出し好演した。本年2月に『リゴレット』ボルサ、6・7月『エレクトラ』若い下僕、26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』ボブ・ボウルズ、『サロメ』5人のユダヤ人4、『ファルスタッフ』バルドルフォ、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026『愛の妙薬』ネモリーノ、同・ロームシアター京都公演『蝶々夫人』ゴローに出演予定。二期会会員。



ピストーラ：妻屋秀和（バス）

Pistola : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマーのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツアルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を100役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『リゴレット』スマラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長／フィリッポ二世、『ラインの黄金』ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『オオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスター』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケル、『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、『ウィリアム・テル』ジェスレル、『ヴォツェック』医者など出演多数。26/27シーズンは『フィガロの結婚』バルトロ、『サロメ』2人のナザレ人1、『ファルスタッフ』ピストーラ、『マクベス』バンクローに出演予定。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。24年紫綬褒章受章。



フォード夫人アリーチェ：セレーナ・ファルノッキア（ソプラノ）

Mrs. Alice Ford : Serena FARNOCCCHIA

ルッカ出身。リッカルド・ムーティによりミラノ・スカラ座アカデミーに選抜され、スカラ座『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナでデビュー。『マノン・レスコー』『蝶々夫人』『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ミミ、『トゥーランドット』リュー、『オテロ』デズデーモナ、『アイーダ』タイトルロール、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『ファルスタッフ』アリーチェ、『マリア・ストゥアルダ』『アンナ・ボレーナ』タイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ランスへの旅』コルテーゼ夫人、『エルミオーネ』タイトルロールなどをレパートリーに、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ジュネーヴ大劇場、サンフランシスコ・オペラ、シドニー・オペラハウスなど著名劇場で活躍。『シモン・ボッカネグラ』『ドン・カルロ』『スターバト・マーテル』『エルミオーネ』『イングランド女王エリザベッタ』など録音も多い。新国立劇場では2007年『ファルスタッフ』アリーチェ、09年『ニューイヤーオペラパレスガラ』、14年『ドン・カルロ』エリザベッタ、17年『オテロ』デズデーモナ、23年『アイーダ』タイトルロールに出演している。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ナンネット：砂田愛梨（ソプラノ）

Nannetta : SUNADA Airi

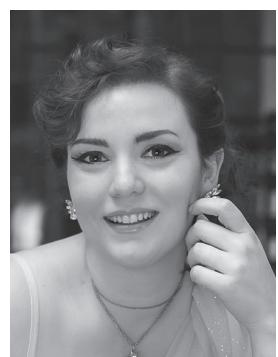
東京音楽大学卒業及び同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。在籍中ANAスカラシップによりミラノ・スカラ座アカデミー、バイエルン州立歌劇場オペラ研修所にて研修。文化庁新進芸術家海外研修員、五島記念文化賞オペラ新人賞によりスイス、イタリアで研修。S.リチートラ国際コンクール第2位、G.パスタ国際コンクール及びKoliqu賞国際コンクール第3位、F.リッチ国際コンクール特別賞、イタリア声楽コンコルソミラノ大賞第1位、日伊声楽コンコルソ第3位、東京音楽コンクール第2位、第94回日本音楽コンクール第1位など受賞多数。2022年サッサリ歌劇場『ドン・パス夸ーレ』ノリーナ役でデビュー後、コゼンツァ・レンダーノ劇場、ミラノ・カルカノ劇場、サルザーナ・オペラ・フェスティバルなどで『ドン・パス夸ーレ』ノリーナ、『リゴレット』ジルダ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ラ・ボエーム』ムゼッタの役で出演を続けている。日本では2024年11月、日生劇場『連隊の娘』マリー役で本格デビュー。現在、イタリアと日本を拠点に活動している。ミラノ在住。新国立劇場公演へは『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタに出演。本年5月『ウェルテル』ソフィーに出演予定。



クイックリー夫人：テレサ・イエルヴォリーノ（メゾソプラノ）

Mrs. Quickly: Teresa IERVOLINO

ベルカントとバロックの第一人者として国際的に称賛されるメゾソプラノ。2012年AsLiCoコンクール優勝。同年から内外の歌劇場に次々とデビューし、パリ・シャトレ座『試金石』クラリーチェ、カラカラ浴場、ザクセン州立歌劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、ベーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、フランクフルト歌劇場、ミラノ・スカラ座『泥棒かささぎ』ルチア、トリノ王立歌劇場、パリ・オペラ座『チェネレントラ』タイトルロール、ザルツブルク音楽祭、バイエルン州立歌劇場『ルクレツィア・ボルジア』などに出演。近年の主な出演作に、テアトロ・レアル『ファルスタッフ』クイックリー、『ノルマ』アダルジーザ、フェニーチェ歌劇場『セミラミデ』アルサーチェ、『リナルド』タイトルロール、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場『チェネレントラ』、ヴェローナ野外音楽祭『ナブッコ』フェネーナ、オランダ国立オペラ、リセウ大劇場『ジュリオ・チェーザレ』コルネリア、リセウ大劇場『蝶々夫人』スズキ、ローマ歌劇場『ルクレツィア・ボルジア』など。25/26シーズンは、パルマ・ヴェルディ・フェスティバル『ファルスタッフ』、マルセイユ歌劇場『ファルスタッフ』『エルミオーネ』、セビリア・マエストランサ劇場『ルクレツィア・ボルジア』、テネリフェ・オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』などに出演する。新国立劇場初登場。



ページ夫人メグ：小林由佳（メゾソプラノ）

Mrs. Meg Page : KOBAYASHI Yuka

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。二期会『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『蝶々夫人』スズキ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『イドメネオ』イダマンテ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、びわ湖ホールでは『リゴレット』マッダレーナ、『オテロ』エミーリアなどに出演。新国立劇場では『沈黙少年』、『魔笛』侍女II、『ルチア』アリーサ、『椿姫』フローラ、『アイーダ』巫女、『夏の夜の夢』ヒポリタ、『ホフマン物語』ニ克拉ウス／ミューズ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『修道女アンジェリカ』修練女長、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』スズキ、同関西公演『フィガロの結婚』ケルビーノなどに出演。二期会会員。



エフゲニー・オネーギン

2027年5/16～5/23
〈レパートリー〉Repertory

Eugene Onegin

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕 〈ロシア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2027年2/20(土)～3/1(月) ○一般発売日：2027年3/6(土)

初演：1879年3月17日／モスクワ・マールイ劇場

作曲：ピョートル・チャイコフスキイ 原作：アレクサンドル・プーシキン 台本：コンスタンチン・シロフスキイ、ピョートル・チャイコフスキイ

プロダクションについて

大野和士芸術監督のレパートリー拡充の方針のもと、ロシア・オペラ新制作の第1弾として上演した『エフゲニー・オネーギン』を再演します。『エフゲニー・オネーギン』はロシア・オペラの中でも最もポピュラーな作品で、華麗な管弦楽やバレエ音楽でおなじみのチャイコフスキイの叙情性が存分に味わえる傑作です。帝政ロシア貴族社会の男女の行き違いを描いた、プーシキンの格調高い韻文小説を原作に、ニヒルな知識人オネーギン、夢見がちな少女タチヤーナらの若者たちが愛と絶望、死に直面する物語が、チャイコフスキイならではの甘美な音楽で綴られます。「手紙の歌」や「青春は遠く過ぎ去り」、終幕の華麗なポロネーズなどは単独で演奏されることも多い人気曲です。

ドミトリー・ベルトマンの演出はロシア近代演劇の祖・スタニスラフスキイ演出をモチーフとしたもので、スタニスラフスキイのリアリズムを踏まえ、現代的な視点で人物を自然に生き生きと動かします。序盤のロシアの地方貴族の人間模様と、サンクトペテルブルクの公爵夫人となったタチヤーナを前にしたオネーギンの絶望を描く終幕とのコントラストも鮮やかで、美しい美術・衣裳も大好評です。

指揮にはこのプロダクションの初演も指揮したアンドリー・ユルケヴィチ、タチヤーナとオネーギンには、欧州の主要劇場で共に活躍するクリスティーナ・ムヒタリアンとアンドレイ・ジリホフスキイ、オリガには2016年のウィーン国立歌劇場来日公演でも注目を浴びたマルガリータ・グリツコヴァ、レンスキーにはパヴェル・ヴァルージン、グレーミン公爵に『ボリス・ゴドウノフ』ピーメンが絶賛されたゴルジ・ジャネリーゼと選りすぐりのキャストが揃います。



2024年公演より

あらすじ

【第1幕】ラーリン邸。農村の女地主ラーリナの二人の娘、読書好きで物静かな姉のタチヤーナと陽気で外交的な妹オリガのもとを、オリガの婚約者のレンスキイが、友人オネーギンを連れて訪れる。タチヤーナは一目でオネーギンへの恋に落ちる。その夜、眠れないタチヤーナは意を決してオネーギンへの恋文をしたため、オネーギンへ届けさせる。ラーリン家の庭にオネーギンが現れ、タチヤーナに手紙を返す。ニヒリストのオネーギンは、自分は結婚生活に向かない人間だと冷たく告げ、タチヤーナに自制することを学ぶよう諭す。

【第2幕】ラーリン家の舞踏会。オネーギンがタチヤーナと踊っていると、客たちは二人の噂話を交わす。オネーギンはつまらない舞踏会に自分を誘ったレンスキイへの腹いせにオリガとばかり踊る。これを侮辱と捉えたレンスキイはオネーギンと激しく口論し、ついに決闘を申し込む。凍てつく冬の朝、決闘場所の水車小屋でオネーギンを待つレンスキイは、過ぎた日を懐かしむ。オネーギンが到着し、介添人の下で決闘が行われる。オネーギンが撃つとレンスキイが倒れ、オネーギンは友人の死におののく。

【第3幕】数年後、サンクトペテルブルクのグレーミン公爵邸の舞踏会。社交界から離れ放浪の旅を続けていたオネーギンが久しぶりに現れ、グレーミン公爵夫人となったタチヤーナに再会し、その変貌ぶりに驚く。グレーミン公爵がオネーギンに妻を紹介し、いかに妻を愛しているか語る。タチヤーナの優雅な姿に今度はオネーギンの心が燃え上がる。オネーギンはタチヤーナのもとを訪れ、憐れみを乞う。オネーギンの激情にタチヤーナも心動かされるものの、オネーギンの自尊心に訴え、公爵と共に生きる運命に従う、と言い残し去っていく。

ピョートル・チャイコフスキ

エフゲニー・オネーゲン

Pyotr Tchaikovsky / Eugene Onegin

全3幕〈ロシア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 アンドリー・ユルケヴィチ
Conductor Andriy YURKEVYCH

演出 ドミトリー・ベルトマン
Production Dmitry BERTMAN

美術 イゴール・ネジニー
Set Design Igor NEZHNY

衣裳 タチアーナ・トルビエワ
Costume Design Tatiana TULUBIEVA

照明 デニス・エニュコフ
Lighting Design Denis ENYUKOV

振付 エドワルド・スマルノフ
Choreographer Edvald SMIRNOV

タチヤーナ クリストイーナ・ムヒタリアン
Tatyana Kristina MKHITARYAN

オネーゲン アンドレイ・ジリホフスキ
Eugene (Yevgeny) Onegin Andrey ZHILIKHOVSKY

レンスキ パヴェル・ヴァルージン
Vladimir Lensky Pavel VALUZHIN

オリガ マルガリータ・グリツコヴァ
Olga Margarita GRITSKOVA

グレーミン公爵 ゴデルジ・ジャネリーゼ
Prince Gremin Goderdzi JANELIDZE

ラーリナ 齊藤純子
Madama Larina SAITO Junko

フィリッピエヴァ 橋爪ゆか
Filipyevna HASHIZUME Yuka

ザレツキー ヴィタリ・ユシュマノフ
Zaretsky Vitaly YUSHMANOV

トリケ 高梨英次郎
Monsieur Triquet TAKANASHI Eijiro

合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2027年5月16日(日)14:00 18日(火)14:00

20日(木)14:00 23日(日)14:00

【料金】

S:31,900円・A:26,400円・B:19,250円・C:12,100円・D:8,250円

【会場】

オペラパレス

エフゲニー・オネーゲン

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：アンドリー・ユルケヴィチ

Conductor : Andriy YURKEVYCH

ウクライナ出身。2022年よりプラハ国立歌劇場音楽監督。リヴィウ音楽大学を卒業し、シェナのキジアナ音楽院でゼッダ、ジェルメッティのもとで学ぶ。リヴィウ歌劇場常任指揮者となった後、ウクライナ国立オデッサ歌劇場、モルドバ国立歌劇場、ポーランド国立歌劇場音楽監督を歴任。05年ローマ歌劇場へデビュー。その後モンテカルロ歌劇場、モネ劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、チリ・サンチャゴ市立劇場、ギリシャ国立歌劇場などへ招かれる。最近ではジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、ボローニャ歌劇場、ハンガリー国立歌劇場、テネリフェ歌劇場『ルクレツィア・ボルジア』、ダルムシュタット歌劇場、ヴェローナ・フィラルモニコ歌劇場、ニース歌劇場『ルチア』、カルロ・フェリーチェ歌劇場『道化師』、モルドバ国立歌劇場『椿姫』、ニース歌劇場『蝶々夫人』、プラハ国立歌劇場『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』『椿姫』『蝶々夫人』『ナブッコ』『ロメオとジュリエット』『トスカ』『アイーダ』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』などを指揮している。新国立劇場では19年『エフゲニー・オネーゲン』、22年『椿姫』を指揮した。本年5月『ウェルテル』も指揮する予定。



演出：ドミトリー・ベルトマン

Production : Dmitry BERTMAN

モスクワ生まれ。ロシア舞台芸術アカデミーでオペラ演出を学ぶ。1990年23歳の時にモスクワでヘリコン・オペラを創立、すぐにロシアで最も有名なオペラカンパニーの一つの地位を確立する。ヘリコン・オペラでの約120のプロダクションのほか、国内外でロシア作品や世界初演作品を含む多くのプロダクションを手がけており、カナディアン・オペラ・カンパニー、スウェーデン王立ドラマ劇場、マリインスキー劇場、ラトヴィア国立歌劇場、ローマ歌劇場、エストニア国立歌劇場、フィンランド国立歌劇場、モスクワ・N.I.サツ・記念子供音楽劇場、マシー歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、マンハイム州立劇場、ウィーン・フォルクスオーバー、ニュージーランド歌劇場、リセウ大劇場などで演出。2005年ロシア連邦人民芸術家となる。1998年、99年、2001年、ロシア劇場連合“ゴールデンマスク賞”受賞。03年、04年、05年、劇場労働者組合“シーズン優秀作品賞”、05年スタニスラフスキ賞、07年モスクワ市賞、08年エストニア賞及びエストニア劇場組合賞、ロシア・フレンドシップ勳章、フランス教育功労章オフィシエなど受賞多数。ロシア舞台芸術アカデミー教授。



タチヤーナ：クリスティーナ・ムヒタリアン（ソプラノ）

Tatyana : Kristina MKHITARYAN

グネーシン音楽大学、グネーシン音楽アカデミーで学ぶ。2017年オペラリア・コンクール第2位など数々の国際コンクールに入賞。英国ロイヤルオペラ『カルメン』ミカエラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、カラカラ浴場『椿姫』ヴィオレッタをはじめ、オペラ・オーストラリア、ハンブルク州立歌劇場、パリ・オペラ座『リゴレット』ジルダ、英国ロイヤルオペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、マドリード・テアトロ・レアル『エフゲニー・オネーゲン』タチヤーナ、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『海賊』メドーラ、オランダ国立オペラで『エリオガバロ』アニシア・エリテア、『マリア・ストゥアルダ』タイトルロールなどに出演。ウィーン国立歌劇場にたびたび招かれ、『椿姫』ヴィオレッタ、『愛の妙薬』アディーナ、『カルメン』ミカエラ、『トゥーランドット』リュー、『マノン』タイトルロールなどで出演を重ねている。最近では、メトロポリタン歌劇場『ラ・ボエーム』でムゼッタに続きミミに出演。25/26シーズンは、メトロポリタン歌劇場『カルメン』ミカエラ、ウィーン国立歌劇場『マノン』『真珠採り』レイラ、ベルゲン・オペラ『椿姫』に出演する。新国立劇場初登場。



エフゲニー・オネーゲン

主要キャスト・スタッフ プロフィール

オネーゲン: アンドレイ・ジリホフスキイ (バリトン)

Eugene (Yevgeny) Onegin : Andrey ZHILIKHOVSKY

モルドバ出身。ニヤガ音楽大学、リムスキー=コルサコフ音楽院で学ぶ。サンクトペテルブルク・ミハイロフスキイ劇場ソリスト、ボリショイ劇場ヤング・アーティスト・プログラムを経て世界の主要劇場で活躍、バイエルン州立歌劇場『愛の妙薬』ペルコレ、パリ・オペラ座『イオランタ』ロベルト、グラウンドボーン音楽祭『ドン・パスクワーレ』マラテスタ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ワシントン・ナショナル・オペラ、メトロポリタン歌劇場『セビリアの理髪師』、ローマ歌劇場、ベルリン州立歌劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。最近の公演に、ボリショイ劇場『サドコ』、ハンガリー国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場『戦争と平和』、トリノ王立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』マルチエッロなどがある。24/25シーズンはフィンランド国立歌劇場へ『ドン・カルロ』ロドリゴで、ザルツブルク音楽祭へ『ジュリオ・チェーザレ』アキラでデビューし、メトロポリタン歌劇場『セビリアの理髪師』にも出演した。25/26シーズンには、オランダ国立オペラに『オルレアンの乙女』で、ジュネーヴ大劇場へ『蝶々夫人』で、ウィーン国立歌劇場へ『ラ・ボエーム』でデビュー予定。英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』にも出演予定。新国立劇場初登場。



レンスキー: パヴェル・ヴァルージン (テノール)

Vladimir Lensky : Pavel VALUZHIN

サンクトペテルブルクのリムスキー=コルサコフ音楽院、ベラルーシのモロデチノ音楽大学を卒業。ボリショイ劇場ヤング・アーティスト・プログラム修了。バーゼル歌劇場『椿姫』アルフレードでヨーロッパデビュー後、ボン劇場とアンティーブでも同役に出演。シュトゥットガルト州立劇場『リゴレット』マントヴァ公爵、『ファウスト』タイトルロール、『蝶々夫人』ピンカートンに出演。『リゴレット』マントヴァ公爵は、ウイーン・フォルクスオーバー、ベルリン・ドイツ・オペラ、ブレゲンツ音楽祭、ボリショイ劇場などでも歌っている。ボリショイ劇場で『皇帝の花嫁』イワン・リコフ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。ロドルフォ役でザクセン州立歌劇場にもデビュー。最近および今後の予定には、イスラエル・オペラ『イオランタ』ヴォデモン伯爵、クロアチア国立歌劇場『ウェルテル』タイトルロール、『リゴレット』マントヴァ公爵、ベルリン・コーミッシュ・オーバー『エフゲニー・オネーゲン』レンスキー、『金鶏』グヴィドン王子、バーゼル歌劇場『リゴレット』、ハノーファー歌劇場『メフィストフェレ』ファウスト、『エフゲニー・オネーゲン』、ザクセン州立歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場、デンマーク王立歌劇場『ラ・ボエーム』、デュッセルドルフ・ライン・ドイツ・オペラ、シュトゥットガルト州立劇場『椿姫』アルフレードなどがある。新国立劇場初登場。



オリガ: マルガリータ・グリツコヴァ (メゾソプラノ)

Olga: Margarita GRITSKOVA

サンクトペテルブルク出身。ワイマール歌劇場と契約後ウィーン国立歌劇場専属歌手となり、『チェネレントラ』タイトルロール、『皇帝ティトの慈悲』セスト、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『アルチーナ』ブラダマンテ、『アルジェのイタリア女』イザベッラ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『エフゲニー・オネーゲン』オルガ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『カルメン』タイトルロール、『こうもり』オルロフスキイ公爵などに出演した後フリーとなる。近年では、ライン・ドイツ・オペラ(デュッセルドルフ)、バイエルン州立歌劇場、ヴィクトリア・オペラ(メルボルン)『チェネレントラ』アンジェリーナ、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『皇帝ティトの慈悲』セスト、チューリヒ歌劇場『偽の女庭師』ラミロ、ゲルトナープラツ劇場『アンナ・ボレーナ』ジョヴァンナ・シーモア、シャンゼリゼ劇場『アルジェのイタリア女』イザベッラ、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、レフ音楽祭『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、ケムニッツ歌劇場『アイーダ』アムネリス、クロスターイブルク歌劇場『運命の力』プレツィオジッラ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『ノルマ』アダルジーザ、フィンランド国立歌劇場『ドン・カルロ』エボリ公女などに出演している。新国立劇場初登場。



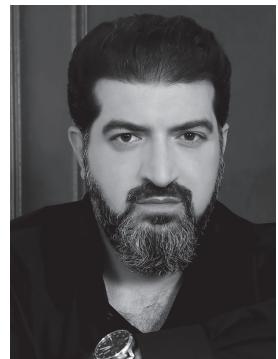
エフゲニー・オネーゲン

主要キャスト・スタッフ プロフィール

グレーミン公爵：ゴデルジ・ジャネリーゼ（バス）

Prince Gremin : Goderdzi JANELIDZE

ジョージア出身。ボリショイ劇場専属歌手を経て、国際的に活躍を広げ、英国ロイヤルオペラ『サムソンとデリラ』ヘブライの長老、リセウ大劇場とボルドー歌劇場『ラ・ボエーム』コッリーネ、デンマーク王立歌劇場『ドン・カルロ』フィリップ二世、ボーンマス交響楽団の『イオランタ』ルネ王、フランダース・オペラ『ルサルカ』ウォドニクなどに出演。また、ボリショイ劇場『フィガロの結婚』バルトロ、ウェックスフォード・フェスティバルの『ドン・キショット』、バンクーバー・オペラ『エフゲニー・オネーゲン』グレーミン公爵、アル・ブスタン・フェスティバル『イーゴリ公』コンチャックなどにも出演している。最近では、ボルドー歌劇場『ノルマ』オロヴェーゾ、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、トリノ王立歌劇場、ブレゲンツ音楽祭、ブエノスアイレス・コロン劇場、カナディアン・オペラ・カンパニー『リゴレット』スペラフチーレで好評を得る。25/26シーズンはミラノ・スカラ座シーズン開幕公演『ムツェンスクのマクベス夫人』、ライン・ドイツ・オペラ『ナブッコ』ザッカーリアといったハウスデビューが続く。新国立劇場へは『ボリス・ゴドウノフ』ピーメンでデビューし、絶賛を浴びた。



ラーリナ：齊藤純子（メゾソプラノ）

Madama Larina : SAITO Junko

東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏後、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで研鑽を積む。以降、ボルドー大劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、チロル音楽祭、南チロル音楽祭、サンタンデール音楽祭など欧州各地で活躍。オペラでは『フィデリオ』レオノーレ、『カルメン』タイトルロール、『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルゲンデ、『ワルキューレ』ゲルヒルデ、また、びわ湖ホール『神々の黄昏』ノルン2、『ジュリエッタとロメオ』本邦初演公演アーデリアに出演。ソプラノからコントラルトまでの幅広い声域を持ち、コミカルなキャラクターからシリアスな役まで手掛ける。出演した『アルツィラ（タイトルロール）』『ニーベルングの指環』『裏切りの瞳』などのCD、DVDは、世界各国で発売されている。新国立劇場では『フィレンツェの悲劇』ビアンカ、『チェネントラ』ティーズベ、『修道女アンジェリカ』公爵夫人、『子どもと魔法』お母さん、『ウィリアム・テル』エドヴィージュに出演。26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『エフゲニー・オネーゲン』ラーリナに出演予定。フランス在住。藤原歌劇団団員。



フィリッピエヴァ：橋爪ゆか（メゾソプラノ）

Filipyevna : HASHIZUME Yuka

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。在学中にアルトからソプラノへ転向。同大学大学院オペラ科修了。文化庁オペラ研修所修了。文化庁派遣在外研修員としてウィーン留学。二期会『魔弾の射手』(演奏会形式)アガーテで本格的デビュー。多くのオペラ、コンサートで活躍し、二期会『ワルキューレ』ジークリンデ、『こうもり』ロザリンデ、『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェ、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『パルジファル』クンドリー、東京オペラプロデュース『二人のオスカリ』ルクレツィア・コンタリーニ、メノッティ『ブリーカー街の聖母マリア』アンニーナなどに出演。2021年にメゾソプラノへ転向。新国立劇場では、『エフゲニー・オネーゲン』フィリッピエヴァ、オペラ鑑賞教室『蝶々夫人』タイトルロール、『さまよえるオランダ人』(演奏会形式)ゼンタ、「ジークフリート」ハイライトコンサート」ブリュンヒルデ、『神々の黄昏』ノルンⅢなどに出演。また『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデ、『フィデリオ』レオノーレ、『エフゲニー・オネーゲン』タチヤーナ、『タンホイザー』ヴェーヌスなどでカヴァーを務めている。二期会会員。



マクベス

2027年6/30～7/18
〈新制作〉New Production

Macbeth

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○会員先行販売期間：2027年3/21(日・祝)～3/31(水) ○一般発売日：2027年4/4(日)

初演：1847年3月14日／フィレンツェ・ペルゴラ劇場

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ 原作：ウィリアム・シェイクスピア 台本：フランチェスコ・マリア・ピアーヴェ、アンドレア・マッフェイ

プロダクションについて

ヴェルディ初期の傑作『マクベス』を新制作上演します。『マクベス』は晩年の『オテロ』『ファルスタッフ』に至るまでシェイクスピアへ傾倒していたヴェルディが初めてオペラ化を成し遂げたシェイクスピア演劇。『ナブッコ』など愛国心を鼓舞する傑作を連発していたヴェルディ前期、それまでの形式の枠を超えて、ドラマとしてのオペラという新境地へ踏み出した記念碑的作品でもあります。全曲を通じて原作と同じく暗鬱で劇的緊張感溢れる音楽が満ち、予言から野心、疑惑、陰謀、錯乱と極限へと追い込まれていくマクベス夫妻の心理を描き切る重厚な作品です。マクベス夫人の3つの大きなアリア、マクベスのモノローグにマクダフの叙情的なアリア、そして大迫力の合唱とドラマティックな聴きどころも満載です。

演出はイタリア・オペラの重鎮ロレンツォ・マリアーニ、指揮にはイタリア・オペラ界最高峰の指揮者で、新国立劇場でも『ファルスタッフ』『アイーダ』が熱狂を呼んだカルロ・リッティが登場。マクベスにはイタリア注目のヴェルディ・バリトンでパルマ・ヴェルディ音楽祭の同役でも完璧な技術と卓越した心理表現が絶賛されたエルネスト・ペッティ、マクベス夫人には艶やかで豊かな声を武器にイタリア主要劇場で躍進中のソプラノ、カレン・ガルデアサバルが出演します。

あらすじ

【第1幕】11世紀のスコットランド。マクベスとバンクローは先勝の帰路、森の中で魔女たちから、マクベスはコーダ領主、そしてスコットランド王に、バンクローはその子孫が王位に就くだろうと予言される。夫から予言を伝える手紙を受け取ったマクベス夫人は野心に燃える。マクベスが帰城すると、夫人は好機到来と、先勝祝いに訪れるスコットランド王ダンカンを刺殺するようマクベスを唆す。その夜マクベスは王の寝室に忍び込み刺殺する。

【第2幕】マクベスは予言通りスコットランド王となるが、バンクローへの予言が疑心を呼び、夫妻はバンクロー親子の殺害も企む。刺客たちがバンクロー親子を狙い、バンクローを殺害するが、息子を取り逃す。マクベスは王位就任の祝宴で刺客からの報告をうけると、バンクローの幻影に怯え錯乱する。夫人が叱咤激励するが、マクダフら貴族たちは半狂乱のマクベスに不信を抱く。

【第3幕】マクベスが再び魔女を訪ね自らの運命を尋ねると、「マクダフに気をつけろ」「女から産み落とされたものに負けることはない」「バーナムの森が動かぬ限り負けることはない」と告げられる。マクベスは王の靈たちの出現に恐れおののき失神する。マクベスは夫人に新たな予言を伝える。夫妻はマクダフの城を焼き払い、バンクローの息子も皆殺しにしようと決意する。

【第4幕】妻子までマクベスに殺されたマクダフは逃亡していた先王の遺児マルコムと共に反マクベスの旗を揚げる。兵士たちに森の木を持って偽装させた進軍は、森が攻め寄せるかのように見える。城内ではマクベス夫人が手に着いた血の幻覚に怯え、狂死する。マクベスに一騎打ちを賭けるマクダフは、自分の出生は帝王切開だと告げ、命運尽き果て戦意を失ったマクベスを刺し殺す。

ジュゼッペ・ヴェルディ

マクベス

Giuseppe Verdi / Macbeth

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮.....	カルロ・リッティ
Conductor	Carlo RIZZI
演出.....	ロレンツォ・マリアーニ
Production	Lorenzo MARIANI
美術.....	マウリツィオ・バル
Set Design	Maurizio BALÒ
衣裳.....	シルヴィア・アイモニーノ
Costume Design	Silvia AYMONINO
振付.....	セスク・ジェラベル
Choreographer	Cesc GELABERT
	リディア・アゾパルディ
	Lydia AZZOPARDI

マクベス.....	エルネスト・ペッティ
Macbeth	Ernesto PETTI
マクベス夫人.....	カレン・ガルデアサバル
Lady Macbeth	Karen GARDEAZABAL
バンクオー.....	妻屋秀和
Banquo	TSUMAYA Hidekazu
マクダフ.....	パリーデ・カタルド
Macduff	Paride CATALDO
マルコム.....	村上公太
Malcolm	MURAKAMI Kota
侍女.....	谷口睦美
Dama di Lady Macbeth	TANIGUCHI Mutsumi
医師.....	久保田真澄
Medico	KUBOTA Masumi
マクベスの従者.....	小林啓倫
Domestico	KOBAYASHI Hiromichi
	ほか

合唱.....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦樂.....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2027年6月30日(水)18:00	
7月 3日(土)14:00	7日(水)14:00
11日(日)14:00	16日(金)14:00
18日(日)14:00	

【料金】

S:34,100円・A:28,600円・B:20,900円・C:14,300円・D:8,250円

【会場】

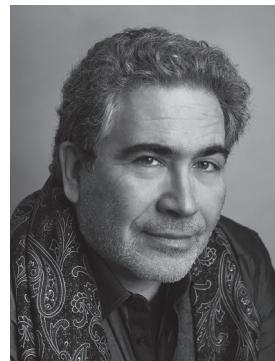
オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：カルロ・リッツィ

Conductor : Carlo RIZZI

世界有数のオペラ指揮者。生地ミラノ音楽院に学び、スカラ座の音楽スタッフとして経験を積む。1982年に指揮者としてのキャリアをスタートし、オペラとコンサート双方で世界中の一流劇場やフェスティバルで活躍。声楽の知識と演劇的センス、そして世界の劇場で磨かれた協働のスキルにより、オペラの達人として高い評価を獲得している。オペラのレパートリーはイタリア・オペラを中心にワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、マルティヌー、ヤナーチェクまで100以上に及ぶ。92～2001年及び04～08年にはウェールズ・ナショナル・オペラ音楽監督を務め、その芸術的水準と国際的知名度を劇的に向上させた。15年から同桂冠指揮者。19年よりオペラ・ラーラ音楽監督。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラとは特に深い関係を築いており、パリ・オペラ座、テアトロ・レアル、バーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、オランダ国立オペラ、シカゴ・リリック・オペラ、チューリヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場などでも活躍。24/25シーズンは、ベルリン・ドイツ・オペラ『炎』、ウィーン国立歌劇場『リゴレット』『トゥーランドット』、バイエルン州立歌劇場『ラ・ボエーム』、パリ・オペラ座『三部作』、英國ロイヤルオペラ『イル・トロヴァトーレ』を指揮した。BBCプロムスではウェールズ・ナショナル・オペラ管弦楽団を指揮。25/26シーズンはメトロポリタン歌劇場『トゥーランドット』『蝶々夫人』、テアトロ・レアル『ロメオとジュリエット』に登場。オペラ・ラーラでは『つばめ』をBBC交響楽団と録音するほか、ドニゼッティの歌曲全曲録音プロジェクトにピアニストとして参加する。新国立劇場では18年『ファルスタッフ』、23年『アイーダ』を指揮している。



演出：ロレンツォ・マリアーニ

Production : Lorenzo MARIANI

ニューヨーク生まれ。ハーバード大学を卒業後、フィレンツェ大学人文学部で研究を続ける。1983年、フィレンツェ歌劇場で演出家としてデビュー。同劇場へはその後、ズービン・メータ指揮で『アイーダ』『運命の力』『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』の4作品を新制作するなど、頻繁に登場を続ける。他に特に関係の深い指揮者としては、クラウディオ・アバドとテルアビブ、フェッラーラで『ドン・ジョヴァンニ』を演出している。2005年から8年間パレルモ・マッシモ劇場芸術監督を務め、4年連続のアッピアーティ賞受賞、国際共同制作や海外ツアーの成功と著しい成長に貢献した。イタリア国内外の著名劇場で活躍し、最近の主な演出作に、フィレンツェ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』、ギリシャ国立歌劇場『マクベス』『イル・トロヴァトーレ』、カラカラ浴場での『セビリアの理髪師』『椿姫』、ナボリ・サン・カルロ歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』、ボローニャ歌劇場『ルチア』、チルコ・マッシモ、フェニーチェ歌劇場、ビルバオ・オペラなどで上演された『イル・トロヴァトーレ』、シェナ・キジアナーナ音楽院の『ドン・パス夸ワーレ』がある。17年、インターナショナル・オペラ・アワード最優秀演出家賞を受賞。新国立劇場初登場。



マクベス：エルネスト・ペッティ（バリトン）

Macbeth : Ernesto PETTI

サレルノ生まれ。トップ・デル・ラゴのプッチーニ音楽院卒業後、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿プラシド・ドミンゴ・センターに参加。これまでに、カリアリ歌劇場、アヴィニョン歌劇場ほかで『椿姫』ジェルモン、バーリ・ペトルッツェッリ歌劇場、サン・カルロ歌劇場、バーゼル歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ『ルチア』エンリーコ、ピアチェンツァ市立歌劇場、サン・カルロ歌劇場『サムソンとデリラ』ダゴンの大祭司、『蝶々夫人』シャープレス、『ドン・カルロ』ロドリゴ、ケルン、アンコーナ、オビエド、マイントの『ナブッコ』タイトルロール、ピアチェンツァの『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、オペラ・オーストラリア『リゴレット』タイトルロール、パルマ・ヴェルディ音楽祭『マクベス』タイトルロール、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『ファルスタッフ』フォードなどに出演。25/26シーズンは、ミラノ・スカラ座『ファウスト』ヴァランタン、ロサンゼルス・オペラ『ファルスタッフ』フォード、サン・カルロ歌劇場『仮面舞踏会』レナート、ピアチェンツァ市立歌劇場『ヴェルディ・トリロジー』リゴレット／ルーナ伯爵／ジェルモン、セビリア・マエストランサ劇場『アイーダ』アモナズロ、ボルドー歌劇場『椿姫』ジェルモン、オビエド・オペラ『リゴレット』タイトルロールに出演。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

マクベス夫人：カレン・ガルデアサバル（ソプラノ）

Lady Macbeth : Karen GARDEAZABAL

メキシコ出身。メキシコ州立音楽院で学び、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿プラシド・ドミンゴ・センターを修了。同劇場の『愛の妙薬』アディーナ役でデビュー。ナボリ・サン・カルロ歌劇場で『ラ・ボエーム』ミミに出演し、サン・カルロ歌劇場ツアー公演、トリエステ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージに出演。サン・カルロ歌劇場『エジプトのモーゼ』エルキア、ソフィア王妃芸術宮殿『皇帝ティトの慈悲』セルヴィリア、マチエラータ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナなどに出演し、2022年のヴェローナ野外音楽祭開幕公演『カルメン』ミカエラに出演。ボローニャ歌劇場へは『ラ・ボエーム』でデビューし、23年『愛の妙薬』アディーナ、24年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、25/26シーズンには『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ラ・ボエーム』ミミに登場している。21年にはマルケ州各地で『椿姫』ヴィオレッタに出演、24年にはメキシコシティのベジャス・アルテス劇場で『ジョヴァンナ・ダルコ』タイトルロールにデビューし、レパートリーを広げている。最近ではジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『ねじの回転』家庭教師に出演した。新国立劇場初登場。



バンクオー：妻屋秀和（バス）

Banquo : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマーのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツアルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を100役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長／フィリッポ二世、『ラインの黄金』ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『オイランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスター』ハанс・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケル、『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、『ウィリアム・テル』ジェスレル、『ヴォツェック』医者など出演多数。26/27シーズンは『フィガロの結婚』バルトロ、『サロメ』2人のナザレ人1、『ファルスタッフ』ピストーラ、『マクベス』バンクオーに出演予定。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2024年紫綬褒章受章。



マクダフ：パリーデ・カタルド（テノール）

Macduff : Paride CATALDO

イタリア出身。2022年テノール・ヴィーニャス国際歌唱コンクール・ヴェルディ賞など多くの国際コンクールに入賞。クレモナ、パヴィーアで『ドン・カルロ』タイトルロール、アルティ国際音楽祭『ラ・ボエーム』ロドルフォ、サンタ・チェチーリア管弦楽団、レッティ歌劇場、パレマ王立歌劇場のツアー公演の『椿姫』アルフレード、オランダ国立オペラの『リトラット』（世界初演）ガブリエレ・ダンヌンツィオなどに出演。アイルランド国立オペラの『ウェルテル』タイトルロールは、ダブリンのほか、レターケニー、ナバン、ゴー・ルウェイなどアイルランド各地の劇場で上演された。また、英国ロイヤルオペラやポーランド国立歌劇場でコンサートに出演。最近では、オルデンブルク歌劇場『ウェルテル』タイトルロール、ライン・ドイツ・オペラ『椿姫』アルフレード、パヴィーア、コモ、ベルガモの各劇場とポーランド国立歌劇場で『リゴレット』マントヴァ公爵に出演している。今後の予定にリエージュ・ワロン歌劇場『オテロ』カッシオがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

マルコム：村上公太（テノール）

Malcolm : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラに立て続けに客演し好評を博す。東京二期会『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロート、『椿姫』アルフレード、日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、サントリーホール『リトゥン・オン・スキン』第3の天使／ヨハネ、グランドオペラ共同制作『カルメン』レメンダード、横須賀芸術劇場『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。新国立劇場では『こうもり』アルフレード、『カルメン』レメンダード、『ファルスタッフ』フェントン、『夏の夜の夢』ライサンダー、『イオランタ』アルメリック、『ニュルンベルクのマイスター』クンツ、フォーゲルゲザング、『蝶々夫人』ピンカートン、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』ドン・ホセ、同『蝶々夫人』ピンカートン、同『トスカ』カヴァラドッシなどに出演。本年5月に『ウェルテル』シュミット、26/27シーズンは『ピーター・グライムズ』ホレース・アダムス、『ファルスタッフ』フェントン、『マクベス』マルコム、高校生のためのオペラ鑑賞教室2026ロームシアター京都公演『蝶々夫人』ピンカートンに出演予定。二期会会員。



侍女：谷口睦美（メゾソプラノ）

Dama di Lady Macbeth : TANIGUCHI Mutsumi

東京藝術大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ第47期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第2回大阪国際コンクール声楽部門入選。これまでに『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『皇帝ティートの慈悲』セスト、『ドン・カルロ』エボリ公女などを演じている。モーツアルト『ミサ曲ハ短調』、ベートーヴェン『第九』、ヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍。新国立劇場では『ナブッコ』フェネーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ、『鹿鳴館』大徳寺公爵夫人季子、『ホフマン物語』アントニアの母の声／ステッラ、『椿姫』アンニーナ、『夢遊病の女』テレーザ等に出演。2021年鑑賞教室及びびわ湖ホール公演『カルメン』タイトルロールでも好評を博した。26/27シーズンは『カヴァレリア・ルスティカーナ』ルチア、『マクベス』侍女に出演予定。二期会会員。



医師：久保田真澄（バス）

Medico : KUBOTA Masumi

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。1993年第62回日本音楽コンクール声楽部門第3位。94年五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。96年リニャーノ国際コンクール及び第2回フェルッチョ・タリアヴィーニ国際コンクールに入選。ミラノで『蝶々夫人』『椿姫』『アイーダ』『ラ・ボエーム』などに出演。藤原歌劇団では、『愛の妙薬』『椿姫』『マクベス』などで活躍。日本オペラ協会公演『ニングル』民吉で出演。新国立劇場では『アイーダ』『ドン・ジョバンニ』『ウェルテル』『カルメン』『ルチア』『ラ・ボエーム』『オテロ』『フィガロの結婚』『トスカ』『椿姫』など数多く出演。2021年、24年の高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『ドン・パスクワーレ』ではタイトルロールに出演した。国立音楽大学・大学院教授。日本オペラ協会会員。藤原歌劇団団員。



Opera

令和8年度公演

〈3演目10公演〉

2026年7月

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2026

(新国立劇場公演)

愛の妙薬

L'elisir d'amore | G.ドニゼッティ

6回公演

2026年10月

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2026

(ロームシアター京都公演)

蝶々夫人

Madama Butterfly | G.プッチーニ

2回公演

2026年7月

新国立劇場 地域招聘オペラ公演 2026 びわ湖ホール

森は生きている

The Twelve Months | 林 光

2回公演

愛の妙薬

L'elisir d'amore

オペラパレス | 6回公演 | 全2幕 〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

○高校生以下発売日：2026年6/7(日) ○一般発売日：2026年6/21(日)

初演：1832年5月12日 テアトロ・カノッピアーナ

作曲：ガエターノ・ドニゼッティ 台本：フェリーチェ・ロマーニ

プロダクションについて

新国立劇場「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及を目指す新国立劇場が、次の世代を担う青少年に向け優れた舞台芸術を提供する機会として、1998年より開催している事業です。「初めてのオペラ鑑賞だからこそ、本物のオペラを体験していただきたい」という願いを込めて、演出、舞台美術、衣裳など本公演と全く同じプロダクションを上演。日本を代表するオペラ歌手が出演し、生のオーケストラ演奏で上演しています。高校生を学生扱いせず、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくというコンセプトが大変好評をいただいているます。

2026年の東京公演は、ベルカント・オペラの傑作『愛の妙薬』を上演します。『愛の妙薬』は偽の惚れ薬をめぐる、コミカルでちょっぴりホロリとする恋の物語で、愛を求めて悩んだり意地を張ったりして葛藤する若者の姿が広く共感を呼びます。哀愁漂う名曲「人知れぬ涙」をはじめ、魅力的な音楽も盛りだくさんです。新国立劇場のリエヴィ演出は、9メートルもある巨大な本や実物大の小型飛行機などがカラフルな舞台に登場するなど、舞台ならではの遊び心がいっぱいです。



2013年公演より

あらすじ

【第1幕】村人たちが集い、農場主の娘アディーナが本を読み聞かせる。ネモリーノは彼女に恋している。軍曹ベルコーレが兵隊と共に登場、アディーナに目を留める。ネモリーノも彼女を呼び止めるがつれなくされる。偽医者のドゥルカマーラがネモリーノに「愛の妙薬」と偽ってワインを売りつけ、一日後に効き目が出ると騙す。軍曹に出発命令が届き、アディーナに「今日中に結婚しよう」と告げる。それでは妙薬が効かないと焦ったネモリーノはもう一日待ってくれと頼んで笑い者になる。アディーナは宴に皆を招き、ネモリーノはひとり偽医者の助けを求めて叫ぶ。

【第2幕】アディーナと軍曹の結婚祝いの席。アディーナは姿の見えないネモリーノを気にする。ネモリーノは妙薬をまた買う金を求めて、ベルコーレに入隊を志願する。娘たちが「ネモリーノが親戚の莫大な遺産を相続した」と噂する。やってきたネモリーノを娘たちが急に持ち上げるので、彼は薬の効き目を実感する。アディーナはネモリーノが妙薬のために入隊を志願したと聞きほろりとする。彼女の涙を目にしたネモリーノは、名アリア〈人知れぬ涙〉で彼女の心のうちを悟ったと歌う。アディーナは、ベルコーレから買い戻した入隊契約書をネモリーノに差し出すが、彼は「愛してもらえないのなら兵隊になって死にたい」と叫ぶ。二人は本心を告げあう。ベルコーレが登場、潔くアディーナを諦める。村を去るドゥルカマーラを、一同がにぎやかに見送る。

ガエターノ・ドニゼッティ
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2026

愛の妙薬

Gaetano Donizetti / L'elisir d'amore

全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮..... 現田茂夫
Conductor GENDA Shigeo

演出..... チェーザレ・リエヴィ
Production Cesare LIEVI

美術..... ルイジ・ペーレゴ
Set Design Luigi PEREGO

衣裳..... マリーナ・ルクサルド
Costume Design Marina LUXARDO

照明..... 立田雄士
Lighting Design TATSUTA Yuji

アディーナ..... Adina	(7月10日・13日・15日) 光岡暁恵 MITSUOKA Akie	(7月11日・14日・16日) 種谷典子 TANETANI Noriko
---------------------	--	--

ネモリーノ..... Nemorino	中井亮一 NAKAI Ryoichi	糸賀修平 ITOYA Shuhei
------------------------	-----------------------	----------------------

ベルコーレ..... Belcore	池内 韶 IKEUCHI Hibiki	大久保惇史 OKUBO Atsushi
-----------------------	------------------------	------------------------

ドゥルカマーラ..... Dulcamara	押川浩士 OSHIKAWA Hiroshi	田中大揮 TANAKA Taiki
---------------------------	--------------------------	----------------------

ジャンネット..... Giannetta	今野沙知恵 KONNO Sachie	中畠有美子 NAKAHATA Yumiko
--------------------------	-----------------------	--------------------------

合唱..... Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
-------------------	---

管弦樂..... Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra
-----------------------	--

助成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協賛：損保ジャパン

2026年7月10日(金)13:00	11日(土)13:00
13日(月)13:00	14日(火)13:00
15日(水)13:00	16日(木)13:00

【料金】

2,750円(高校生及び引率教員【学校団体】)

残席がある公演日に限り前売販売：2,750円(高校生以下)／6,600円(一般[大人])

【会場】

オペラパレス

蝶々夫人

Madama Butterfly

ロームシアター京都 メインホール | 2回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／日本語字幕付〉

初演：1904年2月17日／ミラノ・スカラ座

作曲：ジャコモ・プッチーニ 原作：デーヴィッド・ベラスコ 台本：ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイージ・イッリカ

プロダクションについて

新国立劇場「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は2008年から関西公演が始まり、2016年からはロームシアター京都へ会場を移し、『フィガロの結婚』『蝶々夫人』『魔笛』『ドン・パスクワーレ』と上演を重ねてきました。2026年度は京都で4回目の上演となる『蝶々夫人』をお届けします。

『蝶々夫人』はオペラ鑑賞教室でも最も上演の多い作品で、長崎を舞台に、アメリカ海軍士官の夫・ピンカートンへの一途な愛に生きた蝶々さんの悲劇は、初めてオペラを鑑賞する高校生にも深い共感を呼んでいます。栗山民也の演出は、死をもって愛を貫いた蝶々さんの想いをシンプルながらスケールの大きな舞台で描くものです。プッチーニの劇的で叙情的な音楽と、人物の内面を鮮やかに描写する演出が、多感な高校生の想像力を大いに刺激します。



2011年公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、現地妻を娶ろうというアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに新居を案内され、使用人を紹介される。結婚も家もいつでも契約破棄できると豪語するピンカートン。結婚を心待ちにしている花嫁を知るアメリカ総領事シャープレスは、ピンカートンの軽薄さを心配する。花嫁行列がやってきて、美しい花嫁、蝶々さんが現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳。裕福な武士の家の生まれだが父が切腹して亡くなり、今は芸者として生きている。結婚式が慎ましやかに行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人は甘い夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「駒鳥が巣を作る頃に帰る」との言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは再婚を勧めるが、蝶々さんは断る。というのも、ピンカートンとの間に子どもが生まれていたのだ。帰国後ピンカートンがアメリカで本当の結婚をしたことを知るシャープレスは言葉もない。そしてついにピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花で満たして夫の到着を待つが、いつまでたってもやってこない。

スズキの勧めで蝶々さんが奥の部屋で休んでいると、ピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケートが訪れる。スズキの応対で蝶々さんの想いを知ったピンカートンは、堪らず立ち去る。目覚めた蝶々さんはケートを見てすべてを悟り、子どもをアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子どもに別れを告げ、自決。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

ジャコモ・ヅッチーニ
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2026

蝶々夫人

Giacomo Puccini / Madama Butterfly

全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 城谷正博
Conductor JOYA Masahiro

演出 栗山民也
Production KURIYAMA Tamiya

美術 島次郎
Set Design SHIMA Jiro

衣裳 前田文子
Costume Design MAEDA Ayako

照明 勝柴次郎
Lighting Design KATSUSHIBA Jiro

蝶々夫人 伊藤晴
Madama Butterfly ITO Hare

ピンカートン 村上公太
Pinkerton MURAKAMI Kota

シャープレス 成田博之
Sharpless NARITA Hiroyuki

スズキ 花房英里子
Suzuki HANAFUSA Eriko

ゴロー 糸賀修平
Goro ITOGA Shuhei

ポンゾ 斎木健詞
Lo zio Bonzo SAIKI Kenji

ヤマドリ 高橋正尚
Il principe Yamadori TAKAHASHI Masanao

ケート 杉山由紀
Kate Pinkerton SUGIYAMA Yuki

合唱 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽 京都市交響楽団
Orchestra City of Kyoto Symphony Orchestra

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場

助成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

2026年10月26日(月)13:00	28日(水)13:00
---------------------	-------------

【料金】

2,750円（高校生及び引率教員【学校団体】）

残席がある公演日に限り、高校生以下、一般販売を行います。

【会場】

ロームシアター京都 メインホール

森は生きている

The Twelve Months

中劇場 | 2回公演 | 全2幕〈室内オーケストラ版／日本語上演・日本語字幕付〉

○会員先行販売期間：2026年4/19(日)～4/28(火) ○一般発売日：2026年5/6(水・休)

初演：1992年9月22日／東京都中央区立中央会館（オペラシアターこんにゃく座公演、ピアノ版）

作曲・台本：林光 原作：サムイル・マルシャーク

プロダクションについて

新国立劇場では、平成17年度から現代舞台芸術に関する地域交流事業として、全国各地のすぐれた作品を新国立劇場との共催で上演する「地域招聘公演」を行ってきました。2026年は滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール制作の『森は生きている』を招聘します。

びわ湖ホールは1998年に開館。開館以来、国内外の優れた舞台芸術を提供するとともに、劇場独自の創造活動の核となる劇場専属声楽家集団「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を設立して、オペラをはじめとする舞台芸術作品を自主制作しています。

『森は生きている』はロシアの児童文学作家サムイル・マルシャークの原作を湯浅芳子が訳した作品をもとに、林光が台本を作成し作曲したものです。若杉弘びわ湖ホール初代芸術監督の発案により、2000年にオペラ歌手が歌い演じてこそこの作品として室内オーケストラ版で新制作し、再演を重ねてきました。珠玉のメロディと親しみやすい日本語で紡がれ、子どもから大人までお楽しみいただけます。

なお、本プロダクションは、26年5月9日（土）・10日（日）にびわ湖ホール中ホールで上演予定です。



2023年公演より

あらすじ

ある大きな国のおおみそか。むすめは、わがままな女王が気まぐれに出した“おふれ”的ために、冬に咲くはずのないマツユキ草を探しに雪深い森へ出かけます。そこで出会ったのは12の月の精たち。心優しいそのむすめのために4月の精は、ほかの月の精たちに頼んで1時間だけ「時」をゆずってもらいます。すると雪は消え、目の前にはたくさんのマツユキ草が…！

マツユキ草を手に入れたむすめは、12の月の精の秘密を誰にも話さないと約束し、4月の精に指輪をもらい帰ります。そしてマツユキ草を渡された女王は、廷臣たちが引きとめるにもかかわらず、自らもマツユキ草を摘むために、むすめの指輪を持って吹雪の森へと出かけていきます。そこで冬の森の厳しい寒さや大変な経験を経て、女王は大切なことを学ぶのでした。

林光
新国立劇場 地域招聘オペラ公演2026 びわ湖ホール

森は生きている

HAYASHI Hikaru / The Twelve Months

全2幕〈室内オーケストラ版／日本語上演・日本語字幕付〉

指揮..... 阪 哲朗
Conductor BAN Tetsuro

演出..... 中村敬一
Production NAKAMURA Keiichi

美術..... 増田寿子
Set Design MASUDA Sumiko

衣裳..... 半田悦子
Costume Design HANDA Etsuko

照明..... 山本英明
Lighting Design YAMAMOTO Hideaki

キャスト..... びわ湖ホール声楽アンサンブル
Cast BIWAKO HALL Vocal Ensemble

ピアノ..... 寺嶋陸也
Piano TERASHIMA Rikuya

管弦樂..... 日本センチュリー交響樂団
Orchestra Japan Century Symphony Orchestra

2026年7月18日(土)14:00 19日(日)14:00

【料金】

一般：6,600円／青少年（24歳以下）：2,750円

【会場】

中劇場

Opera

公演一覧

開場記念公演～2025/2026シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997.10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997.11/22
	アイーダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバッロ	フランコ・ゼッフィレッリ	1998.01/15
1998/ 1999	蝶々夫人*	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998.04/08
	魔笛*	W.A.モーツアルト	大野和士	ミヒヤエル・ハンベ	1998.05/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ=ディアツ	1998.06/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998.09/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998.10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーデインク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998.11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999.01/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999.02/13
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	北原幸男	寺崎裕則	1999.04/21
	罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999.06/18
1999/ 2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッジーニ	1999.09/21
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999.11/06
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュテイ	栗山昌良	1999.12/18
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツアルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000.01/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロッリ	栗園淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000.02/20
	沈黙*	松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000.03/16
	サロメ*	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファーディング	2000.04/11
	ドン・キショット*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000.05/07
	リゴレット*	G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッジーニ	2000.06/11
	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2000.09/21
2000/ 2001	魔笛	W.A.モーツアルト	村中大祐	ミヒヤエル・ハンベ	2000.10/10
	エウゲニ・オネーゲン*	P.チャイコフスキイ	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ポクロフスキイ/ヴェラ・カルパチョワ	2000.10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲツ・フリードリヒ	2000.11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000.12/02
	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッジーニ	2001.01/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロッリ	アルベルト・ファッジーニ	2001.02/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001.03/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッジーニ	2001.05/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001.06/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン=ピエール・ボネル	2001.07/05
2001/ 2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウゴ・デ・アナ	2001.09/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001.11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツアルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001.11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッジーニ	2001.12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーデインク	三澤洋史	西澤敬一	2002.01/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002.01/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッジーニ	2002.02/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002.03/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファーディング	2002.05/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002.05/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2002.06/07

★=新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/ 2003	椿姫★	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002.09/05
	ルチア★	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴィンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァリーニ	2002.10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロッリ	栗國淳	2002.10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッラ	アルベルト・ファッシーニ	2002.11/21
	ナクソス島のアリアドネ★	R.シュトラウス	児玉宏	ハンス=ペーター・レーマン	2002.12/12
	光★	一柳慧	若杉弘	松本重孝	2003.01/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉弘	鈴木敬介	2003.01/31
	ジークフリート★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003.03/27
	ラ・ボエーム★	G.プッチーニ	アントニオ・ピロッリ	栗國淳	2003.04/19
	オテロ★	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジヤ・モシンスキー	2003.06/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	2003.09/14
	フィガロの結婚★	W.A.モーツアルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003.10/10
2003/ 2004	トスカ	G.プッチーニ	ジェラール・コルステン	アントニッコ・マダウ=ディアツ	2003.11/09
	ホフマン物語★	G.オッフェンバック	阪哲朗	フィリップ・アルロー	2003.11/28
	鳴神★／俊寛★	間宮芳生／清水修	秋山和慶	市川團十郎	2004.01/30
	スペインの焼き★	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004.02/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファーディング	2004.02/27
	神々の黄昏★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004.03/26
	マクベス★	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス=マルティネス	野田秀樹	2004.05/13
	ファルスタッフ★	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004.06/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004.06/28
	カヴァレリア・ルスティカーナ★／道化師★	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	阪哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004.09/09
2004/ 2005	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	栗國淳	2004.09/25
	エレクトラ★	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス=ペーター・レーマン	2004.11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉弘	ルーカ・ロンコーニ	2004.11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005.01/17
	ルル★	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005.02/08
	おさん—「心中天網島」より★	久保摩耶子	神田慶一	栗國淳	2005.02/25
	コジ・ファン・トゥッテ★	W.A.モーツアルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	2005.03/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツアルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005.04/07
	フィデリオ★	L.v.ベートーヴェン	ミヒヤエル・ボーダー	マルコ・アルトウロ・マレッリ	2005.05/28
	蝶々夫人★	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005.06/24
	ニュルンベルクのマイスターイジンガー★	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ペルント・ヴァイクル	2005.09/14
	セビリアの理髪師★	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005.10/14
2005/ 2006	アンドレア・シェニエ★	U.ジョルダーノ	ミゲル・ゴメス=マルティネス	フィリップ・アルロー	2005.11/20
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	阪哲朗	フィリップ・アルロー	2005.11/27
	魔笛	W.A.モーツアルト	服部謙二	ミヒヤエル・ハンペ	2006.01/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツアルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	2006.02/04
	愛怨★	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006.02/17
	運命の力★	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006.03/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイージ	グリシャ・アサガロフ	2006.04/05
	こうもり★	J.シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006.06/14

★=新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス=マルティネス	マルコ・アルトウーロ・マレッリ	2006.09/07
	イドメネオ*	W.A. モーツアルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006.10/20
	フィデリオ	L.v. ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトウーロ・マレッリ	2006.11/30
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	ミケーレ・カルッリ	ヨーゼフ・E. ケップリング	2006.12/01
	さよよるオランダ人*	R. ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007.02/25
	運命の力	G. ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチーニ	エミリオ・サージ	2007.03/15
	蝶々夫人	G. プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007.03/22
	西部の娘*	G. プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007.04/15
	ばらの騎士*	R. シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007.06/06
	ファルスタッフ	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007.06/13
2007/ 2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R. ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス=ペーター・レーマン	2007.10/08
	フィガロの結婚	W.A. モーツアルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007.10/18
	カルメン*	G. ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007.11/25
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	マウリツィオ・バルバチーニ	栗國 淳	2008.01/20
	サロメ	R. シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファーディング	2008.02/03
	黒船一夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008.02/22
	アイーダ	G. ヴェルディ	リッカルド・フリツァ	フランコ・ゼッフィレッリ	2008.03/10
	魔弾の射手*	C.M.v. ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008.04/10
	軍人たち*	B.A. ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008.05/05
	椿姫	G. ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008.06/05
2008/ 2009	トゥーランドット*	G. プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008.10/01
	リゴレット	G. ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッジーニ	2008.10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A. モーツアルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	2008.12/05
	蝶々夫人	G. プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009.01/12
	こうもり	J. シュトラウスII世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009.01/27
	ラインの黄金	R. ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォナー	2009.03/07
	ワルキューレ	R. ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォナー	2009.04/03
	ムツエンスク郡のマクベス夫人*	D. ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009.05/01
	チェネントラ*	G. ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン=ピエール・ボネル	2009.06/07
	修禅寺物語*	清水 倏	外山雄三	坂田藤十郎	2009.06/25
2009/ 2010	オテロ*	G. ヴェルディ	リッカルド・フリツァ	マリオ・マルトーネ	2009.09/20
	魔笛	W.A. モーツアルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009.10/29
	ヴォツェック*	A. ベルク	ハルトムート・ヘンヒエン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009.11/18
	トスカ	G. プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009.12/02
	ジークフリート	R. ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォナー	2010.02/11
	神々の黄昏	R. ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォナー	2010.03/18
	愛の妙薬*	G. ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	2010.04/15
	影のない女*	R. シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010.05/20
	カルメン	G. ビゼー	マウリツィオ・バルバチーニ	鶴山 仁	2010.06/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	2010.06/24
2010/ 2011	アラベッラ*	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010.10/02
	フィガロの結婚	W.A. モーツアルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010.10/10
	アンドレア・シェニエ	U. ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010.11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R. ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィィカー	2010.12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011.02/04
	椿姫	G. ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011.02/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G. プッチーニ	リッカルド・フリツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R. シュトラウス	マンフレッド・マイヤーホーファー	ジョナサン・ミラー	2011.04/10
	コジ・ファン・トウッテ*	W.A. モーツアルト	ミゲル・ゴメス=マルティネス	ダミアーノ・ミキエレット	2011.05/29
	蝶々夫人	G. プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011.06/06

*=新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G. ヴェルディ	ピエトロ・リツォ	ウルリッヒ・ペータース	2011.10/02
	サロメ	R. シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファーディング	2011.10/09
	ルサルカ*	A. ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラーン	2011.11/23
	こうもり	J. シュトラウスII世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011.12/01
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	コンスタンティン・トリンクス	栗國 淳	2012.01/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012.02/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012.03/08
	オテロ	G. ヴェルディ	ジャン・レイサム=ケニック	マリオ・マルトーネ	2012.04/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツアルト	エンリケ・マツオーラ	グリシャ・アサガロフ	2012.04/19
	ローエングリン*	R. ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012.06/01
2012/ 2013	ピーター・グラムズ*	B. ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012.10/02
	トスカ	G. プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2012.11/11
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E. ケップリング	2012.11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R. ワーグナー	コンスタンティン・トリンクス	ハンス=ペーター・レーマン	2013.01/23
	愛の妙薬	G. ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チエザレ・リエヴィ	2013.01/31
	アイーダ	G. ヴェルディ	ミヒヤエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013.03/11
	魔笛	W.A. モーツアルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒヤエル・ハンペ	2013.04/14
	ナブッコ*	G. ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013.05/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツアルト	イヴ・アベル	ダミアーノ・ミキエレッティ	2013.06/03
	夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013.06/25
2013/ 2014	リゴレット*	G. ヴェルディ	ピエトロ・リツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013.10/03
	フィガロの結婚	W.A. モーツアルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013.10/20
	ホフマン物語	J. オッフェンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013.11/28
	カルメン	G. ビゼー	アイナルス・ルビキス	鶴山 仁	2014.01/19
	蝶々夫人	G. プッチーニ	ケリー=リン・ウイルソン	栗山民也	2014.01/30
	死の都*	E.W. コルンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014.03/12
	ヴォツェック	A. ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014.04/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ*/ 道化師*	P. マスカーニ／ R. レオンカヴァッロ	レナート・バルンボ	ジルベール・デフロ	2014.05/14
	アラベッラ	R. シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014.05/22
	鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鶴山 仁	2014.06/19
2014/ 2015	パルジファル*	R. ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クプファー	2014.10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツアルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014.10/16
	ドン・カルロ	G. ヴェルディ	ピエトロ・リツォ	マルコ・アルトウーロ・マレッリ	2014.11/27
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015.01/18
	こうもり	J. シュトラウスII世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015.01/29
	マノン・レスコー*	G. プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015.03/09
	運命の力	G. ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サーヒ	2015.04/02
	椿姫*	G. ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015.05/10
	ばらの騎士	R. シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015.05/24
	沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015.06/27
2015/ 2016	ラインの黄金*	R. ワーグナー	飯守泰次郎	ゲツツ・フリードリヒ	2015.10/01
	トスカ	G. プッチーニ	エイヴィン・グルベルグ・イエンセン	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2015.11/17
	ファルスタッフ	G. ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015.12/03
	魔笛	W.A. モーツアルト	ロベルト・バーテルノストロ	ミヒヤエル・ハンペ	2016.01/24
	イエヌーファ*	L. ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016.02/28
	サロメ	R. シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファーディング	2016.03/06
	ウェルテル*	J.E.F. マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016.04/03
	アンドレア・シェニエ	U. ジョルダーノ	ヤデル・ビニャミニー	フィリップ・アルロー	2016.04/14
	ローエングリン	R. ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016.05/23
	夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016.07/01

* =新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/ 2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲツ・フリードリヒ	2016.10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	栗國淳	2016.11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリング	2016.11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鶴山仁	2017.01/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017.02/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャンパオロ・ビザンティ	ジャン=レイ・グリンダ	2017.03/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017.04/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツアルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017.04/20
	ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲツ・フリードリヒ	2017.06/01
2017/ 2018	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲツ・フリードリヒ	2017.10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリツツア	ヴァンサン・ブサール	2017.11/16
	ばらの騎士	R.シトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017.11/30
	こうもり	J.シュトラウスII世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018.01/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシャ・ヴァルツ	2018.02/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバスティアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018.02/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チエーザレ・リエヴィ	2018.03/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018.04/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018.05/20
2018/ 2019	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2018.07/01
	魔笛*	W.A.モーツアルト	ローラント・ベア	ウィリアム・ケントリッジ	2018.10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン=リュック・タンゴー	鶴山仁	2018.11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッソイ	ジョナサン・ミラー	2018.12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス=ペーター・レーマン	2019.01/27
	紫苑物語*	西村朗	大野和士	笈田ヨシ	2019.02/17
	ウェルテル	J.E.F.マスキ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019.03/19
	フィレンツェの悲劇*/ ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキイ／ G.プッチーニ	沼尻竜典	栗國淳	2019.04/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツアルト	カーステン・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019.05/17
2019/ 2020	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019.06/01
	トーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019.07/18
	エウゲニ・オネーゲン*	P.チャイコフスキイ	アンドリー・ユルケヴィチ	ドミトリー・ベルトマン	2019.10/01
	ドン・パスクワーレ*	G.ドニゼッティ	コッラード・ロヴァーリス	ステファノ・ヴィツィオーリ	2019.11/09
	椿姫	G.ヴェルディ	イヴァン・レブシチ	ヴァンサン・ブサール	2019.11/28
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・カリニャーニ	栗國淳	2020.01/24
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヨーゼフ・E.ケップリング	2020.02/06
	コジ・ファン・トゥッテ(公演中止)	W.A.モーツアルト	パオロ・オルミ	ダミアーノ・ミキエレット	
	ジュリオ・チェーザレ*(公演中止)	G.F.ヘンデル	リナルド・アレッサンドリーニ	ロラン・ペリー	
2020/ 2021	ホフマン物語(公演中止)	J.オッフェンバック	マルコ・レトニヤ	フィリップ・アルロー	
	サロメ(公演中止)	R.シトラウス	コンスタンティン・トリンクス	アウグスト・エファー=ディング	
	ニュルンベルクのマイスター=ジンガー*(公演中止)	R.ワーグナー	大野和士	イエンス=ダニエル・ヘルツォーク	
	夏の夜の夢*	B.ブリテン	飯森範親	レア・ハウスマン (デイヴィッド・マクヴィーの演出に基づく)	2020.10/04
	アルマゲドンの夢*	藤倉大	大野和士	リディア・シュタイア	2020.11/15
	こうもり	J.シュトラウスII世	クリストファー・フランクリン	ハインツ・ツェドニク	2020.11/29
	トスカ	G.プッチーニ	ダニエレ・カッレガーリ	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2021.01/23
	フィガロの結婚	W.A.モーツアルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2021.02/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	大野和士／城谷正博	ゲツ・フリードリヒ	2021.03/11
	夜鳴きうぐいす*/ イオランタ*	I.ストラヴィンスキイ／ P.チャイコフスキイ	高関健	ヤニス・コッコス	2021.04/04
	ルチア	G.ドニゼッティ	スペランツァ・スカッピッチ	ジャン=レイ・グリンダ	2021.04/18
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マルコ・アルトウーロ・マレッリ	2021.05/20
	カルメン*	G.ビゼー	大野和士	アレックス・オリエ	2021.07/03

*=新制作 ■ 2026/2027シーズンより「エウゲニ・オネーゲン」から「エフゲニー・オネーゲン」へ統一します。

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2021/ 2022	チェネレントラ★	G.ロッシーニ	城谷正博	栗國淳	2021.10/01
	ニュルンベルクのマイスター・ジンガー★	R.ワーグナー	大野和士	イエンス=ダニエル・ヘルツォーク	2021.11/18
	蝶々夫人	G.プッチーニ	下野竜也	栗山民也	2021.12/05
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	ガエタノ・デスピノーサ	マティアス・フォン・シュテークマン	2022.01/26
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ガエタノ・デスピノーサ	チエーザレ・リエヴィ	2022.02/07
	椿姫	G.ヴェルディ	アンドリー・ユルケヴィチ	ヴァンサン・ブサール	2022.03/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	サッシャ・ゲツツェル	ジョナサン・ミラー	2022.04/03
	魔笛	W.A.モーツアルト	オレグ・カエターニ	ウイリアム・ケントリッジ	2022.04/16
	オルフェオとエウリディーエ	C.W.グルック	鈴木優人	勅使川原三郎	2022.05/19
	ペレアスとメリザンド★	C.ドビュッシー	大野和士	ケイティ・ミッセル	2022.07/02
2022/ 2023	ジュリオ・チエーザレ★	G.F.ヘンデル	リナルド・アレッサンドリーニ	ロラン・ペリー	2022.10/02
	ボリス・ゴドウノフ★	M.ムソルグ斯基	大野和士	マリウシュ・トレリンスキ	2022.11/15
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツアルト	パオロ・オルミ	グリシャ・アサガロフ	2022.12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アレホ・ペレス	ハンス=ペーター・レーマン	2023.01/28
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	コッラード・ロヴァーリス	ジョナサン・ミラー	2023.02/10
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	2023.03/15
	アイーダ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	フランコ・ゼッフィレッリ	2023.04/05
	リゴレット★	G.ヴェルディ	マウリツィオ・ベニーニ	エミリオ・サーヴィ	2023.05/18
	サロメ	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリニクス	アウグスト・エファーディング	2023.05/27
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	大野和士	栗國淳	2023.06/28
2023/ 2024	修道女アンジェリカ★／ 子どもと魔法★	G.プッチーニ／ M.ラヴェル	沼尻竜典	栗國淳	2023.10/01
	シモン・ボッカネグラ★	G.ヴェルディ	大野和士	ピエール・オーディ	2023.11/15
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	パトリック・ハーン	ハインツ・ツェドニク	2023.12/06
	エウゲニ・オネーギン■	P.チャイコフ斯基	ヴァレンティン・ウリューピン	ドミニー・ベルトマン	2024.01/24
	ドン・パスクワーレ	G.ドニゼッティ	レナート・バルサドンナ	ステファノ・ヴィツィオーリ	2024.02/04
	トリスタンとイゾルデ	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2024.03/14
	椿姫	G.ヴェルディ	フランチェスコ・ランツィロッタ	ヴァンサン・ブサール	2024.05/16
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツアルト	飯森範親	ダミアーノ・ミキエレット	2024.05/30
	トスカ	G.プッチーニ	マウリツィオ・ベニーニ	アントニオ・マダウ=ディアツ	2024.07/06
	夢遊病の女★	V.ベッリーニ	マウリツィオ・ベニーニ	バルバラ・リュック	2024.10/03
2024/ 2025	ウィリアム・テル★	G.ロッシーニ	大野和士	ヤニス・ココス	2024.11/20
	魔笛	W.A.モーツアルト	トマーシュ・ネトピル	ウィリアム・ケントリッジ	2024.12/10
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	マルク・アルブレヒト	マティアス・フォン・シュテークマン	2025.01/19
	フィレンツェの悲劇／ ジャンニ・スキッキ	A.ツェムリンスキイ／ G.プッチーニ	沼尻竜典	栗國淳	2025.02/02
	カルメン	G.ビゼー	ガエタノ・デスピノーサ	アレックス・オリエ	2025.02/26
	蝶々夫人	G.プッチーニ	エンリケ・マツツオーラ	栗山民也	2025.05/14
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	コッラード・ロヴァーリス	ヨーゼフ・E.ケップリング	2025.05/25
	ナターシャ★	細川俊夫	大野和士	クリスティアン・レート	2025.08/11
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・オルミ	栗國淳	2025.10/01
	ヴォツェック★	A.ベルク	大野和士	リチャード・ジョーンズ	2025.11/15
2025/ 2026	オルフェオとエウリディーエ	C.W.グルック	園田隆一郎	勅使川原三郎	2025.12/04
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	ダニエル・コーエン	ハインツ・ツェドニク	2026.01/22
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	エミリオ・サーヴィ	2026.02/18
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツアルト	飯森範親	グリシャ・アサガロフ	2026.03/05
	椿姫	G.ヴェルディ	レオ・フェイン	ヴァンサン・ブサール	2026.04/02
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	マルコ・ギダリーニ	チエーザレ・リエヴィ	2026.05/16
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	アンドリー・ユルケヴィチ	ニコラ・ジョエル	2026.05/24
	エレクトラ★	R.シュトラウス	大野和士	ヨハネス・エラート	2026.06/29

★=新制作 ■ 2026/2027シーズンより「エウゲニ・オネーギン」から「エフゲニー・オネーギン」へ統一します。

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998.07/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999.07/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000.07/12
平成 13 年度	トスカ	G. プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001.07/10
平成 14 年度	トスカ	G. プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002.07/12
平成 15 年度	トスカ	G. プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003.07/11
平成 16 年度	カルメン	G. ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004.07/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005.07/11
平成 18 年度	カヴァレリア・ルスティカーナ	P. マスカーニ	岡本和之	グリシャ・アサガロフ	2006.07/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007.07/09
平成 20 年度	椿姫	G. ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008.07/11
	蝶々夫人（於 あましんアルカイックホール）	G. プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008.11/13
平成 21 年度	トスカ	G. プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009.07/10
	蝶々夫人（於 あましんアルカイックホール）	G. プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009.10/15
平成 22 年度	カルメン	G. ビゼー	石坂 宏	鶴山 仁	2010.07/12
	蝶々夫人（於 あましんアルカイックホール）	G. プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010.10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011.07/11
	愛の妙薬（於 あましんアルカイックホール）	G. ドニゼッティ	石坂 宏	チエザレ・リエヴィ	2011.10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	石坂 宏	栗國 淳	2012.07/12
	愛の妙薬（於 あましんアルカイックホール）	G. ドニゼッティ	城谷正博	チエザレ・リエヴィ	2012.10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G. ドニゼッティ	城谷正博	チエザレ・リエヴィ	2013.07/10
	夕鶴（於 あましんアルカイックホール）	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013.10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014.07/09
	夕鶴（於 あましんアルカイックホール）	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014.11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015.07/10
	蝶々夫人（於 あましんアルカイックホール）	G. プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015.10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016.07/09
	フィガロの結婚（於 ロームシアター京都）	W.A. モーツアルト	広上淳一	アンドreas・ホモキ	2016.10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017.07/10
	蝶々夫人（於 ロームシアター京都）	G. プッチーニ	高閑 健	栗山民也	2017.10/30
平成 30 年度	トスカ	G. プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2018.07/06
	魔笛（於 ロームシアター京都）	W.A. モーツアルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018.10/29
令和元年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	飯森範親	栗山民也	2019.07/06
	蝶々夫人（於 ロームシアター京都）	G. プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2019.10/28
令和 2 年度	夕鶴（公演中止）	團 伊玖磨	三ツ橋敬子	栗山民也	
	魔笛（於 ロームシアター京都）	W.A. モーツアルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2020.10/27
令和 3 年度	カルメン	G. ビゼー	沼尻竜典	アレックス・オリエ	2021.07/09
	ドン・パスクワーレ（於 ロームシアター京都）	G. ドニゼッティ	阪 哲朗	ステファノ・ヴィツィオーリ	2021.10/26
令和 4 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022.07/08
	蝶々夫人（於 ロームシアター京都）	G. プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022.10/25
令和 5 年度	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	阪 哲朗	栗國 淳	2023.07/10
	魔笛（於 ロームシアター京都）	W.A. モーツアルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2023.10/26
令和 6 年度	トスカ	G. プッチーニ	園田隆一郎	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2024.07/11
	ドン・パスクワーレ（於 ロームシアター京都）	G. ドニゼッティ	沼尻竜典	ステファノ・ヴィツィオーリ	2024.10/29
令和 7 年度	蝶々夫人	G. プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2025.07/07
	魔笛（於 ロームシアター京都）	W.A. モーツアルト	城谷正博	ウィリアム・ケントリッジ	2025.10/28

〈特別企画〉

年度	公演	作曲	指揮		公演初日
令和2年度 (公演中止)	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本:島田雅彦	
令和3年度	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本:島田雅彦	2021.08/21

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成12年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W. グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000.06/25
	幸せな間違い	G. ロッシーニ	星出 豊	栗國 淳	2000.09/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v. ウェーバー／A. ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000.12/23
平成13年度	ねじの回転	B. ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001.04/19
	花言葉	R. ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001.10/11
	賢い女	C. オルフ	時任康文	伊藤明子	2002.02/07
平成14年度	シャーロック・ホームズの事件簿〈告白〉	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002.04/25
	なりゆき泥棒	G. ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002.09/12
	無人島	F.J. ハイドン	山上純司	井原広樹	2003.01/23
平成15年度	ドン・ジョヴァンニ	G. ガッツアニーガ	松岡 究	今井伸昭	2003.05/15
	イタリアのモーツアルト	W.A. モーツアルト	平井秀明	恵川智美	2003.11/13
	外套	G. プッチーニ	神田慶一	栗國 淳	2004.02/05
平成16年度	友人フリツツ	P. マスカーニ	渡邊一正	高岸未朝	2004.06/10
	ザザ	R. レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005.03/03
平成17年度	セルセ	G.F. ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006.01/12
平成18年度	フラ・ディアボロ	D.F.E. オペール	城谷正博	田尾下 哲	2007.02/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成20年度	コンサート・オペラ ペレアスとメリザンド	C.A. ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008.06/28
平成21年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C. モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009.05/15
平成23年度	コジ・ファン・トゥッテ 〈演奏会形式〉	W.A. モーツアルト	石坂 宏		2011.05/15
平成24年度	ドン・ジョヴァンニ 〈演奏会形式〉	W.A. モーツアルト	石坂 宏		2012.04/03
平成26年度	さまよえるオランダ人 〈演奏会形式〉	R. ワーグナー	城谷正博		2015.01/16
平成29年度	「ジークフリート」 ハイライトコンサート—邦人歌手による—	R. ワーグナー	城谷正博		2017.05/17

〈子どものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成16年度	ジークフリートの冒險 指環をとりもどせ!	R. ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004.08/06
平成17年度	ジークフリートの冒險 指環をとりもどせ!	R. ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005.07/30
平成18年度	スペース・トゥーランドット	G. プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006.07/28
平成19年度	スペース・トゥーランドット	G. プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007.07/28
平成20年度	ジークフリートの冒險 指環をとりもどせ!	R. ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008.07/25
平成21年度	ジークフリートの冒險 指環をとりもどせ!	R. ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009.07/24
平成23年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R. ワーグナー 「パルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011.07/22
令和7年度	オペラをつくろう! 小さなエントツそうじ屋さん	B. ブリテン	富平恭平(指揮)	澤田康子(上演台本・演出)	2025.05/05

〈文化庁芸術祭〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	国際音楽の日記念コンサート オペラ・ガラコンサート	菊池彦典		2000.10/01
平成 18 年度	新国立劇場開場 10 周年記念 オペラ・バレエ ガラ公演	渡邊一正（第一部） フィリップ・オーギヤン（第二部）		2007.10/01
平成 21 年度	国際音楽の日記念 メリーメリー・ワイドウ 祝祭版～ちょっと陽気な未亡人～	現田茂夫	飯塚勵生	2009.10/01
平成 25 年度	国際音楽の日記念 尾高忠明指揮 新国立劇場合唱団が歌う ベルシャザールの饗宴	尾高忠明		2013.10/01

〈国際交流公演〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 24 年度	2012「日中国民交流友好年」認定行事 オペラ『アイーダ』（コンサート形式）	広上淳一		2012.07/27

〈ニューイヤー オペラパレス ガラ〉

年度	公演	指揮	公演初日
平成 19 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	マウリツィオ・バルバチーニ	2008.01/05
平成 20 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	渡邊一正（バレエ）／菊池彦典（オペラ）	2009.01/05
平成 21 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	大井剛史（バレエ）／菊池彦典（オペラ）	2010.01/05

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007.12/02

〈舞台芸術国際フェスティバル〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 14 年度	舞台芸術国際フェスティバル ねじの回転	B. ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2002.09/28

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙（ザ・カレッジ・オペラハウス）	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005.09/16
平成 18 年度	フィガロの結婚（ひろしまオペラルネッサンス）	W.A.モーツアルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006.10/15
平成 19 年度	ナクソス島のアリアドネ（関西二期会）	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008.01/25
平成 21 年度	月を盗んだ話（札幌室内歌劇場）	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010.01/13
平成 23 年度	鳴砂（仙台オペラ協会）	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011.07/30
平成 25 年度	三文オペラ（びわ湖ホール）	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013.07/12
平成 27 年度	いのち（長崎県オペラ協会）	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015.07/25
平成 29 年度	ミカド（びわ湖ホール）	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017.08/26
令和 2 年度	竹取物語（びわ湖ホール） (公演中止)	沼尻竜典	沼尻竜典	栗山昌良	

Memo

Memo
